

年版)の整理及學術參考品、圖表等の調査にあたりしめ同時に又將來に漸進する學制方針、教學科目より民衆教育體系の考査及び海外留學の各項にいたるまで盡く立案し積極的なる教育方針の樹立に努めた。

いさ参考のため同名に於ける現在の教育状況及び將來の計畫を概述すれば大略下の如くである。

(一) 普通教育

1. 幼兒教育 省立一師範附屬小學校内にある幼稚園生の1組及び女子師範附屬小學校内にある幼稚園の5組は大同元年3月1日より開園した。其他縣立師範學校にして相當の規模を有するものは此種の附屬機關と共に同時に開校した。

2. 國民教育 (甲)省立小學は小學校2校、師中附屬小學7校、小計19校大同元年3月1日一律に開校した。(乙)各縣の小學は各縣管轄内のもの及び各縣區村私立小學校も3月1日開校した。但し學級制の増減は地方によつて夫々異なるものがあつた。

(二) 專門教育

1. 專門教育 滿洲事變直後の事として各縣各學校の過半は休校のやむなきに立ちあつたが、此内開校せるものを下の兩項に分ち概述するを便とする。

甲、省立學校 (A)第1期開校の運びにいたつたものは省立第五師範、省立第六師範及び省立水産高中の3校にして何れも大同元年3月1日開校した (B)第2期開校の運びにいたつたものは省立男女師範5校、男女初中3校、農工商科高中4校の1校は何れも大同元年3月1日開校した。因に其他の普通高

甲、省立學校 遼陽莊河兩縣を立高中學は滿洲事變の後に於ても幸ひ從來通り

依然繼續されてゐたが、其の他の各縣國中學校に於ては特殊の事由なき限りひとしく漸次に復せしむる奉天教育廳の方針である。

2. 職業教育 省立第1農科、職業第1工科、職業第2工科及び女子職業諸校は大同元年3月1日開學した。何れも學生の志向に投じ非常なる盛況振りを呈せてゐる。而して奉天教育廳として、その他の各縣に對しても之を漸次に復せしむる方針である。

3. 特殊教育 奉天省に於ける特殊教育は未だ發達の域に達してゐない。ただ僅かに聾啞學校を有するのみである。然し近き將來、教育會に於ても此種の教育に積極的方針を採り又補助の方針を採用する計畫である。

(三) 其他

甲、課程標準

(A) 小學校 初小の修業科目は7科即ち修身、國語、算術、手工、圖畫、音樂、唱歌であるが、高小の修業科目は修身、國語、算術、歴史、地理、自然、手工、圖畫、體操、唱歌の10科である。

(B) 中學校 從來行はれた三民主義の授業を全廢し之に代るに國文選編、算術、地理の2科を以てし其他の學業は舊制に據つてゐる。

乙、教科書 中小學校用教科書に對しては一流教育家及各校より選抜された主任教員より成る教科書審查委員會に於て之が審査前に採用其他を決せしめてゐる。

(四) 海外留學生事項

海外留學生に關しては從來各省區より選抜されてゐたが將來、滿洲國政府文教部に於て統一する模様である。

(五) 社會教育

奉天省の社會教育機關としては滿洲國建國以前に於て既に、圖書館、博物館、講

演所、民衆學校、公衆體育場、民衆學校等あつたが、滿洲事變之際し之等機關の殆んど大部分は休止のやむなきにいたつた。然し奉天教育廳は之等の諸機關の中急を要するものより漸次整理に着手し今日の狀態を見るにいたつた。

1. 圖書館の現状 省立圖書館は現在僅かに1箇所であるが、該圖書館は前清光緒3年の施設にかかり蔵書93,978冊と註されてゐる。爾來増築と共に新版書の購入につとめ、一面閱覽室を設け一般公衆に開放し又講演部を設けて民衆の讀書趣味の向上に資するところあつた。其他同館内に圖書館講習學校を設立し圖書館を員の人材養成につとめ

| 名 | 所 | 地 | 點 | 設立年月 | 資産及設備 |
|------------|---|---|---|---------|------------|
| 法庫縣立寶川講演所 | 縣 | 城 | 中 | 11年2月 | 教室3間 器物20種 |
| 安東市立通俗教育講所 | 縣 | 城 | 中 | 14年5月 | 教室2間 器物15種 |
| 地岩縣通俗教育講所 | 縣 | 城 | 中 | 14年7月 | 教室3間 椅子40組 |
| 雙山縣通俗教育講所 | 縣 | 城 | 中 | 11年7月 | 中庭3間 |
| 西安縣立通俗教育講所 | 縣 | 城 | 南 | 清宣統2年7月 | 教室3間 器物54種 |
| 立山縣立通俗教育講所 | 縣 | 城 | 南 | 2年7月 | 教室4間 器物32種 |
| 遼陽縣立通俗教育講所 | 縣 | 城 | 南 | 16年 | 教室2間 器物5種 |
| 西龍縣通俗教育講所 | 縣 | 城 | 南 | 14年1月 | 教室3間 器物20種 |
| 西龍縣山城講演所 | 縣 | 城 | 南 | 14年7月 | 教室5間 器物22種 |
| 鳳城縣通俗教育講所 | 縣 | 城 | 南 | 3年9月 | 教室3間 椅子15組 |
| 西龍縣通俗教育講所 | 縣 | 城 | 南 | 13年11月 | 教室3間 器物25種 |
| 遼中縣通俗教育講所 | 縣 | 城 | 南 | 16年9月 | 教室3間 器物5種 |

4. 閱報處 奉天全省に於ける公共閱報社は7箇所を有する。主として雜誌新聞を陳列し一般公衆の閱覽に便せしめてゐる。然るに地方財力の疲弊により現在殆んど休館してゐる。而して奉天教育廳は大同2年度より下記公共閱報處の復活につとむる計畫である。

| 名 | 所 | 地 | 點 | 設立年月 | 資産及設備 |
|-----------|---|---|---|--------|------------|
| 鞍山縣立公共閱報社 | 縣 | 城 | 中 | 17年11月 | 教室5間 器物10種 |
| 彰陽縣立公共閱報社 | 縣 | 城 | 中 | 14年9月 | 教室3間 器物12種 |
| 開原縣立公共閱報社 | 縣 | 城 | 中 | 14年3月 | 閱覽室1間 器物8種 |
| 法庫縣立通俗閱報社 | 縣 | 城 | 中 | 14年3月 | 閱覽室1間 器物6種 |
| 安東市立公共閱報社 | 縣 | 城 | 中 | 14年5月 | 閱覽室2間 器物6種 |
| 海龍縣立閱報社 | 縣 | 城 | 中 | 15年3月 | 閱覽室1間 器物9種 |

た。因に奉天教育廳が中心となり大同2年中に實現せしめんとする縣立圖書館の數は35箇所とされてゐる。

2. 博物館の現状 奉天博物館は民國18年の開館にかかる。館内には主として清朝の遺物を陳列してゐたが滿洲事變後久しく封鎖され爾來之が整理につとめてゐた。奉天教育廳は内部の陳列を整頓し大同元年6月より之を開館した現在は整理上觀覽料制度を採用しひたすら内容の充實を計つてゐる。

3. 講演所の現状 全省に於ける通俗講演所は12箇所を有する。専ら王道の眞諦を普及せしめ救世思想によつて民風

| 名 | 所 | 地 | 點 | 設立年月 | 資産及設備 |
|----------|---|---|---|--------|------------|
| 遼陽縣民衆閱報所 | 縣 | 城 | 中 | 18年11月 | 閱覽室1間 器物8種 |

5. 民衆學校の現状

A 民衆學校概況 奉天省に於ける民衆學校は滿洲事變後殆んどみな休校した。然し海城、西安、開原、蓋平、復縣、岫巖、昌圖、遼陽、康平、鐵東、海龍、西豐、黑山の11縣に於ては時局の安定を見るや漸次開校の途に就きつつある。級制は別に定つてないが收容人員は多い處で30餘人、最少15—16人平均20餘人にして課程の如きも千字課、算術課、珠算課の3科に過ぎず授業期間は普通4箇月である。授業は毎日午後5時より7時にいたる2時間である。入學者の年齢は15歳—16歳のもの多く中

| | | | |
|-----|---------|-----|-------|
| 二 區 | 九 校 | 二 區 | 二 十 校 |
| | 十 校 | 三 區 | 一 校 |
| | 十一 校 | | 二 校 |
| | 十二 校 | | 三 校 |
| | 十三 校 | | 四 校 |
| | 十四 校 | | 五 校 |
| | 十五 校 | | 六 校 |
| | 十六 校 | | 七 校 |
| | 十七 校 | | 八 校 |
| | 十八 校 | | 九 校 |
| | 賀野村小學校 | | 十 校 |
| | 藤野實業小學校 | | 十一 校 |
| 二 區 | 一 校 | | 十二 校 |
| | 二 校 | | 十三 校 |
| | 三 校 | | 十四 校 |
| | 四 校 | | 十五 校 |
| | 五 校 | | 十六 校 |
| | 六 校 | | 十七 校 |
| | 七 校 | | 十八 校 |
| | 八 校 | | 十九 校 |
| | 九 校 | | 二十 校 |
| | 十 校 | | 二十一 校 |
| | 十一 校 | 四 區 | 二 二 校 |
| | 十二 校 | | 二 三 校 |
| | 十三 校 | | 二 四 校 |
| | 十四 校 | | 二 五 校 |
| | 十五 校 | | 二 六 校 |
| | 十六 校 | | 二 七 校 |
| | 十七 校 | | 二 八 校 |
| | 十八 校 | | 二 九 校 |
| | 十九 校 | | 三 十 校 |

新京特別市 新京特別市に於ては馬場異比教育科科長に、佛秀生氏教育科科長に、李尙忠氏教育科科員に就任し教育を統轄してゐる。尙、新京特別市市政公署の管下にある各學校は下表の如くである。

新京特別市市政公署各學校

| | |
|----------|-----------|
| 市立第一小學校 | 市立第十三小學校 |
| 市立第二小學校 | 市立第十四小學校 |
| 市立第三小學校 | 市立第十五小學校 |
| 市立第四小學校 | 市立第十六小學校 |
| 市立第五小學校 | 市立第十七小學校 |
| 市立第六小學校 | 市立第十八小學校 |
| 市立第七小學校 | 市立第十九小學校 |
| 市立第八小學校 | 市立日蓮小學校 |
| 市立第九小學校 | 市立日蓮小學校 |
| 市立第十小學校 | 市立日蓮小學校 |
| 市立第十一小學校 | 市立日蓮女子中學校 |
| 市立第十二小學校 | |

(4) 教育體系

滿洲國の將來の問題として漸次具體化せんとする教育系統は農工商家政醫學等の實務、實業の實施修得をなす實務學校系統、行政司法教育等の職務に従事する人材の公務員養成系統に大別される。尙、これ以外に特殊専門學科に特別の興味を有し、且天才的才能のあるものは「學術研究機關」に於て研究修學せしめ才能を發揮せしめるのである。

而して學校の區別は國民學校、實務學校、實業學校、實業大學、公務學校、公務大學、教員養成所及び學術研究機關となる。

國民學校 國民學校は小學校であつて6箇年を原則とし、土地の情況に依つて4箇年ともしてゐる。大體都會地は6箇年、地方は4箇年となつてゐるが、何れにしても6箇年程度を以て最高の基準とされる。そして第5學年、第6學年に實科を加へて實業習慣を養成し、滿6歳を以て入學期と定め、更に國民學校以上に修學せんとするものは立國の大本に基き必ず實業、實務學校に入學せしめる。また現存する家塾は漸次これが組織を改め國民學校程度まで上昇せしめることとなつてゐる。國民學校に於ける教科目及び毎週教授時数は、第1學年乃至第4學年に於て修身、國語、算術、自然(自然現象及び人類生活需要の大要)、圖書、音楽、體育外に作業科を置き、簡易なる手工及び實業、手藝を教へ、教授時間数は上級に進むに伴つて増加し、21時間乃至24時間である。更に第5學年及び第6學年は以上教科目の外に歴史、地理及び日本語を増加し、實業に於て農、工、商の大要を教へ、教授時数を20時間乃至30時間とする。このうち日本語は他の教科目の割當時間を減じて土地の情況により1週3時間までの時間を取ることが出来る。この國民學校を以て普通教育を終了する。

實務學校 實務學校は専門教育の初等に屬し、入學資格は國民學校卒業者であつて修業年限3箇年以内を原則とし、成るべく實際的たらしめ、簡易なるものは工場病院商館等に附設することも、農工商總合的に經營することも自由であるが、學科本位とせず實習本位とするものである。實務學校の教科目及び毎週の教授時数は教科目を公民、國語文、實務(學科、實習)、音楽、體育及び外國語とし、毎週教授時数の基準を了る時間とする。そのうち實務に重點を置き學科10時間、實習12時間となつてゐる。また第3學年の前半期は校外實習として校外に出て各箇所につき見學實習せしめる。實務學校は各種の性質に依つて經營者に於て2箇年或は1箇年卒業の程度に止むるも妨げず、その修業年限は1箇年乃至3箇年以内となつてゐる。學科目は農、工、商、裁縫、手藝、タイプライター、速記、簿記、珠算、通信、鐵道、自動車、航空、電線、家具、機械修理、時計、寫眞、印刷、測量、製圖、圖案、造園、養蠶、助産、看護、戲院、演藝等につき之を定むることになつてゐるが、實務學校の課程を卒へた者のため3箇年以内の専攻科及び或學科目を選修せしめるため選科生を置くことも出来る。若し、國民學校を滿12歳で卒業し、直ちに實務學校に入學すれば滿15歳を以て卒業出来る譯である。

實業學校 實業學校は専門學校の高等に屬し、入學資格は國民學校卒業程度であり修業年限を5箇年とし、2年迄は普通學を授け3年よりは全く専門的に學習せしめる。而して第1學年、第2學年には普通學の外農工商各科の實際科を設けその目的を選修せしめることとなつてゐる。實業學校は農科、工科、商科に區別して農科實業學校、工科實業學校、商科實業學校とする。

農科實業學校では第1學年と第2學年に公民、國文、數學、物理及化學、博物、外

國語、圖書、音楽、體育の外に作業科として、農工商各業の大要及實習に合計毎週8時間を取り、結局毎教授時間を22時間とする。第3學年以上は公民、國文、外國語、法制及經濟、體育の外に毎週1時間の農業と6時間の農業實習を課し、毎週授業時数を22時間とする。農業實習は後半期は氣候の關係上困難なるため前半期を主とすることになつてをり、第5學年前半期は以外に出で農場試驗室等につき實地練習をなし、外國語は土地の情況に依り日本語、英語の中1科目以上選擇し之を課する。

工科實業學校は第1學年及び第2學年を農科實業學校と同様とし、第3學年以上に於て公民、國文、外國語、工業經濟簿記及び管理法、製圖及圖案、體育の外に毎週12時間の工業及び10時間の工業實習を課し、毎週授業時数20時間とする。第5學年前半期は工場等につき校外實地練習をなし、外國語は土地の情況と學科の性質により適宜選擇して課する。

商科實業學校も第1學年及び第2學年は農科實業學校と同様であるが、外國語を土地の情況により日英兩國語の中1科目以上を選擇せしむることとなつてゐる。第3學年以上も農科と同様であるが農業及び農業實習の代りに毎週12時間の商業と6時間の商業實習とを課せられ、毎週の授業時数は22時間乃至24時間である。第5學年前半期は校外に出で商館等につき實地練習することになつてゐる。

この實業學校は國民學校を滿13歳で卒業して入學すれば滿17歳を以て卒業するが、實務學校と較べて2箇年だけ修業年限が長い。しかし實業學校で最初の2箇年の普通學の習得期間を終れば公務學校に入學出来る。更に全科を卒業すれば實業大學及び同程度の國民學校教員養成所に入學出来る。

實業大學 實業大學は修業年限を3箇年とし入學資格試験に依り入學せしむる。滿

17歳を以て實業學校を卒業して實業大學に入れば滿20歳で卒業出来る。實業大學の卒業者は實業學校教員養成所に入學することが出来る。

公務學校 公務學校は下級官吏を養成する機關であつて、實業學校2年修了者及び之と同等以上の學力、人物により入學せしめ、修業年限を2箇年として専門的に行政司法に關する教育を行ひ、在學期間に地方の實習を行ふ。

公務學校入學者は、公務員となるために一般の普通學に通じ人民の指導者となるべき目的を以て相當の普通學を課せられる。即ち教科目は公民、國文、數學、地理、歴史、體育、外國語(日英)及び公務科となつてをり、毎週教授時數30時間である。公務科にては法律、經濟、財政、統計、社會政策等を教へ毎週15時間が充てられる。また第2第3の兩學年の前4箇月は校外實習を行ふ。

公務大學 公務大學は高級官吏を各養成する機關であつて、公務學校卒業生又は之と同等以上の學力を有する者を入學せしめる。これ等行政、司法等の形而上の職務に従事する人材の養成は人材主義を基調とし相當階級の資格(進士、博士等)修得を目標とする。

教員養成所 教員養成所は國民學校教員、實務學校教員、實業學校教員、實業大學教員、公務學校教員、公務大學教員、國民學校教員養成所の教員、實業學校教員養成所の教員を各養成する。

國民學校教員養成所は甲種と乙種とに別れ、甲種では公民、教育心理、倫理、哲學、體育、音樂、作業、教材研究、外國語(日英露のうち選擇)を課し毎週31時間の教授時間で、また第2學期は實地教授練習を行ふ。乙種では公民、教育及心理、體育、音樂、作業、日本語、教材研究を課し毎週31時間を教授時數とし、第2學期適當の時期

に約1箇月實地練習を行ふ。

實業學校教員養成所は公民、教育及心理、倫理及哲學、體育外國語、(日英露選擇)、教材研究を課し、毎週の教授時數30時間、第3學期適當の時期に約1箇月間實地練習を行ふのである。このうち甲種國民學校教員養成所の修業年限は2箇年、乙種の方は1箇年である。

このうち國民學校教員は實業學校卒業後1箇年又は2箇年の養成所を卒業せしもの實務學校教員は實業學校及び實業大學卒業生、實業學校教員は實業大學卒業生にして更に1箇年の養成所を卒業せる者、實業大學教員は大學教員は大學院卒業生及び學術研究資格者、公務學校教員は公務大學卒業生、公務大學教員及び學術研究資格者、國民學校教員養成所の教員は實業學校教員養成所卒業生、實業學校教員養成所の教員は實業大學院及び學術研究資格者となつてゐる。

學術研究機關 學術研究機關は各種専門の學術を自由に研究せしむるを以て目的とするところ、その部門は文學部、法學部、理學部、工學部、醫學部、農學部、商學部の7學部に別たれ、その設立は獨立機關とするの外、圖書館、陳列館、試驗場、實業學校或は銀行、會社、病院等の私設機關をも附設する事が出来る。これ等各部門の内容は文學部にありては文學科(各區純文學、各區語學、言語學)、哲學科(純哲學、哲學史、教育學、算學、社會學、倫理學、美學、心理學)、史學科(各國歴史、各種文化史)とし、法學部政治、法律、社會學、經濟、經濟地理、理學部數學、物理、化學、天文、地文、生物、地質、礦物、工學部機械、電氣、應用化學、土木、建築、造船、醫藥、醫學部、基礎醫學、衛生學、農學部農學、林業、畜産、園藝、水産、商學部法科、經濟商業となつてゐる。

資格審査委員會 學術研究機關の研究員

には試験及び論文審査に依り乙種甲種及び特別資格を與ふる。研究の結果を研究指導者又は研究所の名に於て發表し、研究擔任助手は指導者に研究論文を提出し資格審査の資料となし、また審査委員會は研究指導者の申告に依り發表せる論文を参照して研究員に資格認定の可否を審査する。研究員に對する資格認定は學校教育に依るものはその修學の履歴に従ひ學校長の認定に依り研究機關に依るものはその實力に従ひ審査委員會の認定に依る。また資格審査委員會に對しては國家が適當なる人に審査委員を任命し委員會を組織する。それ以外に國家が公私の學術研究機關に對し資格審査委員會組織を委任することもある。但し後者の場合その審査資格の程度はその研究機關の内容及び權威の程度に依りて定める。

(5) 私立學校

各省に於ける初等程度の學校は各縣の教育局長より省教育廳長に其指示を仰いで許可する。東省特別區では該管教育廳より特別區長官に其の指示を仰いで許可する。新京特別區では該管教育行政機關より市長の指示を仰いで許可する。中等程度の學校は民政部の指示によつて之を許可する。其の手續は各省にあつては教育廳より長官を經由して申請し、新京特別市では市長より申請する。各省に於ける高等程度の學校は省長より、東省特別區では特別區長官より、新京特別市では市長より民政部の指示を仰いで許可する。設立人が認可を提出するときは、設立者校長及其他職員の名経歴、教育の目的、修業年限及學級編制、教科課程及其の教科書、學校所在地教室及其他建築物の圖面、學費及其の徴收方法、經費豫算及維持方法を記載せる書類を當該官廳に提出する。

(大同5年9月27日民政部訓令第17號)

而して最近に於ける私立學校設立の状況

は次の如くである。

滿洲鏡泊學園 滿洲鏡泊學園は代表大林一人氏等が吉林省長に對し、同學園の敷地並に之が基本財産とせんが爲に土地の買下方を出願して許可を得た。

(大同元年10月6日文教部訓令第1號)

黑龍江民衆日語學校 黑龍江省立民衆教育館は社會の需要に供するため普通日語を應用する人物を養成する目的を以て、黑龍江民衆日語學校を設立する計畫を樹てたが大同元年5月15日黑龍江公署指令を以て設立を許可せられた。同校は民衆教育館内に附設し、編制を暫くの同甲乙兩班に分つて每班學生は40名より50名までを定員とし入學資格は年齢を問はず、高等小學校卒業或は同等の學力を有する者を審査の後即時入學せしめ得る。學期間は6箇月である。

(大同元年5月25日黑龍江省公署指令)

滿蒙人學校 滿蒙人の滿蒙といふスローガンの下に滿蒙人の文化的發展事業を起し、滿洲國の健全なる發達を援助しやうと云ふ目的で過般哈爾濱に設立された滿蒙同志協會は先づ活動の第一歩として、哈爾濱に滿蒙人學校を設立したが、同校は將來滿洲國は滿洲人の手で治めて行くと云ふ根本精神の本に燃發し、滿洲國人の有能なる人物を養成して行くことを目標としてゐる。

(二) 日本側の教育

(1) 教育制度

概況 關東州内の教育施設は概ね關東廳の經營する所で、南滿洲鐵道附屬地のそれは少數の私設學校を除いては悉く滿鐵會社の經營で關東廳之を監督してゐるに過ぎない。言語や課程の關係上、日本人教育、滿洲國人教育の二方法に依つてゐるが、概して、中等教育に於ては、日滿人分離主義を探り、專門及び大學教育は其學制を採つて居る。

日本人教育 日本人教育施設としては小學校、實業補習學校、中學校、高等女學校、實業學校、專門學校、大學等があつて總て内地の諸法令を採用して居るが特に植民地の環境と生徒將來の生活上の要求とに徴し學科目教材の選擇取捨教授訓練には必要な修飾を加へて居る。

尙滿洲の小學教育は全然自由教育で就學を強制しない、關東州内在住鮮人はその數極めて少く子弟教育に對する特別施設がないため、日本側小學校に收容し、國語を解しない者は一定の期間に準備教育を施した後、年齢及び學力に相應した適宜な學年に編入してゐる。南滿洲鐵道附屬地に於ける朝鮮人教育は、大正3年2月安東小學校内の一室を借受けて教育を開始し、次いで鐵嶺、奉天、哈爾濱、撫順、新京、開原の順序で、普通學校を設けた。昭和2年6月15日朝鮮總督府との協定に基づき、滿鐵會社は之等の學校に教員を派遣すると共に毎年經費の補助をなすことになつた。而して、普通學校の施設のない土地では大體小學校に收容して内鮮共學の實を擧げてゐる。

滿洲國人教育 滿洲國人教育施設としては普通學校、公學校、中學校、實業學校、師範學堂等がある。尙支障なき限り日本人教育の各學校に入學することを認めてゐる。概して初等教育に於て日滿兩國の校制を參照し中等教育に於ては大要我國の學制に準據してゐる。

關東軍經營の學校 日本人教育に關しては小學校21、高等女學校3、中學校3、青年訓練所5滿洲國人教育には公學堂11、商業學堂1、農業學堂1、高等公學校1、があり、日滿人教育の爲に設置せる旅順工科大学等がある。此外滿洲國人子弟の初等教育には州内各會屯の設立に係る公立普通學堂121がある。

大連市經營の學校 大連市經營の學校は大連獨生高等女學校と男女義務者養成の爲

の實業學校とがある。

滿鐵會社經營の學校 南滿洲鐵道附屬地に於ける教育事業は滿洲會社が擔當してゐる。現在同社の經營するものは、小學校31、同分教場5、補助學校1、鮮人教育の補助學校13、實業補習學校33、同分校場1、青年訓練所5、女子補習教育に屬する家政女學校13、幼時教育に屬する幼稚園5、同分園1、回補助經營10、滿洲國人教育に屬する公學校10、同補助經營4、日滿學堂1、同種補助學校3、中學校1、商業學校1、日本人中等學校として中學校1、南等女學校1、商業學校1、專門教育に屬するものに滿洲教育專門學校(奉天)、南滿洲工業專門學校(大連)、醫科大學(奉天)の三校がある。尙職業教育として南滿洲工業專門學校附設の職業教育部1、農業及商業實習所各2、工業實習所1、社會教育に屬する參考圖書館3、通俗圖書館21がある。

居留民會經營の學校 滿鐵附屬地に於ける小學校は明治40年12月居留民會の廢止と共に滿鐵會社の經營に移つた。現在錦州、瀋陽、哈爾濱、局子街、頭道溝、琿春、齊齊哈爾等附屬地以外の土地に同會經營のものが存するのみである。

東洋協會經營の學校 大連商業學校、大連女子商業學校及び支那語を研究せしめる旅順附屬學校がある。

日露協會經營の學校 哈爾濱に日露協會學校があつて日本人、露西亞人を收容してゐる。

教科用圖書 小學校の教科書は文部省著作の國定教科書を使用して居るが、滿洲は内地と事情を異にしてゐるので、滿洲の教材を主とした補充教科書を編纂して之を併用して居る。中等學校にあつては文部省檢定済の教科用圖書の内から選定して之を使用し教授上の取扱いに於ては成るべく滿洲の事情に適合せしめて居る。普通學校の教科書は朝鮮總督府編纂の普通學校用教科書を

使用し、滿洲國人の初等教育たる普通學堂、公學堂(公學堂)に使用する教科書は特殊のものを必要とするも、當初は假に修身、日本語漢文等の教科書を作成して使用せしめ若くは支那共和國教育部の審定に依る共和國教科書を代用せしめてみたが、大正11年關東廳及び滿鐵會社は共同して教科書の編纂に着手し、その事業を南滿洲教育會に委託してゐる。

(2) 機育系統

概況 日本人側の各小學校は各中學校、各商業學校、各高等女學校、家政女學校と連絡し、各中學校は日露協會學校、旅順工科大学豫科、滿洲醫科大學豫科、旅順師範學堂教員養成所と連絡するが、各女學校及び家政女學校の連絡すべき上級學校はない。朝鮮人教育の普通學校卒業生も亦内地人同様である。

滿洲國人側の普通學堂は公學校(公學堂)高等科(又は高級)に連絡し、高等科(又は高級)卒業生は商業學校(又は學堂)、鐵山學校、農業學校(學堂)、旅順高等公學校、南滿中學校に連絡し南滿中學校及び高等公學校は旅順工科大学豫科、滿洲醫科大學豫科に連絡する、女子に對する公學堂以上の學校は滿洲文化協會附設の大同女子技藝學校の設備があるのみである。

又滿洲國側と日本側との連絡に於ては滿洲國側小學校の高級卒業生は日本側の旅順工科大学豫科、鐵山學校豫科、農業學校豫科、南滿中學校豫科、旅順第二中學校に連絡する。尙高級中學校卒業生は滿洲醫科大學豫科旅順工科大学豫科に連絡する。

幼兒保育 (昭和6年現在)

| 區名 | 種 | 一立年 | 代別數 | 幼受數 |
|----|----|------|-----|-----|
| 旅順 | 新設 | 昭和6年 | 2 | 67 |
| 中 | 追加 | 昭和6年 | 1 | 50 |
| 中 | 維持 | 昭和6年 | 2 | 80 |

| | | | | | | | | | |
|------|----|----|-------|-------|-----|-------|-------|-----|----|
| 關東州 | 大正 | 日 | 津 | 43.4 | 3 | 93 | | | |
| | | | | 11.7 | 3 | 47 | | | |
| | | | | 11.7 | 4 | 78 | | | |
| | | | | 11.10 | 3 | 63 | | | |
| | | | | 西 | 花 | 場 | 11.11 | 2 | 32 |
| | | | | | | | 11.12 | 4 | 69 |
| | | | | | | | 3.7 | 2 | 34 |
| | | | | | | | 3.9 | 1 | 17 |
| | | | | | | | 3.10 | 2 | 76 |
| | | | | | | | 大 | 津 | 中 |
| 3.11 | 1 | 89 | | | | | | | |
| 3.5 | 2 | 40 | | | | | | | |
| 5.3 | — | 18 | | | | | | | |
| 5.4 | 1 | 15 | | | | | | | |
| 住 | 子 | 子 | 6.11 | 1 | 17 | | | | |
| | | | 11.9 | 1 | 33 | | | | |
| 其 | 房 | 吉 | 43.10 | 2 | 68 | | | | |
| | | | 7.4 | 1 | 21 | | | | |
| 旅 | 大 | 明 | 43.10 | 2 | 76 | | | | |
| | | | 3.4 | 1 | 29 | | | | |
| | | | 10.4 | 1 | 15 | | | | |
| | | | 口 | 保 | 存 | 7.10 | 2 | 66 | |
| | | | | | | 9.4 | 3 | 111 | |
| | | | | | | 42.9 | 3 | 91 | |
| | | | | | | 2.4 | 1 | 15 | |
| | | | 本 | 本 | 日 | 10.10 | 1 | 14 | |
| | | | | | | 42.4 | 5 | 195 | |
| | | | | | | 14.10 | 3 | 117 | |
| 5.5 | 2 | 37 | | | | | | | |
| 9.7 | 2 | 66 | | | | | | | |
| 2.10 | 1 | 23 | | | | | | | |
| 安 | 山 | 中 | | | | 2.5 | 1 | 54 | |
| | | | | | | 5.11 | 2 | 33 | |
| | | | | | | 14.9 | 2 | 63 | |
| | | | | | | 15.4 | 2 | 81 | |
| | | | 3.6 | 1 | 17 | | | | |
| | | | 安 | 山 | 中 | 6.3 | 2 | 31 | |
| | | | | | | 10.11 | 3 | 103 | |
| | | | | | | 10.6 | 5 | 162 | |
| | | | | | | 10.6 | 2 | 67 | |
| | | | | | | 6.11 | 3 | 49 | |
| 朝 | 鮮 | 人 | | | | 6.5 | 2 | 32 | |
| | | | | | | 45.7 | 3 | 70 | |
| | | | | | | 3.4 | 2 | 55 | |
| | | | | | | 8.6 | 2 | 73 | |
| | | | | | | 44.4 | 2 | 51 | |
| | | | 44.4 | 5 | 145 | | | | |
| | | | 大 | 大 | 大 | 6.11 | 2 | 41 | |

(3) 日本人初等教育

明治20年9月大連、旅順に小學校が開設せられて以來逐年學齡兒童の増加著しく現在57校(關東廳經營22校、滿鐵經營35校)あつて其の生徒數は3萬3千に達して居る。教育の主旨及び形式は内地の小學校令に準じ

准内地と異なる點は義務教育でなく、支那語が必須科目になつて居る事である。實業科目として試験的に商工兩科を高等學年に課して居る。

日本人小學校 (昭和7年5月1日現在)

Table with columns: 學校名稱, 設立年月, 級數, 児童數, 卒業數. Lists various schools like 旅順第一尋常高等小學校, 大連第一尋常高等小學校, etc.

Table with columns: 學校名稱, 設立年月, 級數, 児童數, 卒業數. Lists schools like 鳳凰城尋常高等小學校, 安東朝日尋常小學校, etc.

(4) 滿洲國人初等教育

公學堂(校) 明治37年5月金州民政部が金平學堂を設立して漢文の教授を始めたのが日本の滿洲國人教育の嚆矢である。(明治39年官立とし公學堂南金書院と稱す)是より先き38年關東廳は旅順大連に各1學堂を設立して現在に至つた。修業年限は初等科4年高等科2年補習科1年である。一方滿鐵は明治12年蓋平に公學堂を設置したのを始めとし沿線各地に公學堂(現在公學校と稱す)を設けてゐる。修業年限は初級2年高級2年、高級には附屬地外滿洲國初級小學校卒業者の入學に便ならしめるために高級豫科を置く。現在の公學堂(校)總數は22で生總數は12,416名に達してゐる

公學堂校一覽 (昭和7年5月1日現在)

Table with columns: 學堂(校)名, 設立年月, 級數, 児童數, 卒業數. Lists schools like 旅順公學堂, 大連公學堂, etc.

(5) 中等教育

中學校 明治32年關東廳が旅順中學校を設立したのに始まる。現在7校あつて孰れも支那語を必須科目として居る外は内地中學校に準じて居る。滿鐵會社は大正6年滿洲國人に高等普通教育を施すために南滿中學校(高等公學校中學校部)を設けた。

中學校一覽 (昭和7年5月1日現在)

Table with columns: 中學校名, 設立年月, 學級數, 生員數, 卒業數. Lists schools like 旅順第一中學校, 大連第一中學校, etc.

計 9 115 9,760 3,020

(備考) 支那印は滿洲國人教育の中學校で旅順高等公學校中學校部は日本人の中學校と異なる所なく南滿中學校は修業年限理科1年文科4年である

高等女學校 明治33年關東廳旅順高等女學校を設立して以來、小學校の増設に伴ふ入學者の増加は各地に女學校設立の必要を感じ現在8校に及んで居る。支那語を必須科目として課する外總て文部省高等女學校令及び附施行細則に準じて居る。

女學校一覽 (昭和7年5月1日現在)

Table with columns: 校名, 設立年月, 學級數, 生員數, 卒業數. Lists schools like 旅順第一女學校, 大連第一女學校, etc.

計 8 97 3,979 5,768

家政女學校 關東廳は昭和5年4月大連聖徳小學校内に獨立家政女學校を附設した。滿鐵會社は大正2年以來各附屬地小學校に家政女學校(初め實科女學校と稱せ

普通學堂 普通學堂は會村經營に屬し職員はすべて滿洲國人で6歳以上の滿洲國兒童に簡單な初等教育を施してゐる。修業年限4年、土地の状況に應じて補習科1年を置く。之は書房を改善し大正4年6月都府令第17號で關東州普通學堂規則を設け同年4月から實施したものである。

關東州普通學堂 (昭和6年現在)

Table with columns: 地方別, 學級數, 級數, 生員數, 卒業數. Lists schools like 旅順, 大連, etc.

書房及び私立學校 支那從來の教育機關

で一定の組織編制なく頗る不完全なもので州内各部落に散在してゐる。其の設立に關し大正11年廳令書房規則を制定したが、其の施設を防ぐ爲に從來の村出主義を認可主義とし教師資格を一定する規則の改正をした。關東州内在住滿洲國有志によつて設立せる私立學校は何れも關東州私立學校規則によるもので滿洲國人子弟の初等教育を行つてゐる。

關東州内私立書房 (昭和6年現在)

Table with columns: 地方別, 書房數, 教員數, 生徒數. Lists schools like 旅順, 大連, etc.

日語學堂 滿鐵附屬地内外の滿洲國人に

日本語及び商業に關する智能を教授する目的を以て明治45年7月始めて之を鐵道に開設し、本科及び研究科を設けてゐる。本科は修業年限2箇年で、滿洲國初級高小卒業程度の滿洲國人を收容し、研究科は本科卒業程度の日本語學の素養があり、更に進んで研究せんとする者の爲に、研究資料を供給し、之を指導するのを目的としてゐる。

しを大正11年改稱)を附設した。家庭婦人としての必要な教育を授け、修業年限は本科2箇年、専科1箇年である。

家政女学校一覽 (昭和7年5月1日現在)

Table with columns: 校名, 所在地, 設立年月, 学級数, 教員数, 生徒数. Lists schools like 旗大瓦大管, 旗大瓦大管, 旗大瓦大管, etc.

(6) 師範教育

日本人の師範教育は大正9年5月旅順師範學堂に附置教員養成部を附設し、修業年限1年、本科研究科に分ち、本科は中學校卒業者及び之と同等以上の學力を有する者の中より募集し、研究科は内地師範學校を卒業せし者より拔擢入學せしめ共に關東州小學校及び關東州公學堂の教職に従事せしめてゐる。昭和0年5月1日現在に於ける同部の生徒数は20名である。

滿洲國人の初等教育に従事すべき教員養成のため關東廳の經營で大正7年旅順師範學堂が設置された。學科を分ちて本科、補習科、養成科とし本科は修業年限男子4箇年女子3箇年、公學堂(校)高等科卒業者及び之と同等の學力ある10歳以上15歳以下の者を入學せしめ、補習科は男女共に1箇年で本科卒業生を收容し、養成科は州内普通學堂教員を選拔して入學せしめ、教授法の研究をなさしめてゐる。而して總て學費を官給してゐる。

昭和0年末現在に於ける同所の教員数18名、生徒数は男子部108名、女子部67名、

別に養成部20名、計185名である。

(7) 實業教育

明治43年東洋協會が大連に實業補習學校を設けたのに始り、滿洲國人教育の爲には滿鐵が大正9年營口に商業學校を創立したのに始まる。

實業學校一覽 (昭和6年5月1日現在)

Table with columns: 校名, 所在地, 設立年月, 教員数, 生徒数, 卒業数. Lists schools like 大連商業學校, 大連女子商業學校, etc.

(備考) ×印は滿洲國人教育の學校を示したものである

農商工業實習所 滿蒙の地に永住の志を有し、農、商、工業を営むべき堅實な青年を養成し邦人の滿蒙發展に一新生命を拓かしむる目的を以て滿鐵會社は昭和3年4月營口に、同年7月遼陽に各商業實習所を設立し同年7月熊岳城に同年8月公主嶺に各農業實習所を、また昭和4年3月撫順に工業實習所を設置した。而して會社は生徒を總て寄宿舎に收容し農商工業に必要な事項を習得せしめ、殊に農業並に商業實習所の如きは入所中所需費用の大部分を補給してゐる。

Table with columns: 所名, 所在地, 設立年月, 修業年限, 教員数, 生徒数. Lists various training centers like 日商商業實習所, 滿鐵商業實習所, etc.

(8) 專門教育

滿洲工業專門學校 (大連) 従來滿鐵經營の南滿州工業學校を專門學校に昇格して大正11年9月開設した。建設工學科(建築、土木、鑛山、農業土木)、機械工學科(電氣、機械工作、鑛山機械、鑛山機械)の2科に分けられて居り修業年限は2箇年である。

昭和0年末現在學生數228名、教授助教授助手兼託等47名の職員がゐる。

滿洲教育專門學校 (奉天) 滿洲特殊の情況により、初等教育の振興促進を圖る目的を以て大正10年9月開設し11年4月專門學校に昇格した。修業年限は3箇年文科2部、理科2部に分かれ滿鐵附屬地教育に従事する教員を養成してゐる。成績優秀者には中學校教員檢定委員の資格を與へ兵役關係現役たるを得る特典がある。昭和0年末現在生徒數31名、職員數21名である。

因に本校は創立以來8箇年の歴史を有してゐるが、昭和8年3月末日を以て廢校することになつた。その理由とするところは、初等教員の採用難に教職創立趣旨の主たる理由であつたが、現在に於ては事情を異にし優良な初等教育者を内地から採用することが困難でないといふにある。

日露協會學校 (哈爾濱) 故後藤伯を會長とする日露協會の經營に係り大正9年9月に設立せられ、日本人に滿洲及び商事經濟に關する教育を施してゐる。修業年限は3箇年、中學校卒業者にて地方長官の推舉した者を收容する。

(9) 大學教育

従に滿洲に綜合大學を設けんとする計畫があつて、其前提として滿洲高等學校設立の議があつたが行政其他の關係上其實現を

見なかつた。然るに旅順工科學堂及び南滿醫學堂は共に其設備完全なもので、之を基礎として各單科大學とし豫科を附設することが最も捷徑なので、關東廳及び滿鐵は各之が設置の準備をなし旅順工科學堂は大正11年4月勅令第160號、滿洲醫科大學は同年3月勅令第122號を以て夫々設置されるに至つた。

旅順工科學堂 大學令に據り大正11年4月1日設立された單科大學に豫科を設け、滿洲國人學生の爲に豫備科を附設して居る。機械工學、電氣工學、探鑛學、冶金工學に分け選擇科目は可成自由ならしめる方針をとつて居る。昭和0年末現在に於ける教職員事前員合計93名、學生數は豫科日本人151同滿洲國人37、大學日本人137、滿洲國人12總計264名である。

滿洲醫科大學 滿鐵會社は明治44年4月南滿醫學堂を奉天に設置し日滿兩國人に醫學を教授してゐたが大正11年3月大學令に據り昇格した。大學、豫科、專門部及び附屬豫備科に分かれ日滿共學で、專門部(3箇年)は特に滿洲國人に對し實地醫術に必要な學術を教へ、豫科は3箇年、附屬豫備科は1箇年で豫科又は專門部に入らんとする滿洲國人に日本語の豫備教育を施してゐる。昭和7年5月1日現在學生數は大學275名、豫科及び豫備科214名、專門部111名、總數600名で、専任教員數は133名、兼任128名である。

(10) 補習學校施設 (昭和7年5月1日現在)

Table with columns: 校名, 所在地, 設立年月, 教員数, 生徒数, 備考. Lists schools like 滿洲法政學院, 日露協會農商講習學校, etc.

| 校名 | 所在地 | 設立年月 | 教員 | 生徒 | 備考 |
|--------------|------------------|--------|----|-----|--|
| 大同女子技藝學校 | 大連市紀伊町 | 15.5 | 8 | 51 | 中國女子の日常手藝並びに普通學科、科6年、中等科6年、藝學科、音樂部を設置す |
| 關東官廳學校 | 大連市山吹町 | 昭4.10 | 8 | 39 | |
| 大連中華青年會附設小學校 | 大連市北道町 大連市道遠町 | 大10.10 | 18 | 121 | 尋常、高等、補習 |
| 南滿商科學院 | 大連市敬愛町 | 昭6.8 | 8 | 44 | 高等商業一般 |
| 大連日華自動車學校 | 大連市大山道 | 6.12 | 8 | 29 | 自動車工學、自動車修理學其他を教授す |
| 双葉學校 | 大連市瀋陽町 | 7.4 | 13 | 17 | 修身、算學、保健衛生、保育、國語、體育、音樂、其他28箇日を教授す |

大同女子技藝學校 滿洲國人女子の爲家庭の向上發展を圖る目的で關東廳公認、滿洲文化協會經營の中華女子手藝學校を大正15年5月開設し、昭和7年9月滿洲國獨立の爲め大同女子技藝學校と改稱した。本科は修身、國文、日本文、算學、英文、圖書、習字、音樂を主とし、鼓琴、編物、刺繡、染色を附設せしめ、手藝科目のみを修得する爲に選科を設けてゐる。

修業年限は共に2箇年、本科への入學資格は、公學堂(校)高等科卒業程度である。昭和7年12月1日現在教員数は専任4名、講師6名、生徒は本科47名、選科9名である。

(11) 實業補習教育

日滿兩國青少年各自の職業に必要な知識技能を授け、日常生活に必要な教育を施す目的で滿鐵が明治34年附屬地内の各小學校及び公學校に實業補習學教を附設した。學科制(普通、專門)と學年制(2年)に分かれ、修業年限は6箇月を一期とし、課目の難易に依つて修業期間を一期又は數期に分けて居る。目下の處、鞍山と新京とのみが、修業年限2箇年以内の學年制を設けてゐる。

實業補習學校 (昭和7年5月1日現在)

| 校名 | 設立年月 | 教員數 | 生徒數 | 備考 |
|----|-------|-----|-----|----|
| 大連 | 昭6.8 | 13 | 210 | |
| 鞍山 | 昭4.7 | 7 | 91 | |
| 新賓 | 昭2.1 | 8 | 197 | |
| 撫順 | 昭5.8 | 3 | 22 | |
| 本州 | 昭3.17 | 4 | — | |
| 撫順 | 昭3.4 | 3 | 17 | |
| 文房 | 昭4.4 | 6 | 61 | |
| 撫順 | 昭4.4 | 4 | 19 | |

| 校名 | 所在地 | 設立年月 | 教員 | 生徒 | 備考 |
|----|-----|-------|-----|-------|-----------|
| 大石 | 大 | 昭3.4 | 7 | 40 | 休講中 |
| 大石 | 大 | 昭3.5 | 8 | 53 | |
| 大石 | 大 | 昭2.4 | 3 | 30 | |
| 大石 | 大 | 昭8.8 | 8 | 70 | |
| 大石 | 大 | 昭4.4 | 6 | 67 | |
| 大石 | 大 | 昭2.10 | 5 | 45 | |
| 大石 | 大 | 昭4.4 | 20 | 710 | |
| 大石 | 大 | 昭1.9 | 6 | 74 | |
| 大石 | 大 | 昭5.4 | 4 | 42 | 休講中 |
| 大石 | 大 | 昭3.6 | — | — | 休講中 |
| 大石 | 大 | 昭4.6 | 9 | 79 | |
| 大石 | 大 | 昭7.9 | — | — | 休講中 |
| 大石 | 大 | 昭8.12 | — | — | 休講中 |
| 大石 | 大 | 昭4.4 | 4 | 77 | |
| 大石 | 大 | 昭2.10 | 2 | 15 | 新京分校 |
| 大石 | 大 | 昭4.4 | 10 | 355 | |
| 大石 | 大 | 昭4.7 | 7 | 253 | |
| 大石 | 大 | 昭4.7 | 8 | 86 | |
| 大石 | 大 | 昭4.7 | 6 | 19 | |
| 大石 | 大 | 昭4.4 | 4 | — | |
| 大石 | 大 | 昭4.7 | 3 | — | |
| 大石 | 大 | 昭3.12 | — | — | |
| 大石 | 大 | 昭6.6 | 10 | 161 | |
| 大石 | 大 | 昭4.4 | 14 | 212 | |
| 計 | | | 172 | 3,257 | 要對學校11分校型 |

(12) 滿鐵會社補助

滿鐵會社は日語普及のため大正九年から、滿洲華人初等教育機關に教員を派遣し毎年多額の補助を與へてゐる。而して之等諸學校の性質程度は大略日語學堂に類するものである。又同會社は昭和2年6月15日朝鮮總督府との協定に基づいて滿鐵附屬地並びに附近に於ける下記の朝鮮人初等教育機關に經費を補助し、教員を派遣してゐる。

滿鐵會社補助學校一覽

(昭和7年5月1日現在)

| 校名 | 所在地 | 設立年月 | 學級數 | 教員數 | 生徒數 | 學費 | 會社補助費 |
|----|-----|-------|-----|-----|-------|---------|---------|
| 海城 | 大 | 昭5.6 | 2 | 60 | 3 | 6,294 | 6,294 |
| 鞍山 | 大 | 昭11.6 | 6 | 411 | 1 | 7,575 | 7,575 |
| 遼陽 | 大 | 昭2.4 | 2 | 3 | 120 | 6,243 | 6,243 |
| 奉天 | 大 | 昭4.3 | 6 | 3 | 322 | 9,450 | 9,450 |
| 吉林 | 大 | 昭2.4 | 3 | 1 | 171 | 3,741 | 3,940 |
| 安東 | 大 | 昭2.11 | 3 | 2 | 176 | 9,351 | 8,010 |
| 安東 | 大 | 昭2.7 | 3 | — | 97 | 1,363 | 1,224 |
| 安東 | 大 | 昭6.2 | 11 | — | 748 | 7,145 | 3,780 |
| 計 | | | 36 | 15 | 2,115 | 50,168 | 46,531 |
| 吉林 | 大 | 昭3.3 | 3 | — | 107 | 4,215 | 2,600 |
| 鞍山 | 大 | 昭9.1 | 11 | 2 | 665 | 20,422 | 16,800 |
| 遼陽 | 大 | 昭6.5 | 8 | 1 | 353 | 16,837 | 14,557 |
| 奉天 | 大 | 昭13.3 | 7 | 1 | 329 | 10,421 | 10,421 |
| 吉林 | 大 | 昭2.10 | 3 | — | 107 | 3,500 | 3,250 |
| 鞍山 | 大 | 昭11.9 | 7 | 1 | 325 | 12,627 | 12,627 |
| 遼陽 | 大 | 昭9.9 | 7 | 1 | 274 | 11,282 | 10,889 |
| 奉天 | 大 | 昭6.11 | 14 | — | 894 | 23,409 | 18,700 |
| 安東 | 大 | 昭12.2 | 3 | — | 159 | 2,155 | 1,000 |
| 吉林 | 大 | 昭3.5 | 2 | — | 111 | 1,807 | 1,600 |
| 鞍山 | 大 | 昭11.3 | 3 | — | 123 | 2,043 | 500 |
| 遼陽 | 大 | 昭10.7 | 10 | 1 | 542 | 15,442 | 14,621 |
| 計 | | | 80 | 7 | 4,079 | 125,475 | 109,565 |
| 總計 | | | 116 | 20 | 6,134 | 176,643 | 158,096 |

(13) 軍事教育

滿洲に於ける軍事教育の施行は、大正11年9月から内地の例に準じて之を施してゐる。中等學校は1週時間、野外教習は1年に4—5回舉行し、教官は駐副軍より現役將校を配置して其任に當らしめてゐる。

(14) 青年訓練所

昭和2年5月25日勅令を以て青年訓練所に關する件公布せられ同年7月から之を實施してゐる。關東廳の教育的事務とし民政署長の管理に屬し小學校又は補習學校にて行はしむるを常例とし、長官の認可を得た新築、市又は有爲の青年を使用する工場、礦山、商店等に於ても之を行ふことを得せしめて居る。入所者は前年11月30日に於て17歳以上17歳未満の者とし訓練期間を4箇年と定めて居る。日下實施のものは旅順、

大連常盤、大連大廣場、大連育成、沙河口、瓦房店、鞍山、遼陽、奉天、鐵嶺、四平街、德惠、新京、安東の14箇所である。

(15) 教育助成機關

兒童養育資金 大正13年1月、今上天皇陛下御成婚當時一般兒童養育の恩召を以て關東廳に御下賜の2萬圓を基金とし14年4月恩賜財團兒童養育資金を設けた。15年度から其の利子7千圓を以て事業を開始し小學校児童支那補助、貧困児童の學費補助、特務學校補助、鮮人學校(昭和5年度は12校、2,400名)等の補助をなし相當の成績を擧げてゐる。然し同資金設置の主眼たる小學校貧困児童の學費補助は恩賜に添すべきものが少いので、昭和2年度からは額額を擴げて中等學校生徒達に對する補助をもなすに決し、日本人月額10圓、滿洲國人月額5圓とし希望者は學校長を経て關東廳に出願す

ることになつてゐる。

滿鐵獎勵資金 滿鐵は創業20周年記念事業として昭和2、3兩年度から百萬圓を繰出して滿鐵奨學資金財團法人を設けることとなり昭和2年9月關東廳の許可を得、翌年1月から事業を開始した。本財團は監事委員會で詮議決定したるものに奨學金を給與すること、又此の恩典に浴するものの範圍は滿鐵社内外を問はず在滿邦人並びにその子弟に開放してゐる。

昭和7年4月末に於ける支給人員184名で中等學校51名年額7,740圓、專門學校5名同21,234圓、高等學校及び大學豫科28名、同7,980圓、大學37名同16,860圓、研究生9名同11,072圓で、留學生は本年度は1名もゐない。

大連奨學會 (大連小崗子公學堂内)大正10年10月大連民政署管内の初等教育及び學事關係者に依つて教育の改善進歩並びに社會の教化を企圖せんがため自發的に組織され役員は會長副會長及び理事25名を置いてゐる。

金州奨學會 (金州民政署内)大正9年5年28日金州奨學會の名の下に金州、普蘭店、觀子窩の3支會を以て組織し地方官民の盡力と各會有識者多數の贊助を得て忽ち1,600餘名の入會者を得、同年9月28日役員の選任を終り、10月8日發會式を挙げた。爾來各支會夫々各地方の實状に鑑み適當な事業を爲すと共に又一面金州奨學會として各支會の統一制御に任じつゝあつたが、大正13年12月各支會の便宜を顧慮し、各支會を獨立經營せしめた。事業として教育に關する運動、學費の貸與及び補助、善行者節婦表彰、講演會等をなす。

普蘭店奨學會 (普蘭店民政署内)大正9年10月8日金州奨學會普蘭店支會として設立し、大正12年1月1日から分離獨立した。事業として學校教育、社會教育、講習會、製書其他公共事業功勞者並びに善行者の表

彰、教育上必要なる施設等をなす。

新京奨學會 (新京滿鐵地方事務所)故土橋大次郎氏の遺志により、大正9年5月20日財團法人として設立し、新京各種學校の生徒で、將來有爲の者に學費の貸與若しくは給與をなし、一方會社、銀行、商店等の技師人の善行者を表彰するを其主なる目的としてゐる。

旅順興文會 (旅順民政署内)大正8年3月管内の普通學堂教員を以て組織し、普通學堂教員研究會の名稱の下に當時西山民政署長を會長とし、専ら普通學堂教育の改善振興を圖りつつあつたが、大正9年4月に小學校及び公學堂教員を加へ、會名を興文會と改め、大正11年6月更に従來の教育者以外に廣く一般有志を加へ組織を改め目的を擴張して、昭和5年1月會名を旅順興文會と改めた。講演、講習會、研究會、體育會等を開催し圖書を發行して教育の改善に努力して居る。

教科書編輯部 (大連市兒玉町)南滿洲教育會教科書編輯部は大正11年關東廳と滿鐵會社の共同經營になるもので滿洲國人教育のため教科書編纂、邦人生徒の特殊の補助材料の編纂を爲しつゝあるが、滿洲に於ける日本人小學校の理科の如きは同部の手で編纂されるものである。

滿鐵會社から派遣してゐる職員数は0名で、現在に編輯した教科書及び教授用書籍は小學校用9科27冊、公學堂(校)其他中國人學校用11科33冊に及んでゐる。

教育方針の改革 滿洲事變勃發に次ぐ滿洲國の建國により滿洲の新事態はこゝに委を要し、これに依つて滿洲各地日本人各學校の教育方針についても根本的に方向轉換をなすべき必要が生れて來た。即ち學校創極端な排日教科を施してゐた滿鐵學堂政權に對しての教育方針と、日滿協濟、日滿協調を使命とする滿洲國に對する教育方針とは必然的に變化を伴ふもので、勿論滿洲

諸學校では新情勢に適應してそれぞれ親善國に對する最適の教育方針を施しつゝあるが、それ等の間には統一した教育方針もなくこれに對する指導精神も授けられてゐない實状にあり、このため滿鐵地方部學務課では滿鐵經營各學校に對し統一した教育方針を定め指導精神を授けて根本的な教育方針の改革を期し着々研究中で近く滿鐵職制改正による地方部管轄理事および部長の任命を待つて部長に本案を提出、早急に方針の大改革をなすべく計畫中である。而して改正の要點は(1)更に滿洲國の普及をはかり日滿親善を期す(2)従來滿洲の兒童は怠け者と言はれてゐたがこれに勤勉の習慣をつけ滿洲土著の精神を養ふ(3)日滿協調のうへから協調精神國際精神の教育を重んず、等の諸點とされてゐる。尙こゝに注目すべき事實としては更にこれを全滿的に統一すべきであるとする輿論が高く、また單なる方針のみではなく教育制度についても根本的な改正をなし完全に教育機關を統一して滿洲國との關係を密接にならしむべきとの説も有力で既に關東廳でも下調査に着手した模様であるが、これ等の統一には全滿各方面の各種團體(商工會、所、各團體、新聞社等)代表者を網羅する大委員會を設けて滿洲國獨自の教育制度方針を確立すべきであるとの説が最有力である。

(三) 社會教育機關

(1) 關東廳圖書館

大正7年10月旅順千歲町(舊露清銀行跡)關東都督府博物館分館に設置した關東都督府圖書閱覽場が本館の濠場である。大正10年之を關東廳博物館本館内に移し圖書部と

稱したが、其後規模を擴張する必要を認りて、大正14年11月現在の松村町に移轉し博物館圖書部と稱することになつた。爾來読意圖書の蒐集に努め昭和2年1月關東廳博物館附屬圖書館と改稱し、昭和3年7月閱覽規程の公布と共に圖書の帶出を開始し、同年10月舊市街に帶出圖書派生出納所を設置し該地方の利便に資してゐる。昭和4年4月廳令により更に關東廳圖書館と改稱し博物館から分離し、廣く一般の閱覽参考に供してゐる。尙後ねて増築中の最新式洋式三階建の書庫が昭和5年8月竣工した。

(2) 滿鐵圖書館

圖書館が社會教育の有力なる機關にして、又圖書館が學校教育其のものの補助協力の機關として缺くべからざるを認め滿鐵會社は明治30年に大連に、同4年に奉天に各參考圖書館を設置せしを始として漸次沿線主要地に通俗圖書館を設置し、社員並びに一般讀者の閱覽に供することとなつた。而して通俗圖書館を設置してゐるのは、21館で私書冊數總計56萬冊を超え1箇年の存館延人員は100萬に達してゐる。之等各圖書館には圖書館協會を組織し毎月一定の會費を徴收し會員に對し其の希望する所の圖書を配付し、起ながらにして自由圖書の便を圖つてゐる。同圖書館の特色たる巡回圖書制度は圖書館所在地以外の中間驛、小學校分教場或は吉林、洮南、鄭家屯をはじめ、遼く海龍、齊々哈爾、滿洲里に及び、現在巡回箇所數約2百、運轉圖書數1萬3千冊にして一般の閱覽或は貸出を爲してゐる。

尙滿鐵直通列車には列車文庫を備へ其の數15箇列車に及んでゐる。

滿鐵圖書館一覽表

(昭和6年度末現在)

Table with columns: 館名, 閲覧料, 蔵書冊数, 閲覧人員 (総数, 1日平均), 閲覧冊数 (総数, 1日平均), 閉館日数. Lists various libraries like 大日代近埠, 神南瓦大營, etc.

(3) 關東廳博物館

滿鐵博物館と稱し大正6年4月1日旅順松村町に開館したが、同7年11月現在の大道町に移転し、翌8年4月關東廳令に依り關東廳博物館と改稱した。本館、記念館の2館に分かれ、別に附屬植物園(後樂園内)がある。滿蒙に於ける學術技藝(其他の参考資料)を蒐集保存して公衆の閲覧に供し一般の知識及び趣味の向上を圖り兼て學術研究上に必要な資料を供給するを目的とし、本館を動物、植物、水産、礦物、風俗、考古、陶磁器、參考の各部に分け、就中考古、陶磁器部は滿支全土に亘つて資料を仰ぎ特色あるものである。其他先史時代の遺物、有史時代の遺物を陳列してゐる。考古品中には大谷光瑞翁の蒐集した支那、西藏、印度の貴重品7,500點餘があるが、昭和4年9月間は之等の全部を同館に寄附されることになつた。記念館は旅順要塞戦に関する

戦争記念品を蒐集し當年の苦戦の跡を追憶せしむると共に戦史研究に資せしめてゐる。昭和6年末に於ける陳列品點數を擧ぐれば本館75,136、記念館2,489である。

尙ほ昭和5年10月支那及び滿蒙に於ける特色のある動物のみを採集する附屬動物園を設置して一段と光彩を放つてゐる。

Table with columns: 年次, 本館 (閉館日数, 閲覧人数), 記念館 (閉館日数, 閲覧人数). Shows data for 昭和6年, 昭和5年, 昭和4年.

(4) 滿蒙資源館

滿蒙資源館は當初滿蒙物資參考館の名稱を用ひてゐたが昭和3年11月現在の滿蒙資源館と改稱したものである。同館は滿鐵會社の經營に係り、大正15年10月5日を以つて一般に公開せられたものである。

主として滿蒙に於ける資源の實狀を具さ

に紹介して、其刊行費に資すると共に産業の振興發達に寄與せんとし、併せて滿蒙に對する常識の普及、科學知識の向上を目的とするにある。

従つて其主旨を達するため滿蒙の自然資源を礦産、農産、畜産、林産、水産等に概括分類して是等の實物標本を初め、模型圖表等を蒐集作製して、之に適切なる説明解説を與へて陳列すると共に、其等の加工品に素より参考品として日本、朝鮮、支那及

び遠く歐米品をも蒐集し滿蒙の原産品に對照配列して其主旨の諒解に便ならしめ、尙又は等の基礎的或は學術的研究の一般をも併せ示して其目的の達成に努めて居る。従つて同館には自然資源の標本は採集し盡して居るのみならず世界的に珍奇とせらるる標本も尠くない。

尙此外標本類の貸出、各重資源の提供、照會に對する應答、印刷物の發行等の事務をも處理して居る。

(二) 刊行物

出版物取締 明治41年10月内地現行新聞雜誌法を參酌し一般に命令條項の改正を爲し稍取締法規の實質を具備するに至つたが、尙尙一貫した出版法規の制定はない。而して現在は廳令に依る營業取締規則に基づき出版物發行に關する命令條項、豫約出版に關する命令條項、大正14年廳令第30號普通出版物取締規則、同第31號滿州州及び南滿州鐵道附屬地に輸入若くは移入する出版物取締規則並びに刑法、治安警察法、警察官懲罰等の諸法規中に散在する諸規定を以て之が取備をなしてゐる。

出版手續 内地に於ける現行出版法並びに新聞紙法は檢閱主義又は許可主義を採用せずして自由主義又は刊出主義を採用してゐるが故に、新聞紙又は普通出版物の發行に關しても出版の許可又は事前の檢閱を必要としないが、關東廳管内に於ては廳令に依る營業取締規則にて新聞雜誌の發行は關東長官の許可を必要としてゐる。普通出版物に就ては大正14年5月27日廳令第30號を以て普通出版物取締規則を制定し從來新聞雜誌の發行と同様、之が發行に就ては許可を必要としたのを改めて内地同様に刊出主義を採用したのである。然れども代金の全額又は一部を前收し、その出版物の豫約契約を爲さむとする時は豫約出版物として登

業取締規則に依り許可を要することになつて居る。

新聞 滿洲に於ける邦人經營の新聞は古く日露戦争以前に「盤口新聞」が斯界の草分をなしたが、日露戦争の勃發で休刊してしまひ、次に發刊されたのが明治38年に矢張り盤口で「滿洲日報」といふ新聞である。而して明治39年軍政署の撤退引揚げと共に瀋陽の居期が到來し然に半歳にして廢刊した。一方大連に於ては明治38年10月25日末永純一氏が遼東新報を發行し、次で40年11月3日滿洲日日新聞の發行あり、41年10月18日金子平吉氏は日支融和の機關として漢字新聞泰東日報を發行した。大正元年8月5日には初めて唯一の英字新聞マンチェリア・デーリー・ニュースが生れた。當時領事館内に於ては奉天に漢字新聞盛京時報(明治39年10月3日創刊)並びに邦紙滿洲新報(明治41年1月15日創刊)安東に安東新報(明治39年10月創刊)等殆んど同時に發行せられた。盛京時報は大正10年7月、滿洲新報及び安東新報と共に大正12年11月、發口、安東留守地の鐵道附屬地内に移つた。昭和2年11月15日から滿洲日日と遼東とは合併して滿洲日報を發行したので古い歴史を有する二新聞はなくなつた。新しくして20餘年文化の進展と人口増加に伴ふ言論機關の發達

| 題 | 號 | 發行地 | 發行期日 | 創刊年月日 | 發行人 |
|------------|-----|------|------------|--------|-----|
| 盛京時報 | 奉天 | 不定期 | 大正10. 7.21 | 染谷 保藏 | |
| 電通通信 | 同 | 同 | 同 14. 3.16 | 大西 秀治 | |
| 滿洲通信 | 同 | 同 | 同 10.12.26 | 平手 謙一 | |
| 奉天電報通信 | 同 | 同 | 昭和 2. 5.31 | 藤曲 政吉 | |
| 聯合通信 | 同 | 同 | 大正11. 6.14 | 渡邊 義一 | |
| 遼寧通信 | 同 | 同 | 昭和 4. 7.23 | 佐々木健兒 | |
| 奉天商工月報 | 同 | 月刊 | 大正13. 5.17 | 都甲 文雄 | |
| 日滿及日本 | 同 | 同 | 昭和 4. 8.13 | 野添 孝生 | |
| 滿洲日報 | 同 | 同 | 昭和 5.12.27 | 末光 源藏 | |
| 大滿洲 | 同 | 不定期刊 | 同 7. 3.26 | 彌永茂太郎 | |
| 四洗新報 | 四平街 | 同 | 同 7. 9. 3 | 山口 源二 | |
| 四撫新報 | 同 | 同 | 大正 9. 8.18 | 大石 常松 | |
| 月刊撫順 | 同 | 月刊 | 同 10. 2.14 | 櫻井 利平 | |
| 安東每日新聞 | 本溪湖 | 日刊 | 昭和 6.12.26 | 同 | |
| 安東每日新聞 | 同 | 日刊 | 同 3. 7.14 | 城島 德壽 | |
| 國境每日新聞 | 同 | 日刊 | 大正15. 8.25 | 伊藤 唯熊 | |
| 長春實業新聞 | 同 | 同 | 同 12.11. 3 | 川俣 篤 | |
| 新京日報 | 同 | 同 | 昭和 2.11.25 | 吉永 成一 | |
| 滿洲日報 | 同 | 同 | 大正 9. 4.20 | 十河 榮忠 | |
| 滿洲改遣 | 同 | 月刊 | 同 9. 4.20 | 箱田 珠磨 | |
| 電通 | 同 | 月刊 | 昭和 7. 3.15 | 南里 順生 | |
| 長春商工會議所調査報 | 同 | 月刊 | 同 7. 6. 6 | 高木翔之助 | |
| 滿洲寫真タイムス | 同 | 月刊 | 同 7. 6. 6 | 吉川 義章 | |
| 大連商工月報 | 同 | 月刊 | 同 7. 9. 7 | 大垣 健藏 | |
| 滿日調查通 | 同 | 同 | 昭和 7. 4. 9 | 飯盛 信一 | |
| 滿日經濟 | 同 | 同 | 大正 4. 8. 6 | 藤田 臣直 | |
| 鞍山日日新 | 同 | 同 | 昭和 7. 6.16 | 佐賀 秀雄 | |
| 新白百合の園 | 同 | 同 | 同 3. 6. 1 | 西川 國一 | |
| 映樂ニユース | 同 | 同 | 同 7. 6.16 | 藤沼 禧一郎 | |
| 帝國館新 | 同 | 同 | 同 7.10.15 | 渡邊 義一 | |
| 金光教滿洲青年 | 同 | 同 | 同 7. 2. 9 | 濱田 泰次郎 | |
| 近江洋行ニユース | 同 | 同 | 同 7. 2. 9 | 岡田 米太郎 | |
| 文 | 同 | 同 | 同 7. 2. 9 | 中村 宗七 | |
| | 同 | 同 | 同 7. 2.25 | 中野 常助 | |
| | 同 | 同 | 同 7. 3. 8 | 藤崎 薰二 | |
| | 同 | 同 | 同 7. 3.15 | 鈴木 淳二 | |
| | 同 | 同 | 同 7. 3.17 | 河合 義雄 | |
| | 同 | 同 | 同 7. 3.26 | 羽野 信次 | |

| 題 | 號 | 發行地 | 發行期日 | 創刊年月日 | 發行人 |
|----------------------------|-----|-----|------------|-------|-----|
| Landing & Shipping Reports | 大連 | 日刊 | 昭和 7. 4. 4 | 古谷藤四郎 | |
| 勝い夕陽 | 同 | 月刊 | 同 7. 4.16 | 増田 格 | |
| 滿蒙經濟評論 | 同 | 同 | 同 7. 3.26 | 豐田志義人 | |
| 國語と教育 | 同 | 同 | 同 7. 6.16 | 政本 勇 | |
| 船全滿洲 | 同 | 同 | 同 7. 6.16 | 原田 原 | |
| 滿洲洋食調理 | 同 | 同 | 同 7. 7. 2 | 古川常次歎 | |
| 滿洲交際履案 | 同 | 同 | 同 7. 7.20 | 伊東長三郎 | |
| 業務改善資料 | 同 | 同 | 同 7. 7.20 | 西田猪之輔 | |
| 日滿商品仕入案内 | 同 | 隔月刊 | 同 7. 8.13 | 佐々木三郎 | |
| 文 | 同 | 年刊 | 同 7. 8.29 | 青木 實 | |
| 日滿興信所所報 | 同 | 日刊 | 同 7.10.12 | 田中字一郎 | |
| マシユウ | 同 | 月刊 | 同 7. 3.26 | 青山 捨夫 | |
| ステュウ | 同 | 年刊 | 同 7. 3.29 | 吉浦 壽 | |
| 伏水會々報 | 同 | 月刊 | 同 7. 7.27 | 友次 常吉 | |
| 滿洲商工時報 | 同 | 同 | 同 7. 8. 8 | 平野 博三 | |
| Golf in Manchuria | 沙河 | 同 | 同 7. 4. 6 | 甲元 豐順 | |
| 鞍山高野山時報 | 鞍山 | 年刊 | 同 7. 7. 8 | 三上 登 | |
| 光之民 | 同 | 月刊 | 同 7. 5. 2 | 細矢 權吉 | |
| 遼陽分會報 | 遼陽 | 同 | 大正13. 8.12 | 成田 昌德 | |
| 醫學原著索引 | 奉天 | 年刊 | 昭和 7. 8. 8 | 池上 等 | |
| 滿蒙地理歴史 | 同 | 月刊 | 同 7.10. 4 | 佐藤 方平 | |
| 曠 | 同 | 同 | 同 7. 4.12 | 足立 巖 | |
| 滿蒙時報 | 安東 | 隔日刊 | 同 7. 6.16 | 新井 宗光 | |
| 滿洲國政府公報日譯 | 新東京 | 月刊 | 同 7. 7.27 | 新井 宗光 | |

日本側發行定期出版物一覽表 (時事を掲載せざるもの) (昭和7年10月現在)

| 題 | 號 | 發行地 | 發行期日 | 創刊年月日 | 發行人 |
|------------|----|-----|------------|-------|-----|
| 南滿教育 | 旅順 | 月刊 | 明治42.10.25 | 吉野保一郎 | |
| 南滿の光 | 同 | 年刊 | 同 44. 8.17 | 飯島 平治 | |
| 祖國の報 | 同 | 月刊 | 大正 7. 2. 5 | 今村 重親 | |
| 旅順農會 | 同 | 同 | 同 12.10.20 | 中野慶次郎 | |
| 蒙南教育 | 同 | 同 | 同 15. 9. 8 | 外池 平 | |
| はんま | 同 | 年刊 | 同 15.11.19 | 高野 正夫 | |
| 警察協會雜誌 | 同 | 月刊 | 昭和 2. 4. 5 | 土屋於菟熊 | |
| うづら | 同 | 年刊 | 同 2.12. 2 | 飯島 平治 | |
| 塔 | 同 | 月刊 | 同 6. 7. 4 | 光岡 慈昭 | |
| 南滿蒙畜産學會雜誌 | 同 | 年刊 | 同 6. 7.13 | 神崎 係助 | |
| 滿洲土木建築業協會報 | 大連 | 年刊 | 明治41. 8. 5 | 大島 大平 | |

| 題 | 號 | 發行地 | 發行期日 | 創刊年月日 | 發行人 |
|---------------|---|-----|-------|------------|--------|
| 滿鮮旅行案内 | 友 | 大連 | 月刊 | 明治42. 2. 9 | 村松竹一郎 |
| 海 | | 同 | 同 | 同 43. 4. 7 | 袴田可坪 |
| 滿洲重要物産状況日報 | | 同 | 日刊 | 大正 2. 7.28 | 照井長次郎 |
| 滿洲經濟時報 | | 同 | 月刊 | 同 9. 4.20 | 根來 慈 |
| 滿洲興信公所日報 | | 同 | 日刊 | 同 9. 9.14 | 松村久兵衛 |
| 日清興信所内報 | | 同 | 同 | 同 9.11. 6 | 有田梅之丞 |
| 鐵道之研究 | | 同 | 月刊 | 同 10. 1.19 | 青柳 亮 |
| 滿洲建築協會雜誌 | | 同 | 同 | 同 10. 3.17 | 若田 茂 |
| 盤 | | 同 | 同 | 同 10. 5.10 | 森 富男 |
| 大連株式商品日報 | | 同 | 日刊 | 同 10. 5.25 | 森 軍治 |
| 滿洲寫真通信社 | | 同 | 不定期 | 同 10. 7. 6 | 森野 順次 |
| 白 | | 同 | 月刊 | 同 10.11.17 | 吉武 堯雨 |
| 泰東興信公所日報 | | 同 | 日刊 | 同 11. 3.27 | 佐藤 長治 |
| 滿洲婦人新聞 | | 同 | 月刊 | 同 12.12.26 | 保科喜代次 |
| 中日實業興信日報 | | 同 | 日刊 | 同 11.11. 6 | 筒井小八郎 |
| 滿洲醫學雜誌 | | 同 | 月刊 | 同 12. 1. 6 | 村上 純一 |
| 南滿青年 | | 同 | 同 | 同 12. 3. 9 | 稻葉 好延 |
| やよひ | | 同 | 同 | 同 12. 6.14 | 鎌田 勇 |
| 中華藥報 | | 同 | 同 | 同 12. 7. 3 | 松澤萬三人 |
| あかし | | 同 | 同年 2 | 同 12. 7.16 | 鈴木 銀作 |
| 保護者會報 | | 同 | 同年 | 同 13. 3.18 | 守田 彦三 |
| 大廣場教育誌 | | 同 | 同年 3 | 同 13. 3.31 | 鈴木 銀作 |
| 滿洲技術協會誌 | | 同 | 隔月 1回 | 同 13. 5.13 | 湯淺三二郎 |
| 亞東印畫 | | 同 | 月刊 | 同 13. 7.29 | 田中 周治 |
| こひつじ | | 同 | 同年 | 同 13. 9.11 | 同 |
| 大連青年物報 | | 同 | 月刊 | 同 13.12.26 | 難波半三郎 |
| 大連取引所先物報 | | 同 | 日刊 | 同 14. 1.10 | 森原 哲藏 |
| 滿洲通信協會誌 | | 同 | 年 6 | 同 14. 1.23 | 花澤 儀助 |
| 大連園藝會報 | | 同 | 月刊 | 同 14. 1.29 | 栗木榮太郎 |
| 週報大日活 | | 同 | 通刊 | 同 14. 3.25 | 長次郎吉 |
| Weekly Takara | | 同 | 同 | 同 14. 3.31 | 平田 貞助 |
| 滿洲入札通信 | | 同 | 日刊 | 同 14. 3.31 | 早川己之利 |
| 錢鈔日報 | | 同 | 日 2 | 同 14. 4. 2 | 宮軒友次郎 |
| 山田現株日報 | | 同 | 日刊 | 同 14. 4. 2 | 山田 柳治 |
| 大連錢鈔日報 | | 同 | 同 | 同 14. 4. 2 | 山田 三平 |
| 大連錢鈔相場日報 | | 同 | 同 | 同 14. 4. 2 | 加藤喜代次郎 |
| 永順錢鈔日報 | | 同 | 同 | 同 14. 4.10 | 太田伊之助 |
| 大連錢鈔取引市表 | | 同 | 同 | 同 14. 4.10 | 夏 玉 衛 |

| 題 | 號 | 發行地 | 發行期日 | 創刊年月日 | 發行人 |
|-------------|---|-----|------|------------|--------|
| 松竹ニユース | | 大連 | 週刊 | 昭和 6.12.28 | 南 信次 |
| 泰記相場日報 | | 同 | 日刊 | 大正14. 4.22 | 井上 重明 |
| 泰信日報 | | 同 | 日 2 | 同 14. 4.27 | 藤田 温二 |
| 滿洲經濟統計月報 | | 同 | 月刊 | 同 14. 6.19 | 安富 商二 |
| 是城 | | 同 | 同 | 同 14.10.16 | 慶田 義彦 |
| 支那礦業時報 | | 同 | 年 4 | 同 14.10.16 | 木村 六郎 |
| 南山 | | 同 | 年 3 | 同 14.11. 6 | 佈野 三郎 |
| 電 | | 同 | 月刊 | 同 14.11.24 | 高橋 仁一 |
| 中日經濟通信 | | 同 | 日刊 | 同 14.11. 4 | 天羽安次郎 |
| 統計月報 | | 同 | 月刊 | 同 15. 3. 3 | 星 菊治 |
| 大連市公報 | | 同 | 月刊 | 同 15. 3.31 | 眞鍋 良助 |
| 春日の學園 | | 同 | 年 3 | 同 15. 5. 6 | 高橋 司 |
| 愛兒と家庭 | | 同 | 月刊 | 同 15. 5.11 | 柿野 三郎 |
| 滿洲菓子食料新報 | | 同 | 同 | 同 15. 6.28 | 森田 富義 |
| 組合時報 | | 同 | 不定期 | 同 15. 8.25 | 森原 哲藏 |
| 組合友報 | | 同 | 年 2 | 同 15.11. 5 | 種村 吉衛 |
| 組合報 | | 同 | 月刊 | 昭和 2. 1.13 | 鹿田 同 |
| 滿洲重要物産月報 | | 同 | 同 | 同 2. 3.25 | 照井長次郎 |
| 青陽 | | 同 | 年 4 | 同 2. 4.21 | 岩岡 俊一 |
| 聲國在郷軍人報 | | 同 | 月刊 | 同 2. 6.16 | 小黑 馨 |
| 大連第二分會會報 | | 同 | 隔月 | 同 2. 6.23 | 吉賀 元 |
| 青泥報 | | 同 | 月刊 | 同 2. 8.13 | 長谷川春之助 |
| 會 | | 同 | 同 | 同 2.12. 2 | 岩井 勘六 |
| 滿洲日報社報 | | 同 | 同 | 同 3. 2. 1 | 鈴木 昇 |
| 直 | | 同 | 年 6 | 同 3. 6.13 | 早川 國興 |
| 合滿洲 | | 同 | 月刊 | 同 3. 6.27 | 西田猪之輔 |
| 滿洲郷土 | | 同 | 同 | 同 3. 7. 2 | 湯淺三二郎 |
| 海上人 | | 同 | 年 6 | 同 3. 7. 2 | 湯水勇之助 |
| パター、マンシウ | | 同 | 隔月 | 同 3. 8.17 | 淺田新之助 |
| 大連海軍日報 | | 同 | 日刊 | 同 3. 6.25 | 古谷藤四郎 |
| 大連建築現業員組合報 | | 同 | 月刊 | 同 3.10. 4 | 大内 成美 |
| 滿洲險入組合聯合會々報 | | 同 | 同 | 同 3.10. 4 | 中村 太郎 |
| 農業の滿洲 | | 同 | 同 | 同 3.11. 9 | 香村 岱二 |
| 滿洲女子青年 | | 同 | 同 | 同 3.11.30 | 森田 拓志 |
| 嶺前 | | 同 | 同 | 同 3.12.14 | 春日兼三郎 |
| 支那研究 | | 同 | 同 | 同 4. 1.21 | 上石丸 甫 |
| ダイヤグラム | | 同 | 日刊 | 同 4. 3.25 | 大久保 保 |
| 滿洲短歌 | | 同 | 月刊 | 同 4. 3.30 | 坂所 英一 |
| 書 | | 同 | 同 | 同 4. 4.27 | 佈村 介 |

| 題 | 號 | 發行地 | 發行期日 | 創刊年月日 | 發行人 |
|------------------|---|-----|------|------------|-------|
| 旬報 | | 大連 | 月 3 | 昭和 4. 6.26 | 有倉 善次 |
| 南滿洲鐵道株式會社々報 | | 同 | 日 刊 | 同 4. 9.11 | 清水 三郎 |
| 南滿電氣株式會社々報 | | 同 | 月 3 | 同 4. 9.28 | 高橋 芳藏 |
| 家庭と瓦斯 | | 同 | 月 刊 | 同 4.11.15 | 後藤 末男 |
| 汽車時間表 | | 同 | 同 | 同 4.11.27 | 齊藤 喜八 |
| 滿洲電氣協會々報 | | 同 | 年 5 | 同 4.12. 4 | 幸村 必 |
| Tourist Bulletin | | 同 | 月 2 | 同 4.12.24 | 齊藤 善八 |
| 童心行 | | 同 | 月 刊 | 同 4.12.27 | 赤塚吉次郎 |
| 萬玉洋行商報 | | 同 | 同 | 同 4.12.27 | 萬玉惣太郎 |
| 經濟統計月報 | | 同 | 同 | 同 4.12.28 | 藤田 臣直 |
| 大連貸家貸問ニュース | | 同 | 隔月1回 | 同 5. 5.12 | 黒木 清行 |
| 大連取引所相場日報 | | 同 | 日 刊 | 昭和 5. 8. 1 | 萩原 哲藏 |
| 運動と趣味 | | 同 | 月 刊 | 同 5.12.27 | 長澤千代造 |
| 銀と國際爲替 | | 同 | 同 | 同 5.12.27 | 合原 二郎 |
| 滿洲通信併旬 | | 同 | 同 | 同 6. 3.20 | 寺内 豊 |
| 丸山洋行建築材料商報 | | 同 | 同 | 同 6. 3.20 | 丸山清次郎 |
| 滿洲社會事業 | | 同 | 同 | 同 6. 4.16 | 山中 徳二 |
| 滿洲福音ニュース | | 同 | 同 | 同 6. 4.17 | 稻葉 好延 |
| 電氣ニュース | | 同 | 同 | 同 6. 5.23 | 栗山 藤二 |
| 明洲 | | 同 | 同 | 同 6. 6. 3 | 高取 新吾 |
| 滿洲路 | | 同 | 同 | 同 6. 6. 3 | 高山 謙一 |
| 十字 | | 同 | 同 | 同 6. 6. 3 | 江副 藤四 |
| 家庭的電氣 | | 同 | 同 | 同 6. 6. 5 | 栗山 藤二 |
| 有價證券現物仲値段表 | | 同 | 日 刊 | 同 6. 6.22 | 小口 衛 |
| 業務の友 | | 同 | 隔月 | 同 6. 6.22 | 西川 總一 |
| 大連案内社旬報 | | 同 | 月 3 | 同 6. 7. 3 | 飯田 昇 |
| 神の道 | | 同 | 月 刊 | 大正13.11.13 | 松山 理三 |
| 遼東詩壇 | | 同 | 同 | 同 15. 2.27 | 田岡 正樹 |
| 南滿工專時報 | | 同 | 同 | 同 2. 6.10 | 大塚 曾一 |
| 常盤座週報 | | 同 | 月 6 | 同 4.12.24 | 小泉 友男 |
| 女性と滿洲 | | 同 | 月 刊 | 昭和 2.10.11 | 高塚 源一 |
| 善鄰 | | 同 | 同 | 同 5. 8. 2 | 中谷 鹿二 |
| 松尾債券時報 | | 同 | 同 | 同 5.12.27 | 松尾 盛男 |
| 國際興信所々報 | | 同 | 日 刊 | 同 6. 3.14 | 高橋 徳夫 |
| 亞細亞大觀 | | 同 | 月 刊 | 大正13. 7.15 | 橋詰 定喜 |
| 大連商業興信所日報 | | 同 | 日 刊 | 同 14. 3.31 | 徳三 俊雄 |
| 滿洲寫壇 | | 同 | 月 刊 | 昭和 6. 9. 3 | 青山 捨夫 |
| 滿洲大連沙河 | | 同 | 年 2 | 大正14. 7.14 | 小田 斌 |

| 題 | 號 | 發行地 | 發行期日 | 創刊年月日 | 發行人 |
|-----------------|---|-----|-------|------------|--------|
| 大學校と家庭 | 正 | 大連 | 年 2 | 大正14.10.26 | 湯目 文雄 |
| 聖徳城 | | 同 | 年 5 | 同 14.10.26 | 高木 寅喜 |
| 于青調健兒 | | 同 | 年 3 | 昭和 2. 8.19 | 松原 邦吉 |
| 支那白菜研究所報 | | 同 | 隔月 | 同 3. 1.12 | 高橋源兵衛 |
| 石川誠光堂ニュース | | 同 | 年 10 | 同 4. 1.25 | 高木 寅喜 |
| 郷土滿洲 | | 同 | 月 刊 | 同 4. 3.22 | 荒木 正信 |
| しもふじ | | 同 | 同 | 同 4. 8.22 | 石川良三郎 |
| 平原 | | 同 | 年 2 | 同 4. 6.12 | 石森 延男 |
| 大連海友會々報 | | 同 | 月 刊 | 同 6. 3.20 | 古川 純義 |
| 興亞 | | 同 | 同 | 同 4. 3.25 | 岡村清太郎 |
| らら | | 同 | 同 | 同 6. 6. 3 | 石川良三郎 |
| 大石橋學校だより | | 同 | 同 | 同 2.10.14 | 吉野信太郎 |
| 妙光報 | | 同 | 隔月 | 同 4.12. 4 | 中山右三郎 |
| 營口商業會議所報 | | 同 | 年 3 | 同 4.10.22 | 谷口 良友 |
| 商業通信 | | 同 | 月 刊 | 大正12.12.26 | 岡松 乾丈 |
| 鞍山鐵鋼會雜誌 | | 同 | 日 刊 | 昭和 2. 4. 8 | 日下 清隆 |
| 鞍山春秋 | | 同 | 月 2 | 同 4. 8. 1 | 飯野卯一郎 |
| 奉天商工新報 | | 同 | 3箇月1回 | 大正 9. 9. 7 | 右近 又雄 |
| 東亞興信公所週報 | | 同 | 月 刊 | 同 10. 4. 1 | 久留島秀三郎 |
| 松之綠 | | 同 | 月 2 | 昭和 3. 5. 9 | 中幸田喜一 |
| 有終報 | | 同 | 週 刊 | 大正11. 3.31 | 有川 藤吉 |
| 奉天興信所內滿洲報 | | 同 | 年 2 | 同 11. 5.31 | 尼崎 濟 |
| 奉天興信所內報 | | 同 | 同 | 同 13. 4. 2 | 白根 卓 |
| 奉天興信所內報 | | 同 | 同 | 同 14. 4. 7 | 明田 勝 |
| 奉天興信所內報 | | 同 | 週 2 | 同 15. 6.25 | 佐々木孝三郎 |
| 奉天興信所內報 | | 同 | 月 3 | 昭和 2. 1.31 | 萩原 昌彦 |
| 滿洲藥報 | | 同 | 月 刊 | 同 2. 6.22 | 藤永 彰隆 |
| 昭和興信所內報 | | 同 | 同 | 同 2. 9. 2 | 藤原 勝治 |
| 月宮報 | | 同 | 週 1 | 同 3. 4.27 | 赤塚 貞晴 |
| 滿洲聖戰 | | 同 | 月 刊 | 同 5.12.27 | 明田 勝 |
| MUKDEN ROTARIAN | | 同 | 同 | 同 6. 2.27 | 寺尾 龍治郎 |
| 山松子の光 | | 同 | 同 | 同 6. 3. 5 | 林 三喜雄 |
| 炭永順圖書館報 | | 同 | 同 | 同 6. 3.20 | 高橋 清一 |
| 安東經濟時報 | | 同 | 月 刊 | 同 6. 5. 5 | 志和 俊陽 |
| 商業通信 | | 同 | 同 | 同 3. 7.14 | 佐藤 哲雄 |
| | | 同 | 年 3 | 同 3.11. 7 | 遠野多賀次 |
| | | 同 | 月 刊 | 同 5.12.27 | 大佐三四五 |
| | | 同 | 日 刊 | 大正13. 3. 5 | 新田 忠平 |
| | | 同 | 同 | 同 12.12.12 | 平松 憲 |

聖を宗とし、之を正統となしてゐる。儒教に於ては死生の問題には言及せず、従來到處に孔子廟を設けて之を祀り、孔門の諸賢、孟子等は尙論歴代の大儒また之に配祀され、春秋二季の釋奠に於ては、犠牲を供へ舞樂を奏し、前清時代までは官吏が三拜九叩の禮を行ひ、紳士、學生も之に参加する等殆んど純然たる宗教的儀式が行はれてゐた。故に此點に於ては儒教も亦宗教的色彩を帯ぶるものと云ふことが出来る。

滿洲國は立國の精神が王道であり、孔子の禮道樹立した儒教に由つてゐる關係から孔子祭を滿洲國の國祭となし、夙に文教部に於ては大同元年8月9日文教部訓令第9號に據つて孔教を尊崇し聖道を復興するため、關係各所に通達して文廟の状況を調査せしめてゐたが、同年の仲秋丁祭には特に下の5項の準備方法を令して、その徹底化を計つた。(イ)本年の秋季孔子祭は新京及各地方に於て均しく盛大なる典禮を舉行し、各地方は事前に祭祀に關する一切の事項を準備すること、(ロ)各地方の文廟は資力の許す限り速に修理を加へ裝飾をなすこと、(ハ)本部より祭祀參考小冊及尊孔宣傳標語を印刷して送附し、各省區市は所屬に命令配布ししめ、或は重要なるものを公示すること、(ニ)丁祭日には各地方に於て市民全體大會を開催し、孔子事蹟を講演し、各省區市縣公署に於てこれを主催すること、(ホ)各校學生は師長の指導によつて校内にて祀孔典禮を舉行し、孔子の言行道徳學問等に關して講演すること。

而して9月5日の孔子祭には全國各地に涉つて上記の如き方法により莊嚴に行はれたが、殊に新京に於ては東三道子の孔子廟に於て執政自ら祭祀官となつて盛大なる式典を挙げた。

同々教 一般にマキメテト教と稱するが、この兩字は教主マキメテトの音に依るものである。彼の家系は順一系上、寧遠

創造の神アラーの教にして、眞の宗教といふに値するものは他にないと信するが故である。故に彼は平和、安全、救濟、恭敬を意味するイスラムを以て自己の宗教に名づけたのである。即ち彼の神はイスラエルの神であり、キリストの神であるに他ならない。同々教の教理は10箇の信仰箇條の中に收められてゐる。その10箇の内(1)アラーを信すること(2)天使を信すること(3)コーランを信すること(4)預言者を信すること(5)復活及び最後の審判を信すること(6)宿命を信することの6箇條は信仰にして(7)祈禱(8)施物(9)斷食(10)順禮の4箇條は勤務である。滿洲に於ける同教徒は屠牛者又は製革者、旅館、浴場を營む者に多く吉林、新京、伯都訥、齊古塔、三姓、琿春、齊齊哈爾等が最も盛んな地方である。教徒は佛教、道教と異り色彩最も明かて異教を惡み、教徒間は親密で團結心が強い。豚肉を食せず羊肉を常食としてゐるが屠羊は必ず祭長の指令を俟つて之を屠殺し、出所不明の肉類は食しない。故に料理店の如きも各市場には同々教徒専屬のものがある。滿洲國では建國宣言に現住民族を尊重し、同教徒は國旗にも一つの存在として認められてゐるので、滿洲國に敬意を表し同教徒の將來東洋に於ける宗教的結合の團體として完成する目的から、日本同教徒聯盟會長ムハメッドワルバンガリー氏來滿し、新京に於て全滿洲同教徒大會を開催し相當な成果を收めた。

喇嘛教 喇嘛教は主として蒙古に行はるる宗教であるが、清朝が蒙古懷柔に彼の民族の強烈な信仰心を利用する政策を取つたため、今や滿洲の各地に喇嘛の寺廟と信者となを有するに至つた。喇嘛教といへば、獨立の宗教の如く思はれるが、それは外國人の稱呼であつて、喇嘛教は固より佛教に外ならない。喇嘛とは無上即優者を意味し梵語の「ラマ」に相當するものであつて、蒙

古人が増倍中の高位者を「ラマ」または「マダム」と呼びたるに出づるものであるから、その教義も何等佛教と異なる所がない。喇嘛教は數派に分れ、就中黃教紅教の二派が最も勢力を有してゐるが、滿洲では黃教に屬するものが多い。奉天地方及び蒙古に接する地方は、喇嘛を信するもの頗る多く、奉天には滿洲本山とも云ふ可き黃寺がある。蒙古は殆んど喇嘛教であつて、庫倫には有名な活佛が居つて歸依の中心になつて居る。

薩 教 滿洲に於ける雜教は種々あるが其主なるものは薩滿教と在理教である。薩滿教は滿洲民族固有の宗教であつて、女巫が宗教儀式の中で最も重要な役目をつとめる。滿洲語では女巫のことをリマンと呼ぶので、この發音を漢字で現して薩滿とし女巫が中心となるので、薩滿教といふのである。現在では巫は男性の場合が多く、むしろ男性の方が有力な所もある。現今では比較的他宗教の影響が強くなかつたシベリア地方の民族や北滿地方の滿洲國人の間に原始的のまゝに薩滿教が傳つてゐるが大抵に影をひそめつゝある。在理教と同一系統である白蓮教は、義和團事件を起した事であつて有名である。

道院と世界紅卍字會 宗教運動として滿洲國人間に隱然たる勢力を有するものに道院及び紅卍字會がある。

道院の起源は民國9年12月山東省嶺縣に於て洪解空、劉福祿の兩名が老祖(道院の祖神)の神憑に基く启示に依り「太乙北極直經」と名づける經典を結集し、道場を設け、縣名に依つて之を瀋壇と稱したのが道院の濫觴である。启示とは支那に古代より傳はる一種の自動的記述にして、大本教の御筆先に類するものである。蓋し老祖とは天地萬物の始祖即ち大道の根源であつて儒教に云ふ道を人格化したものである。民國10年陰曆2月9日淮安縣人杜秉寅が山東省

海南に開教すると共に瀋壇を改めて道院(老祖の本體)と稱した。

世界紅卍字會は道院の分院とも云ふべきもので、民國11年陰曆10月に成立された。紅卍字の名は太陽の如く恩惠の廣大無限なるを意味し、又卍は吉祥雲海と稱して佛相を象徴する。故に全世界的に宣傳しその會員信徒たる者には種族國境等の差別がない。本會は道院に對し不即不離の關係にあつて、先づ道院に於て靜座内觀の修養を積み、更に紅卍字會に於て社會事業たる善行の實踐を標榜してゐる。紅卍字會本部は北平宣武門内に在つて各道院支部内にその支部を附設して居る。

道院と紅卍字會は異體同心にして即ち紅卍字會は道院内に附設された一分課と見るべく道院の信徒は一面紅卍字會員である。斯くて道義を本とし共に社會教化事業に盡瘁してゐる。その運動の經過は僅に9箇年に過ぎないが、北は北滿より南は瓊州半島に至る迄傳道され230有餘の支部を有し、滿洲に於ては3、4年前漸くその緒に就いたるに拘らず、奉天、大連、營口、鐵嶺、新京、安東、錦州、哈爾濱、吉林等20箇所に分院を設け、現在の會員は全道院を通じて、100 萬人以上と稱し、或は數百萬人と號するも詳かでない。

(二) 日本人側の宗教

宣布の方法

概 況 滿洲に於ける日本人の宗教を大別して神道、佛教、基督教とする。之等の大部分は日本内地に本部を有する教團が日露戰爭後、布教したものである。而して之等三教が傳道を開始した道程として之を區別することは困難であるが、大體次の如き方法に依つてゐる。

(1) 日露戰爭終結後從軍布教師として渡滿し 戰爭終結後隨所に留つて寺院教會

を創立し一般に布教したものを
 (2) 關東州及び滿鐵附屬地の租借管理後、日本内地に本部を有する教團より積極的に布教師及び牧師を派遣して宣教せしめたもの
 (3) 在滿邦人が彈送、法要等執行の關係上同志相圖つて僧侶、布教師を招聘して傳道せしめたもの

神道は大體第2に屬し、佛教は第1に依つて布教の基礎を確立し、第2、第3に依つて次第に地歩を固め、基督教は主として第1と第2に依るもののやうである。

神道 明治37年6月出雲大社教本部から松山三氏が滿洲布教の目的を以て派遣され他の神道各派に率先して布教に努め、明治41年7月に大連南山麓に假社殿を建設し豐代を遷して滿洲宣教の本部となし、同教大連教會なるものを創立した。其後大連市の發展に伴ひ邦人の精神的中心たる大連神社の創設を急務とし、同志協議の結果該大連協會を提供して現在の大連神社を創設した。大社教に稍遅れて宣教に着手したのは御嶽教で明治39年5月松原某氏が布教を勤め、金光教は明治40年10月松山成三氏が大連に来て教會の基礎を起し、天理教は明治42年10月鶴殿某氏が長春に於て布教を開始し、同44年には大連及び安東に各教會を建設し、明治44年には黒住教も新たに加はり戦後8、9年にして、大社、黒住、御嶽、金光、天理、實行、神理の各神道は何れも1箇所以上の宣教所を設立して大體布教の端緒を固めた。斯くして漸次教會の數を増し、神道本局に屬する金源教會は大正14年大連市に始めて設立され神習所は昭和5年奉天に開設し年々勢力を加へ、就中天理教は巔然頭角を現し、信徒數も首位に在る。之より先き大社教を宣教し大連神社創設に貢献した松山三氏は大正7年産靈教會を起し、本部を大連に置き支部を沙河口に設けた。

佛 教 佛教は在滿宗教中最も優勢で、

寺院、布教所、檀信徒共その大半を占めてゐる。就中活躍してゐるのは眞宗本派本願寺にして明治39年末迄に既に出張所、布教所、8箇所を建て、同じ眞宗に屬する大谷派本願寺は僅に一寺院に過ぎない。全國到處殆んど伯仲の勢を示す本派、大谷派の兩者が滿洲に於て著しく盛庭のあるのは在住邦人が東北、關東、北關地方よりも、關西以西の中國、四關、九州地方より移住者が多い關係と、日露戰爭當時從軍布教に於ける活動如何にも依るものである。當時は其他に淨土宗4、日蓮宗1、臨濟宗1合計15箇所にして、現在弘通する佛教各派中曹洞宗を除く外は日露戦後1、2年の間にその基礎を固めたものである。次に明治41年以來昭和5年末に至る24年間に於ける状態を觀るに、明治40年以前に急速なる發展を遂げた佛教各派は明治41年には6箇所の寺院布教所を増設し、更に曹洞宗は同年11月に安東に、12月に旅順及び大連に布教師を派遣し、茲に安東相音寺、旅順龍心寺、大連常安寺が出現した。尙ほ眞宗中の興正寺は大正3年に四平街に布教所を設け、5年には公主嶺に及ぼし、淨土宗の知恩院派は明治42年安東に布教を開始して現在3箇所に互り、眞言宗は明治41年12月大連に寺院を建て爾後旅順、營口、安東、撫順、奉天、公主嶺、長春等の各地に16箇所の寺院布教所を設立した。同宗御室派は大正5年本溪湖に、醍醐派は昭和2年安東に開教し、日蓮宗の顯本法華宗は大正8年營口に、本門法華宗は大正4年本溪湖に夫々教陣を敷いた要するに内地に流布してゐる佛教中、天台、黃蘗、時宗、法相、融通念佛及び華嚴宗を除く他の宗教は明治37年以來滿洲の各地に悉く傳播せらるるに至つた。

基督教 日本人系統に屬する基督教は日本基督教會が、日露戰爭開始と同時に軍隊慰問を目的として數名の牧師を渡滿せしめたのに始まる。彼等は一方在留邦人に對し

て宣傳をなした。而して明治38年4月に假教會所を建設し、同40年8月には現在大連西通の日本基督教會を設くるに至つた。次で明治44年6月に現在の旅順日本基督教會を起し、遼陽安東にも教會を設置した。明治42年には救世軍が新に大連に小隊を設け、大正2年には日本組合基督教會及び日本聖公會が大連市内に各一教會堂を設立し、又組合教會は同4年より逐次奉天、長春、鐵嶺等へ教會を建て8年には大連市内

にメソジスト教會の設立を見、ホーリネス教會は6年に撫順を初め奉天、安東に教會を設け、救世軍は大正10年以後奉天、沙河、大連等に宣教機關を増設した。一方朝鮮人に依つて宣傳せらるる長老會は大正5年安東に基礎を固め、昭和3年に撫順、4年に開原、5年に大連に各教會を設立し、ミカリー教會は大正10年より長春、四平街等に布教を始めたのである。

斯くして各教派の陣容が整つたのである

寺院教會布教所數

(昭和6年末)

| 種 別 | 種 類 | 州 内 | | | 租借附屬地 | | | 領事館管内 | | | |
|--------|-----|--------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|-------|------|-----|
| | | 寺院數 | 布教所數 | 信徒戶數 | 寺院數 | 布教所數 | 信徒戶數 | 寺院數 | 布教所數 | 信徒戶數 | |
| 神 道 | 大社 | 2 | 5 | 6,303 | 1 | 1 | 232 | — | — | 3 | |
| | 社務所 | — | 7 | 817 | — | — | 1 | — | — | 3 | |
| | 天理 | 1 | 5 | 453 | — | — | 371 | — | — | — | |
| | 御嶽 | 5 | 12 | 1,223 | 10 | 15 | 1,307 | — | — | 11 | |
| | 實行 | 9 | 51 | 1,370 | 29 | 49 | 1,783 | — | 1 | 20 | |
| | 神理 | 1 | 4 | 333 | — | 1 | 100 | — | — | — | |
| | 天照 | 1 | 1 | 133 | — | — | — | — | — | — | |
| | 天照 | 3 | 6 | 943 | — | — | — | — | — | — | |
| | 天照 | 1 | 10 | 723 | — | — | 188 | — | — | 34 | |
| | 天照 | — | — | — | — | 2 | 477 | — | 1 | 153 | |
| 計 | 25 | 101 | 12,351 | 35 | 70 | 4,485 | — | 2 | 224 | | |
| 佛 教 | 曹洞 | 7 | 23 | 7,063 | 25 | 32 | 7,800 | 1 | 1 | 408 | |
| | 臨濟 | 5 | 9 | 2,011 | 14 | 14 | 1,940 | 1 | 1 | 57 | |
| | 淨土 | 3 | 10 | 1,700 | 18 | 17 | 2,501 | — | — | 112 | |
| | 日蓮 | 4 | 9 | 1,854 | 12 | 16 | 2,113 | — | — | 113 | |
| | 眞言 | 1 | 1 | 213 | 4 | 4 | 1,127 | — | — | 17 | |
| | 眞言 | 6 | 9 | 1,103 | 15 | 24 | 1,502 | — | — | 138 | |
| | 眞言 | — | — | 1 | — | — | 51 | — | — | 2 | |
| | 計 | 26 | 67 | 14,764 | 83 | 107 | 16,917 | 2 | 2 | 931 | |
| | 基 他 | 日本基督教會 | 3 | 3 | 325 | 6 | 6 | 340 | — | — | 15 |
| | | 日本基督教會 | 1 | 1 | 95 | 1 | 1 | 72 | 1 | 1 | 131 |
| 日本基督教會 | | 9 | 9 | 415 | — | — | — | 6 | 5 | 173 | |
| 日本基督教會 | | 1 | 3 | 53 | — | — | 8 | 7 | 11 | 530 | |
| 日本基督教會 | | 1 | 1 | 87 | 1 | 1 | 69 | 2 | 2 | 230 | |
| メソジスト | | 1 | 2 | 110 | 3 | 2 | 196 | 1 | — | 675 | |
| ホーリネス | | 3 | 5 | 357 | 1 | 3 | 194 | — | — | — | |
| カトリック | | — | — | — | 2 | 2 | 254 | — | — | — | |
| メソジスト | | — | — | — | 4 | — | 107 | — | — | — | |
| ホーリネス | | 4 | 10 | 374 | 5 | 11 | 611 | 12 | 19 | 545 | |
| 計 | 23 | 34 | 2,044 | 23 | 28 | 1,771 | 29 | 38 | 2,784 | | |
| 合 計 | 74 | 202 | 29,169 | 141 | 205 | 23,173 | 31 | 42 | 3,889 | | |

神社 神社の建立は明治41年千山神社(千山)關水神社(老虎洞)の設立されたのが最初である。大正3年以後御大典紀念の意味を以て各地に建設したものが多く之等神社の設備は統一せられた標準なく、大體は内地の例に倣ひ神殿、拜殿、社務所、鳥居等の完備してゐるものもあるが、氏子數の少

數なものに其の維持經營が困難なため小規模の神殿、拜殿を有するに過ぎなかつた。然し大正11年以後之等の施設に對して尊嚴と體裁とを具備せしめるため一定の標準の下に漸次改善を施してゐる。現在、關東州内10社、滿鐵附屬地31社、領事館管内は鐵嶺1社で、4月から10月迄別表の如く各地

に例祭が施行されてゐる。

神職 神社には1人以上の神職を置くのを原則とするが、維持経営、氏子、崇敬者の關係上専任者を置くことは不可能なものもある。即ち神社41社に對し、神職122人であつて、専任神職を置く神社は18社に過ぎない。神職の名稱は宮司、社司、社掌又は神職等區々であつたが、大正12年より總て之を神職と稱呼し且その資格を規定したが、その待遇に至つては種々の事情に依り未だ決定されてゐない。

神社一覽 (昭和6年12月末現在)

| 心 稱 | 所在地 | 祭 神 | 祭 日 |
|--------------|-----|--------------|--------------|
| 大 道 神 社 | 大 道 | 天照太神 大國主神 | 5.10 10.1 |
| 金刀比羅神社 | 同 | 大國主神 大國主神 | 4.10 |
| 志比須神社 | 同 | 天照太神 大國主神 | 10.20 |
| 妙阿日神社 | 同 | 天照太神 大國主神 | 5.10 10.1 |
| 關 水 神 社 | 同 | 天照太神 大國主神 | 10.17 |
| 柳田神社 | 柳田 | 宇賀魂神 | 8.15 |
| 小野田神社 | 小野田 | 伊弉諾神 | 6.6 |
| 藤 水 神 社 | 同 | 天照太神 大國主神 | 6.1 |
| 曾 根 立 神 社 | 曾根立 | 天照太神 | 5.6 9.17 |
| 鹿 子 宮 神 社 | 鹿子宮 | 同 | 5.2 |
| 萬 葉 宮 神 社 | 萬葉宮 | 天照太神 大國主神 | 6.4 10.4 |
| 新 田 神 社 | 新田 | 天照太神 大國主神 | 9.9 |
| 大 石 橋 神 社 | 大石橋 | 天照太神 大國主神 | 5.15 |
| 曾 根 神 社 | 曾 根 | 天照太神 | 5.7 10.1 |
| 笠 口 神 社 | 笠 口 | 天照太神 大國主神 | 10.3 10.5 |
| 坂 山 神 社 | 坂 山 | 天照太神 | 5.1 9.15 |
| 千 山 神 社 | 千 山 | 天照太神 大國主神 | 9.24 |
| 廣 國 神 社(本 社) | 廣 國 | 天照太神 大國主神 | 4.20 9.4 |
| 櫻 香 神 社 | 櫻 香 | 天照太神 大國主神 | 6.25 9.9 |
| 新 天 神 社(本 社) | 新 天 | 天照太神 大國主神 | 5.15 9.16 |
| 新 本 世 神 社 | 新本世 | 同 | 10.1 |
| 廣 國 神 社 | 廣 國 | 天照太神 大國主神 | 4.15 10.1 |
| 志 比 須 神 社 | 同 | 天照太神 大國主神 | 5.10 |
| 平 國 神 社 | 平國 | 天照太神 大國主神 | 5.15 9.16 |

| | | | |
|------------|-----|--------------|---------------|
| 廣 國 神 社 | 廣 國 | 天照太神 大國主神 | 5.5 10.5 |
| 遠 山 神 社 | 遠山 | 天照太神 大國主神 | 4.20 10.10 |
| 安東神社(本 社) | 安 東 | 天照太神 大國主神 | 5.1 9.15 |
| 鶴 岡 山 神 社 | 鶴岡山 | 天照太神 | 5.10 10.5 |
| 鳳 凰 城 神 社 | 鳳凰城 | 同 | 5.10 10.17 |
| 關 家 河 神 社 | 關家河 | 同 | 5.7 9.25 |
| 新 田 神 社 | 新田 | 同 | 5.22 9.22 |
| 遠 國 神 社 | 遠國 | 同 | 5.15 9.15 |
| 廣 國 神 社 | 廣 國 | 天照太神 大國主神 | 4.20 9.15 |
| 新 子 神 社 | 新子 | 天照太神 | 9.21 |
| 關 家 神 社 | 關家 | 天照太神 大國主神 | 9.9 |
| 昌 田 神 社 | 昌 田 | 天照太神 大國主神 | 9.20 |
| 新 田 神 社 | 新田 | 天照太神 大國主神 | 9.15 |
| 公主嶺神社(本 社) | 公主嶺 | 天照太神 | 4.20 8.21 |
| 新 田 神 社 | 新田 | 同 | 8.7 9.10 |
| 共 善 神 社 | 共善 | 天照太神 大國主神 | 8.14 9.14 |
| 范 家 神 社 | 范家 | 天照太神 | 5.10 10.10 |
| 廣 國 神 社 | 廣 國 | 天照太神 大國主神 | 5.15 |

計 42社

滿洲神社建設計畫 滿洲神社建設計畫は過般來有志の手に依つて延運動が斷續されてゐたが、殊に永年の懸案とされてゐた滿洲四領政治統一及び滿洲國承認も成つた後は、俄然具體化し、總工費50萬圓を以て、千古不滅の由緒ある戰蹟地族順の靈地を選定し、永山旅順市長を會長に奉建會を組織すると同時に、今春來東京に派してゐた若林不比等氏等を中心として奉建會を組織して極力建設の期を早めるべく努力してゐる而して東京に於ては軍部を初めとして各神社當局等朝野を舉げ、共鳴してゐるので、目下は今後の具體的實行問題にその方針及び今後の運動方法について協議中であるが、近く敷地設計等に涉つて充分なる調査立案をなすため内務省神社局の専門家が來旅する趣であり、尙々漸次具體化するものと見られてゐる。

第八 藝 術

(一) 文 藝

(1) 總 說

ここに收めた記録は、昭和6年9月より同7年10月に至るものである。丁度滿洲事變勃發當時より、1箇年に涉つたもので、間接的ではあるが、事變に現はれた種々相を反映したものが多し。

出版物を單行本の上からみるならば、7年3月には「滿洲文藝年誌」第1巻が上梓された。これには、詩、川柳、小説壇の主なる人達の作品が網羅された。巻末には「滿洲文藝運動史」「滿洲文藝家名簿」が附されてゐる。6年12月には、戯曲集「どよめく街」佐藤光著が上梓、戯曲7篇が收めてある。

詩壇からは、12月に「三人集」「黒多酒の歌」前者は土龍之介、高橋順四郎、落合郁郎の共著、後者は城小確著、詩19篇。7年5月に「一月の河」安達義信著、詩23篇。8月に「氷の道」古川賢一郎著、詩19篇。

歌壇からは、6年12月あつしや短歌會から「晴嵐集」、2月に法橋品造著「萩の下路」、6月神山哲三著「結土」。

童話集としては、6年12月石森延男著「こんつき」、同月「白いれずみ」政本勇著が出版された。

雑誌には、歌壇に「滿洲短歌」「合韻」、俳壇に「平原」「滿洲」「大連通信俳句」がある。

詩の雑誌としては、諸谷司馬夫、瀧口武七の手で2月以來隔月發行「蝸牛」がある。城小確がパンフレットとして「阿片」を2冊、他に「廣場」1冊を出し、これには、小説、詩、翻譯をも載せた。

6年10、11月には「滿洲文藝パンフレット」第1、輯が出た。これは総合的なもので編輯には中村秀男が當つた。青木實は、

藝

2、4月に「彩」第1、2號、10月には「御冬」を刊行した。何れもパンフレットで、内容は各種に涉つてゐる。同10月に、安達義信、青木實、竹内正一、島田幸二、島崎恭爾、落合郁郎、城小確、を同人として、クオマリ「文學」第1號が刊行され、新京から月刊「高梁」が出た。

「新童話」は2月以降その形態を變へ、上級用、中級用、下級用の三冊子に別れ、毎月三冊宛刊行した。9月からは「郷土滿洲」と改題し、内容を擴張し、理科、地歴、等のものも入れることになつた。而し、11月限りで廢刊されてしまつた。

新聞の文藝欄は、依然として振はず、「大連新聞」に「川柳一線社例會句」井上麟二選。「俳壇」高山峻峰選。「滿洲日報」に高橋月南選「柳壇」、島田青峰選「滿日俳壇」等があるのみである。

(2) 小説、戯曲

〔滿蒙〕 10月號戯曲「王昭君」郭沫若作、山本宗次譯。11月號戯曲「白話體の進歩」姜夔敬作、立花揚子譯。1月號「凱歌あがる下に」大庭武年、「第一段の完了」臺南翁一耶「雪原の波方へ」岡田大六、戯曲「馬占山の娘」田中總一郎。2月號戯曲「南行列車」篠垣鐵夫。3月號「女學生陳青紙の更生」近東橋十郎。4月號「黃塵」柳葉亭二。4、5月號戯曲「張學良」大庭武年。7月號「スナイと愛恋」聖田武彦。他に9、10月號、「閨房湯」11月號「女曲」12月號「怪公子」、2月號「神楽と財星に逢へた話」、5月號「怪夢」、6月號「狐美人と美人」等、柳葉亭異からの柴田天馬譯が載つてゐる。

〔新天地〕 4月號戯曲「後晴れ」青木實。

10月號「秋の旅」谷川らん。
 【大陸】7月號「諸君失業に厭なものである」近東綺十郎。8月號「小盗見市場」篠垣鐵夫。「青いソーダ水」花旗一郎。9月號戯曲「下手人はない」志野羊吉。「秋」篠垣鐵夫。10月號戯曲「匪賊の来る夜」篠垣鐵夫。戯曲「夜」青木忠雄。
 【滿洲文藝パンフレット】第1輯「一つの型」青木實。「耳を病む私達」阿武洗二。「或る友への手紙」三沼柳子。「歪められた人生」椿美代子。「支那犬を殺した鮮人」冬木卓。「治療病院點検」篠垣鐵夫。「大鼻老六とあいつ」周青運作。大藤鐵譯。第2輯戯曲「嵐」篠垣鐵夫。「神様の話」青木實。「K生」曲傳和。「めばえ」西峰明子。「ある男の終焉」阿武洗二。戯曲「國境近く」大藤鐵。「彼女等の秋」近東綺十郎。
 【彩】第1號「崖下にある家」島田幸二。第2號「夏の夜」青木實。「雪の降る頃」竹内正一。「曇り日」島田幸二。
 【廣場】「孫興善」稻葉亨二。「汚濁の階梯」岩根正雄。「はっなごと」青木實。「四人の友」島田幸二。「大和尚山の挿話」城小確。
 【滿洲公論】5月號「陣途」丘保馬。6月號「滿洲國」丘保馬。「文明理髮舖の超破平」近東綺十郎。7月號「大連にて」青木實。8月號「林檎と蜜柑と貝柱」篠垣鐵夫。9月號「生きること」青木實。10月號「朝鮮の青年」清川史郎。「泥濘」篠垣鐵夫。「古集」丘保馬。「戯言」大谷武男。
 【文學】第1號「秋までの話」青木實。「受胎生たる」竹内正一。
 【御冬】「口福」竹内正一。「花札」青木實。
 【高梁】10月號「送話管の夏」内海啓二。「堀」丘保馬。「おばさん追放」杉島豊比古。
 【協和】10月15日號「ワンプを履る」田村秀男。1月1日號より連載。連作小説「地平線の彼方」佐藤通男。古川賢一郎。青木實。金丸精哉。大谷武男。加藤郁哉。1月1日號「手紙」青木忠雄。戯曲「天の御柱」谷

口嶋兒。3月15日號「宿營」青木忠雄。「生活の波」青木實。4月1日號「或る義勇兵の死」隈元無人。4月15日號「小使と伴」鷺見英樹。5月1日號戯曲「村のエピソード」谷口嶋兒。「豚」秋原勝二。5月1日號より3回連載「明けゆく滿蒙」大庭武年。
 【童心行】10月號「彼女の場合」1月號「尙といふ男」2月號「その前日」3月號「街角の母子」4月號「胸形櫃の銀」5月號「二人目の父」以上小池歩。9月號「若き漁夫の歌」江上照彦。10月號「或る犬の物語」石川敦子。「似顔繪畫家」江上照彦。
 【國語と教育】9,10月號戯曲「敗者」小池歩。「歸る」八木橋常。
 【女子青年】4月號「春に穿くむ」近東綺十郎。5月號「子を棄てて」篠垣鐵夫。3,4,5月號「インテリグラフィ」西峰明子。
 (3) 評 論
 【滿蒙】9月號「中國プロ文學運動の史的考察」大高巖。「田漢に就て」大内隆雄。10月號「最近中國文藝界」出上萬一郎。11月號「中國左翼作家の見た滿洲事變」出上萬一郎。「左翼作家鄭伯奇」大塚令三。12月號「中國文壇近事」高秋夫。2月號「左翼文藝陣から見た中國の大衆」出上萬一郎。3月號「寂寥たる滿洲文藝界」群家陸夫。4月號「紅樓夢に現はれた近代的女性」大高巖。9月號「魯迅再吟味」大高巖。
 【新天地】10月號「蝶つがひ」大谷武男。11,12月號「文藝時評」大谷武男。1月號「プロレタリア文學の闘争的使命」エ・ウ・ロフ著佐藤通男譯。「國境を越ればを讀む」大谷武男。10月號「文章に就て」大谷武男。
 【大陸】6月號「時局と文藝」鷺見英人。9,10月號「文藝時評」大内隆雄。
 【滿洲文藝パンフレット】第2輯「植民地文學のために」星野てつ。「何をなすべき」新藤賢太郎。
 【彩】第1號「犬養健と志賀直哉」大谷武

男。
 【滿洲公論】4月號「戦争文學」高尾雄二。5月號「大衆雜誌と婦人雜誌」高尾雄二。10月號「在滿作家の立ち遅れ」大内隆雄。
 【大陸】9月號「支那の探偵小説」松崎義信。
 (4) 隨筆、小品
 【滿蒙】4月號「新義州の奥懐」古川賢一郎。7月號「金州叢談」森田富義。8月號「海上奇談」森田富義。9月號「杏錫露」森田富義。
 【新天地】9月號「秋思記」青木實。7年9月號「許負の觀相」森田富義。
 【彩】第1號「シヤルル、ルイ、フイリップ」近東綺十郎。「上野の櫻」青木實。第2號「貝殻」青木實。「雨」島田幸二。
 【文學】第1號「秋涼雜記」島田幸二。「栗の花」安達義信。
 【御冬】「電車の中」島田幸二。「蠅」篠垣鐵夫。「北滿の秋」北野浩一。「近道」青木實。
 【山】「雨の汽車旅」青木實。「夕方のこと」島田幸二。
 【國語と教育】8月號「鳩」八木橋常。「教へ子と彼」平方久直。
 (5) 詩
 【滿洲文藝パンフレット】第1輯 城小確 英精男。中島嵐兒。第2輯 英精男。中島嵐兒。島崎恭爾。山中一。
 【蝸牛】第1-4號 諸谷司馬夫 瀧口武士。
 【彩】第1號 古川賢一郎。城小確。第2號 安達義信。落合郁郎。
 【廣場】高木恭造。安達義信。落合郁郎。
 【文學】第1號 城小確。落合郁郎。島崎恭爾。安達義信。
 【御冬】城小確。島崎恭爾。落合郁郎。
 【阿片】第1,2號 城小確。高木恭造。
 【童心行】9,10月號 杉野一湧。12月號 赤塚吉次郎。小池歩。1月號 杉野一湧。

6,7,9月號 小池歩。10月號 杉野一湧。矢澤邦彦。小池歩
 【滿蒙】6月號「大連新小唄」堤秀二。「奉天新小唄」今永茂。「長春新小唄」坪井一彦。
 【協和】6月15日號「大連埠頭音頭」今枝折夫。
 (6) 短 歌
 【含萌】9月號同人關出詠者。西田猪之輔。寺本初音。三宅雙子。三沼柳子。柿谷伸吉。安藤英子。伊與部悦男。伊東千鶴子。中尾千代。西島貞子。荒川石楠花。10月號 末野樹。永原いれ子。西澤流。「川田順氏の近業」N生。11月號「川田氏の詠」神山生。12月號「我がくされむを眺めて」永原いれ子。尙12,1,2月號に涉つて「昭和6年を顧みて」荒川石楠花。1月號 散文「晴虛集を讀みて」N生。2月號 神山哲三。御室茂夫出詠。3月號「川田順氏を迎へて」荒川石楠花。5月號「歌集眞清水」N生。6月號「龍子高紀行」西田猪之輔。鈴木澄秋。成島ふみ。「三徑集を讀む」山下無花果。7月號「歌集緒土卷末記」神山哲三。「得利寺附近の風景」南一草。8月號「緒土を讀む」西島貞子。「歌は人格で作る」神山哲三。「歌境断片」永原いれ子。「端詞と歌との關係」小山三代治。「誕生期間」末野樹。其他の隨筆がある。9月號「カーネーションと石榴」西島貞子。10月號「朝露を踏みて」松山みそぎ。
 【滿洲文藝パンフレット】第2輯 神場磨須子。甲斐水棹。
 【彩】第1號 三宅雙子。橋本英子。
 【國語と教育】7月號 内山義雄。谷山つる枝。小林正則。9月號 平井嚴男。小林正則。散文「窪田先生に師事するまで」内山義雄。
 【愛兒と家庭】9月號 池内赤太郎。永原いれ子。10月號 甲斐水棹。1月號 内山義雄。
 【滿洲短歌】9月號 同人關出詠。八木

沼丈夫、河本茂次郎、原真弓、柿本静江、川邊悌二郎、太田廣實、出口王仁三郎、城所英一等、10月號には富田充、三木静子、高崎昌彦、田中榮介、山本友一、木田晴夫等が加り、11月號峰尾滿久、中島節子、有吉春雄、散文に「鶴を讀む」城所英一。1月號池野善雄、青木實、香川末光が出詠。1—6.8月號に涉つて「大倉警夫の歌」原真弓。1月號「山住の記」川邊悌二郎。2月號、三溝沙美、大塚白穂、野中雄次出詠。「短詩運動勃興の時日」城所英一、「五龍背」川邊悌二郎。3月號、「ゆらに就ての一考察」香川善雄、8—6月號に「近郊探勝」三溝沙美。4月號、長谷川翁太郎出詠。「彌生雜感」竹内完。5月號、加藤鐵、河瀬道子、森厚出詠「香爐を壞すな」城所英一。「五月の記録」富田充。5月號「思ひ出」河本茂次郎、「歌誌瞥見」青木實等「涼雨集選評」城所英一。7月號中島節子出詠、「歌集月旦」城所英一、「歌誌瞥見」城所英一。「地方色といふもの」城所英一。8月號「僻遠に讀らるる個性」城所英一、「歌誌瞥見」富田充。

(7) 俳 句

〔平原〕9月號「回顧1ヶ年」三木朱城、「夙川盤持」神吉五十規、10、11月號「断片」岩木露環、「句修業せざりし記」三溝沙美。11月號「雜誌稿を視ながら」岩木露環、「明治のことども」三溝沙美。12月號「運轉感」岩木露環、「滿洲風景」沙美。1月號「茶ばなし」岩木露環。1、2、3月號「電聲を聞く」朱城。2月號「雨り籠る」三溝沙美、「滿洲新季題」沙美等。3月號「茶ばなし」岩木露環、「時局と俳句」沙美等。4月號「生きのこる祖先」松野自得、「春光をあびつつ」杉田久女、「下總の春」齋藤雨意。5月號「茶ばなし」岩木露環、「梅日和」上林煤六。6月號「冬雪の境地」山本梅史。6、7、8月號「滿洲色俳句」久米幸麿。8月號「小俳話」岩木露環。9月號「蕪草小閑」宮安風生。10月號「大阪

より」田村木岡。「在京句修業」三溝沙美。全號を通じて、雜誌欄は、岩木露環選、研究入門欄は久米幸麿選。

〔滿洲〕11月號「隨筆」野島島人、「雨を聴く」加藤逸水樓、「私を語る」高山峻峰。11、12、2月號「歐洲への旅」高山峻峰。12月號「涌立つ血潮」秋山岑月、「はぐれた女」野島島人、「俳句小言」小泊朱人。12、2、3、10月號「檀俳句の話」高山峻峰、1月號「元旦と山嶽」高山峻峰、「滿洲季語漫談」加藤逸水樓、「彼と若者」野島々人、「初冬」古川冰江、「信濃の一月行季」西村嘉水、「上海ゲーテングリツナ」嬉野波樓、「雪の一と道」高山峻峰、「田家早梅」江自我孫子。2月號「俳句研究」酒井津華「燒山寺の一夜」野島々人。3月號「隨筆」野島々人、「雪苑閑語」高森久住。10月號「自然のふところ」野島々人、「日輪草」白石久詩子、「滿電バス沿線」高山峻峰。尚、雜誌(後に滿洲旬帖)は、毎月高山峻峰選。

〔大連通信俳句〕9月號、「滿洲植物一覽」、10、11月號に「秋郊往來」。11月號「俳壇戦線の異状」准亭。12、2、3、6月號「滿洲俳壇人の横顔」。1月號は事變吟特輯號である。「戦塵去來」折田翠村。3月號「雨水」北仙生。4月號「支那語になつた俳句」古川冰江、「啓蒙」早川北仙。6月號「哀しき春」古川冰江。7月號「ハルビン探色録」太郎生。「綠蔭雜筆」洗心樓。外に毎號同人近詠が載つてゐる。

(8) 川 柳

〔滿洲文藝パンフレット〕第1輯、「は5切れた心」山尾水叫坊。

〔滿洲公論〕5月號「滿洲國川柳行脚」大島瀧明。

〔協和〕1月1日號、「遠の種々と川柳」大島瀧明、7月1日號「川柳夏のアヲ」大島瀧明。

〔國語と教育〕7、9、10月號「川柳集」佐々

木橋三。

〔愛兒と家庭〕1月號「俳句と川柳に現はれた旅」大島瀧明。

〔糞泥〕9月號、「柳月老の事ども」天狗太郎、「柳界近事二題」青龍刀。10月號、「燈臺下暗し」若蛙。11月號、「滿洲車變と純川柳」若蛙。12月號、「柳調と俳調」高橋月南、「循環軌道をこる川柳」若蛙。1月號、「猿の人真似」、「烏兎勿々録」青龍刀。2月號、「支那兵と傘と銃」江川瓶三、「不易流行」若蛙。3月號、「透未透」江川瓶三、「唸り嵐」若蛙。4月號、「くつろぎ」錦魚。6月號、「川柳三世相」平穩寺住。7月號、「川柳探點法」月南、「劍腹瓦片」平穩寺住。8月號、「日の旅」可居、「不面白句」江川瓶三。9月號、「柳誌立體論」月南。9、10月號、「持寄り幽的物語」白庵。尚、毎號雜吟、例會句、題詠句が掲載されてゐる。

(9) 童話、童謡

〔新童話〕9月號童話、八木橋ゆじろ、政本いさむ、石森延男。童謡、境一之。10月號童話、石森延男、小池歩、峰ふぶき、八木橋ゆじろ、政本いさむ。童謡境一之。11月號童話、峰ふぶき、石森延男、政本いさむ、八木橋ゆじろ、童謡、境一之。12月號童話、石森延男、政本いさむ、小池歩、八木橋ゆじろ、山田健二、峰ふぶき。童謡境一之。

〔上級用〕2月號、童話、石森延男。童謡、丘光、杉野一湧、石森延男。3月號、童話、童謡、石森延男。4月號童話、八木橋ゆじろ、石森延男。6月號童話、八木橋ゆじろ、政本いさむ。童謡、境一之、小池歩、石森延男。7月號童話、政本いさむ、石森延男、童謡、境一之、丘光。8月號童話、石森延男。童謡、池内赤太郎、旗野二郎。

〔郷土滿洲〕〔上級用〕9月號、童話、小池歩。童謡、石森延男、旗野二郎。10月號童話、小池歩、八木橋ゆじろ。童謡、石森延男。

〔中級用〕2月號、童話、峰ふぶき、八木橋ゆじろ。童謡、石森延男、境一之。3月

號、童話、石森延男、政本いさむ、八木橋ゆじろ。童謡、丘光。4月號童話、八木橋ゆじろ、政本いさむ。童謡、石森延男、境一之。5月號童話、政本いさむ、あや、ふみを境一之、石森延男。6月號童話、峰ふぶき、政本いさむ。童謡、石森延男。7月號童話、八木橋ゆじろ、政本いさむ。童謡、杉野一湧、池内赤太郎、石森延男。8月號童話、小池歩、石森延男、政本いさむ。童謡、旗野二郎。

〔中級用〕9月號、童話、峰ふぶき、政本いさむ、石森延男。童謡、旗野二郎。10月號、童話、峰ふぶき、八木橋ゆじろ、政本いさむ。

〔初級用〕2月號、童話、境一之、石森延男。童謡、旗野二郎。3月號童話、政本いさむ、境一之、あや、ふみを、石森延男。童謡、旗野二郎。4月號、童話、政本いさむ。童謡、石森延男、境一之、丘光。6月號童話、政本勇、八木橋ゆじろ、あや、ふみを。童謡、石森延男。7月號童話、政本勇、石森延男、童謡、境一之、八木橋ゆじろ。8月號、童話、中溝新一、丘光、旗野二郎。童謡、石森延男。

〔初級用〕9月號、童話、石森延男、政本勇。童謡、旗野二郎。10月號、童話、緒方あや、石森延男。童謡、池内赤太郎。

〔愛兒と家庭〕9月號童話、平方久直。10月號童話、石田蕪。11月號、童話、平方久直。1月號、童話、水谷まさる。4月號童話、小川未明。7月號、童話、平方久直。8月號、童話、石森延男。10月號、童話、平方久直。

〔童心行〕9、10月號童話、石森延男。10月號、童話、政本勇。12、1、2、3、4、5月號童話、石森延男。5月號童話、政本勇。6、7、9、10月號童話、石森延男。

〔協和〕9月15日號、童話、新島藤一。10月1日號、童話、五龍三郎。

〔山〕中尾彰。〔國語と教育〕10月號、童話、平方久直。

(二) 映 畫

(1) 概 説

滿洲に於ける映畫は大連を中心として消長し、沿線各地は單にその延長たるに止まる状態にある。而して大連の映畫館は難題とされてきた改築問題を踏破して、改築第2年を迎へるもの2館(大日活、常盤座)、内部改築第1年1館(寶館)、改築第1年を迎へたるもの3館(中央映畫館、映樂館、帝國館)の新陣容を以て新館時代を以て臨んだ。

殊に本年度に於て特記すべきはトーキー熱の勃興であつて、全館中發聲映寫機を完備するもの4館(中央映畫館、映樂館、帝國館、常盤座)、備へざるもの僅かに1館(寶館)である。併し乍ら大連以外に發聲映寫装置を持つてゐるのは、奉天に於ける松竹系封切館である平安座あるのみで、大連以外の滿洲映畫界は、依然として無聲映畫時代に封じ込められてゐる有様である。

時局の影響 滿洲、上海事變並に滿洲國建國は映畫界にも反映して、一しきりは事變映畫の流行を見、各館共これが競映に狂奔し、内地映畫會社は事變映畫製作の目的を以て撮影隊を續々來滿せしめた。或は又駐滿軍隊慰問のための各映畫會社専屬俳優の來滿も亦頻々たるものがあり、更に又内地新業界の不況に迫られて、新天地開發を目指すもの多く、特に滿洲國建國後に於ては同國の文化方面の開拓のために映畫企業計畫が傳へられてゐた。

常設館の傾向 常設館の観客層から映畫に對する滿洲映畫界の傾向を總括的に觀察すると依然として日本物映畫全盛である。即ち、松竹映畫界の現代物、日活映畫の時代物、新興、東活、河合8社の大衆物——こ

の8者がそれぞれに独自の観客層を形成して、依然として日本物映畫の全盛時代を現出してゐる。この日本物全盛に對して當初に於ける洋畫専門館常盤座、映樂館の目覚ましい活躍も、本年度に於て特記すべき事象である。即ち、優秀なる作品が矢繼早やに封切りされ、興行合理化に努めて出來得る限り観覧料金の引下げを計つた。作し乍ら依然大勢は日本物全盛であつて、常盤座3月、映樂館は6月末を以て洋畫専門館ではなくなつた。新しく映畫興行の新しき傾向として日本映畫と洋畫を組合した所謂「混合プロ」といふ一種變則的な興行方法の流行を招來した。しかも日活、松竹系統封切館が此の「混合プロ」を編成したことは一層この傾向をして壓倒的たらしめた。

不況と映畫界 1932年度に於ける大連映畫界のあらゆる動きの裏にあるものは、深刻化して行く「世界的不況」の影響である。而してこの影響は各映畫館に於ける廉價興行の出現に現れた。これは内檢切れの映畫を20錢均一で見せる寶館の如き映畫館の出現と、優秀映畫の再上映の流行と云ふ二つの現象に要約される。

上映映畫系統 参考のため、1932年度末の各館上映々畫系統と、年度初めのそれとを比較してみれば、下の通りである。

| 館 名 | 年 度 初 | 年 度 末 |
|-------|----------------------|-----------|
| 中央映畫館 | 松竹(封切) | 同 |
| 大 日 活 | 新興、東活(封切) | 同 |
| 映 樂 館 | 寶館(封切) | 新興、東活(封切) |
| 常 盤 座 | 日活(封切) | 松竹(封切) |
| 寶 館 | 新興(封切)河合(封切) | 同 |
| 常 盤 座 | 松竹(封切) | 同 |
| 日 活 館 | 新興、東活(封切) (大日活設備) | 日活(封切) |

以上館中發聲映寫機装置せるものは

映樂館 (ウエスタン) 常盤座、中央映畫館、日活館(若ト・ビス・クラシク・システム三館)の館にして大日活(モーション)機は閉館により自然消滅に終つた。

尙帝國館は松竹セカンド・リン・シアターと化して再生装置を廢した。結局大連全市常設館中、トーキー設備有るもの4館、設備なきもの2館と云ふ状態である。年初5對1の優勢を示してゐたトーキー熱も年末に至り4對2に低減を來した事になつてゐる。

尙、西部大連として市外地區と見做されてゐる「沙河口」には第2大日活(長氏經營)あり、新興、東活の二番線を以て同地方民に有力な地盤を有してゐる他沙河口劇場——が各映畫會社の作品を隨時上映してゐる。共にトーキー設備未設である。

「西樹子」には滿洲國人相手の電影大戲院あり、支那映畫を上映してゐるが、此の方面は將來發展の餘地を多分に持つてゐるものゝ如くである。

(2) 主なる上映洋畫

主なる米國封切映畫 昭和7年度上半期に於ける封切映畫(米國物)の主なるものを挙げれば下の如くである。

| 市 街 | 映 畫 |
|----------|---------|
| デトラス無宿 | 雄飛天國 |
| インガキ | 雄飛世界行脚 |
| ラゲ・パレード | 半島天國 |
| スキー・ビー | ボルネオの東 |
| 脱獄Xの號 | 雄の映 |
| 奇 麗 | 雄飛の映 |
| ピクチャーハウス | 雄飛のト区 |
| 空中大奇襲 | 脱白大將 |
| 脱走奇蹟 | 山の雄飛 |
| 王様ごっこ | マルタの映 |
| 再生の海 | タイガー |
| 雄飛女中退治 | 黄金の世界 |
| トロイカ | ピクチャー |
| 雄飛利加の脱獄 | トレイダホーン |

| | |
|---------|----------|
| 美女は囃にゆく | 火の山 |
| 海行かば | 田五作ホームラン |
| 上海特急 | |
| 同年下半年期 | |
| 黄金馬車 | 空中雄飛 |
| 大男 雄飛 | 雄飛市街 |
| 火の旗 | キリムピフの金銀 |
| 白銀の乳母 | 脱走奇蹟 |
| 甘 粉の女 | 雄飛の映 |
| 巴里王子 | 君このとまき |
| 脱獄の映 | |

歐洲物並ソウエート封切映畫

| | |
|----------|---------|
| 昭和7年度上半期 | |
| 雄飛の一日 | 雄飛天國 |
| 雄飛の天國 | 雄飛ウエスタン |
| 奇 麗 | 人生の肉 |
| 同年下半年期 | |
| 私の母は天國 | 自由を我等に |
| 脱獄Xの號 | 雄飛の映 |
| バネの映 | 雄飛の映 |
| N | 雄飛の映 |

主なる再上映畫

| | |
|----------|---------|
| 昭和7年上半期 | |
| 雄飛の映 | 雄飛ウエスタン |
| 西部大連再上映 | |
| 昭和7年下半期 | |
| 雄飛の映 | |
| 雄飛 | |
| ハード少将再上映 | 雄飛の映 |
| 雄飛Xの映 | 雄飛の映 |
| アフリカは雄飛 | |

(3) 滿鐵映畫班の活躍

滿鐵情報係映畫班が、滿洲事變、滿洲國建國、我が正式承認等の慌だしい時局の動きを、「滿鐵」といふ最善のコンディションによつてカメラに収め、得難い数々の記録映畫を製作した。この時局物映畫に於ける滿鐵映畫班の活躍は默過出來ないものがあつた。

而かも、それが内地主要都市に於ける一流館で封切され、ニュース・リールとして一般の歡迎を受けた事も特筆されるべき出来事であつた。「敢然承認へ」等、最も顯著

な一例であらう。

(4) 滿鐵協和會館の功績

この他に滿鐵社員倶楽部の協和會館（ウエスタン・システム）の映畫界への貢獻も忘れる事が出来ない。

その主なるものは

- ▲毎月1回、學生映畫デーを開催
- ▲ソヴェート映畫館に市中常設館の上映出来ない非商業的映畫の封切上映等、特筆されるべき同館の功績である。

(5) 映畫人の來滿一瞥

◆1月 駐滿軍隊慰問と滿蒙ロケーションの爲め東活の實演隊1行約20名（若木總務以下藤間林太郎、南光明、岡田静江、桂珠子等）大舉來滿。（大日活挨拶實演）

◆市川右太衛門プロダクションの大江美智子來滿。（中央映畫館挨拶實演）

◆3月 入江たか子、東坊城繁長、菅井一郎と共に來滿。（大日活挨拶實演）

▲此の月、元日活會社事務たりし根岸耕一氏來滿。

◆4月 入江たか子を追ふて新興キネマ撮影隊は「滿蒙建國の黎明」（入江プロ、新興キネマ提携第1回作品）ロケーションに、監督溝口健二、川浪良太、カメラマン青島順一郎、俳優中野英治、杉狂兒其の他の新興キネマの主だった面々が來滿した。

(三) 美 術

概 説

昭和7年の滿洲美術界を説くとすれば、其主題となるものは何と云つても第2回滿洲美術展覽會である。評議員から互選された選定員（岸善、平島信、山城竹次、境野

◆7月 富國退社の高木永二、吉田豊作、清水俊作、山下澄子、春田英子等、實演隊を組織來滿。（常盤座實演）

◆8月 文部省の滿蒙事情紹介撮影班、島居龍藏博士、碧海圖書監修官、中田社會教育官、雨夜囑託、撮影技師白井、河合、齋藤、伊藤八氏來滿。

◆映畫監督（新興）富澤進郎氏來連。

◆9月 神戶の澤田義雄プロダクションの實演隊1行來滿。（常盤座）

◆映畫監督中川四郎來滿。

(6) 映畫關係團體の設立

△滿洲映畫人協會の設立 内地映畫人の來滿頻々たる事が一つの刺戟となつて、11月に滿洲映畫人協會の設立をみた。11月下旬、發會式を兼ねた第1回總會を開いたが會員約50名。本部は大連市青雲臺、松尾方發起人委員 根岸耕一、富澤進郎、松尾駒雄、早川一郎、工藤興吉、西村文之助、横澤安、白藤六郎、伊藤義、安田友彦、小田英澄、小泉五郎。（趣旨、事業計畫等略）

△全滿小型映畫聯盟 既に大連小型映畫協會等の組織は行なはれてゐたが、全滿各地に於ける此種團體を打つて一丸となし、「小型映畫普及」の積極的運動を更に強力化するべき目的の下に、富澤進郎氏等を中心に9月全滿小型映畫聯盟の設立をみた。

一之、東洋畫、伊藤順三、甲斐巳八郎、石田吟松）が出品總點數414點の内から西洋畫163點、東洋畫35點を鑑別入選した。入選者は滿洲に於ける畫家（アマチュア）を殆んど網羅して居り、量に於ても前年の第1回より多くなつて來てなると共に、質に於て

も西洋畫部の如きは總體に一步前へ出て且つ新人の動きも潑刺として居た。但し東洋畫の方面は新人も出ず、從來よりの人々も亦前年以上に出なかつたとの評が多かつた然し何れにしてもこの展覽會を以て滿洲美術界の全般をうかがふことが出来、又、その結果、滿洲美術界は昨年よりも確かに向上の動きを示したと共に、この展覽會が大連以外奉天、同城内、新京と移動して開催したことは滿洲美術史の昭和7年度の頁に特記すべき事業である。

同人的團體としては黄塵社が4月に結成された、日本畫、家具、工藝、商業美術、版畫と云ふ各方面の作者が、或る意圖を同ふする點で相寄つて各自の作品を發表する會である、5月及10月に2回の展覽會開催同人伊藤順三、大野斯文、稻葉亨二、甲斐巳八郎、坂根實の5氏。又、昭和3年創立以來今春迄展覽會を5回開催、洋畫の方面で最も新しき道を進みつゝ、滿洲畫壇に若干新鮮な氣分を實して來た木賊會が10月に解消して、その同人であつた1部の人々と新しく加つた人によつて11月五果會が生れ同月第1回展覽會を開催した。然し畫風の主調は木賊會の續きを歩むものかに觀られる。同人市村力、境野一之、濱野長正、米谷忍、山道榮助各氏。

個人としては6年11月山道榮助、渡枝次期兩氏が相次いで東京に去り、7年春は眞山孝治氏が歐洲に赴いた。又秋の二科會には滿洲在住の畫家として境野一之、濱野長正兩氏各1點宛入選した。

今年は内地からの畫家の來滿も特に記すべき程のものなく、又、内地畫家の展覽會として在滿畫家及び美術愛好者を刺戟したものはなかつた。

展覽會 1月13日—15日大連洋畫研究所主催洋畫展覽會三越、2月29日鶴田吾郎氏

素描展滿鐵社員倶楽部、3月1日鶴田吾郎氏素描展滿鐵社員倶楽部、3月8日—9日齊藤文人氏筆滿蒙空中スケッチ展滿日講堂、3月14日—18日黄塵社同人作品洋畫展覽會三越、4月8—10日池田季藏氏作品展滿日講堂、4月11日—13日甲斐巳八郎氏新滿洲風景畫展滿洲文化協會講堂、4月23日—24日谷山知生氏肖像畫展大連商工會議所、5月7日—9日宮本柳芳氏繪畫展覽會三越、5月7日—9日川上旗男氏洋畫展覽會三越、5月11日—13日ジヤパン・ツーリスト・ビューロー主催滿洲風景繪畫展覽會、三越、6月11日—12日西岡瑞穂氏個展旅順關東圖書館、7月16日—18日不折、龍子、李鏡外東都畫壇小品畫展覽會三越、7月21日東都大家作品展滿鐵社員倶楽部、7月29日北川翠巖氏揮毫及作品展大連商工會議所、7月29日—31日伊藤雲浦氏新作南畫展覽會三越、8月2日—3日日本創作畫展滿日講堂、8月9日伊藤雲浦新南畫展滿鐵社員倶楽部、8月22日—26日岡本大更畫伯近作美人畫展三越、8月25日—26日清宮壽氏個展滿日講堂、9月3日—4日井上長三郎洋畫展滿日講堂、9月5日—6日後藤眞吉氏個展大連商工會議所、9月10日—12日日本畫大家新作品展覽會三越、10月13日—14日生稻一翠氏洋畫展滿鐵社員倶楽部、10月15日原田氏油繪展覽會滿日講堂、10月27日—29日黄塵社展覽會三越、10月27日—31日第2回滿洲美術展滿日講堂、11月5日—8日西岡瑞穂洋畫展滿日講堂、11月5日—7日第2回滿洲美術展奉天マートホテル、11月5日—7日永原鐵治近作繪畫展三越、11月9日—10日林鶴三氏個展滿日講堂、11月9日—10日第2回滿洲美術展奉天城内教育廳、11月9日—20日第2回滿洲美術展新京西廣場小學校、11月27日28日五果會第1回展滿鐵社員倶楽部、12月5日—7日白石久三郎個展滿鐵社員倶楽部。

(四) 寫 眞

概 説

昭和7年の滿洲寫眞界は色々の意味に於て決して平凡ではなかつた。今過去1箇年に於ける主なる事業及概況を記すると次の如くである。

滿洲寫眞美術展覽會 滿洲寫眞界に於ける最大なる年中行事の一つであり、且つ又最も權威ある滿洲寫眞美術展覽會は滿洲文化協會主催、滿洲寫眞聯盟後援の下に1月16、17、18の3日間大連大連通三越樓上で開催、入選印畫は百數十點の多數に達し、參觀者多く極めて盛會であつた。

寫眞材料の暴騰 金輸出禁止にスタートした圓爲替の暴落は國際的に、政治的に、經濟的に諸種の事情が拍車を加へ落潮甚だしく、主として外國に供給を仰いでゐる寫眞諸材料は一齊に漸騰を辿り、無稅港の誇は高前の爲替高によつて一たまりもなく叩きつけられてしまつた。これは、從來惠まれてゐた在滿一般寫眞家にとつては大いなる打撃であると言はねばならぬ。

國産寫眞材料の滿洲進出 滿洲新國家の建設によつて滿洲の市場は内地生産業者の著目するところとなつたが、從來無稅港といふハンデキャップによつて、外國品に斷然抑へられてゐた國産の寫眞材料も暴騰といふ絶好のチャンスに乗つて奔流の如く滿洲のマーケットに押寄せて來た。滿洲に夫々エージェントを置いてゐる外國の各製造會社は潮の如き日本品の進出に周章頓挫し其の對策を講じてゐるが、國産品は非常な勢ひで全滿に侵襲し、外國品を將に驅逐せんとしてゐる。しかし、それは、主として乾板、印畫紙等であつてカメラ及びフィルム等はやはり外國品が優越な地位を有してゐる。

小型カメラの隆頭 昭和7年のアマチュア寫眞界に於ける著しい傾向の一つは、リイカ及グエスト16枚撮り等の如き小型カメラの滔々たる流である。これは寫眞材料の節約といふ經濟的原因にもよるが、組立てやレフの如き大型カメラの反動的流行と現代人の簡易主義的嗜好の現れであると思ふことが出来る。

寫眞研究俱樂部の盛衰 アマチュア作家によつて組織されてゐる各地の寫眞の俱樂部は近年年と共に會員數が次第に減少し、一頃の隆盛さに比べて甚だしく淋れてゐるやうであるが、新らしく創設された俱樂部はいづれも活氣漲り、その中にはジュニア、シニアの區別を設け多數の會員を擁し眞摯な研究を進めてゐる會もある。

光影俱樂部同人展 同會員の作品52點を集めて7月16、17、18の3日間大連大連通三越樓上に展覽會を開催した。

アマチュア小型映畫 小型映畫の會としては滿洲バレー聯盟があり、全滿主要都市に夫々バレー俱樂部があつて毎月例會を開き會員の作品を發表してゐる。

滿洲寫眞作家協會の結成 毎年文化協會主催、滿洲寫眞聯盟後援で開催してゐた滿洲寫眞美術展覽會は諸種の事情から7年度の開催を中止することになつたが、これを動機として新たに滿洲寫眞作家協會が結成された。此の會は軍司義男、玉川獻郎、山佐龍造(ハルビン)、馬場八潮、伊達良雄、井本幸一、水川リ陽、西澤野州、志波陽村、(新京)、岩本圭之助、山本晴雄、(奉天)、伊藤起一郎、安武康彦(四平街)、水間鐵雄(撫順)青山春路、萬玉榮次、榊原正一、世良正一、菅野紫峰、高津敏、米城善右衛門(大連)、等の諸氏を中心とするもので純情敬愛なる熱と力の研究團體として純寫眞藝術に精進

(五) 音 樂

(1) 洋 樂 界

總 説 滿洲の洋樂界は前年と同様、大連市を中心として奉天、新京、撫順、鞍山、旅順の順位に逐年進境を見せてゐるが、總體に於て華々しい動きこそないものゝ、至極著實に發展の経路を辿つて居ることは欣ばしい。殊に工場従事員に依つて組織せられたブラスバンドは高津滿鐵音樂會樂長の努力に依つて従來の沙河口、鞍山以外に4月から國際運輸本社内に16名編制のブラスバンドを創設した。尙滿洲國奉天市政公署に從屬した音樂隊は、最近新京に進出し優秀なる者約60名の合同大編制となる模様である本年度に於ける内外より渡滿した音樂家としては伏野綾子、藤原義江、サンバリスト、宮川美子、永井郁子、ザルマンシエツクス、三浦環、フツクス等舞踊では石井漢、高田せい子等の重鎮も顔を見せた特に社交ダンスの隆盛となるに従つてジャズオーケストラも同様大分洗練されて來た遼東ホテル附屬のロイヤルバンド其他團體の功績も決して尠くはない。昭和6年秋の事變から滿洲國創業を交へて之等の時局關係の作歌作曲も相當數に上つたが滿洲では村岡樂童氏の努力を多とせねばならぬ。關山大連音樂學校長は唱歌教材編纂の傍ら2月に「われら陸軍」と「新滿蒙」を、渡滿10周年記念として「滿洲小唄」を夫々出版した。大連新聞社はボイドールの後援で滿洲三都の唄を公纂、大連奉天新京の新小唄を、滿洲日報

日一18日光影俱樂部主催美術寫眞展覽會(三越)、7月29日—31日尾崎豐三氏作品藝術寫眞展覽會(三越)、12月5日—9日東京日日新聞社後援空より見たる大東京寫眞展覽會(三越)。

社ではコロンビアの後援で「大連シャンソン」と「大連行進曲」を募集していづれもレコードの吹込を完了した。

大連音樂學校 大正13年2月關東廳認可、校舍を天神町1に置く。關山民平氏を校長とし、本科、師範科、選科いづれも2年、別に研究科を設置。現在生徒254名。講師は(ピアノ)關山校長、増田信子、古藤孝子、土井文子、渡邊良子、道家信子(ヴァイオリン)岩崎寛、(オルガン)藤田喜三郎の諸氏の外、別科格に社交舞踏科があり安部讓氏が擔任。本科には別に神明、彌生兩高女、女子商業の生徒中音樂に天分のある向90名を選んで合唱團を組織し正式に指導をしてゐる尙昭和3年4月から邦樂も加へ、長唄、箏曲をも教授する模様である。

ブラスバンド 滿鐵が従事員の情操陶冶の目的を以て計畫されたブラスバンドは沙河口鐵道工場と鞍山製鐵所の2箇所にて何れも順調な成績を以て發達し來つたが、沙河口には高津敏氏、鞍山石丸聖吉氏指導者として何れも30名程熱心に努力し現在では出張演奏を行ふやうになつたこれに刺戟されて大連國際運輸本社でも16名編制のバンドを作つて高津樂長の下にそれが大成を期してゐる。

滿鐵音樂會 大正11年の創始、現在洋樂80名、邦樂約30名の練習部員である。講師(ヴァイオリン)高津敏、岩崎寛、(ピアノ)渡邊良子、(マンドリン)伊藤十五郎、近藤良太郎、(琴古流尺八)名和榮次郎

(都山流尺八)草崎圭山、(寶生流謡曲)片桐登作、(親世流謡曲)五十嵐吉太郎、岡松典三郎、(梅若流謡曲)久世哲三の諸氏である。尙撫順支部は大正13年12月創立し本部同様洋邦二部に分け何れも熱心に研究して居る。

ヤマトホテル管絃樂團 大連ヤマトホテルでは大正4年11月以來管絃樂隊を從屬として居るが樂師5名は樂長岩崎寛氏と共に海軍艦隊をやつて居るが、食堂ミュージック以外、定例ダンス會の爲にジャズ方面にも力を入れて居る。

大連及び沿線に於ける樂團體は下の如くである。

大連高等音樂學院 大正4年以來多數の女士に音樂教授をして居た村岡樂童氏は更に之を擴張して大連高等音樂學院を大連市東公園町7番地に創設した。總務兼講師として村岡氏はピアノ、樂典管絃樂構成法及指揮法其他音樂理論全般を擔當する外東京音樂學校本科出身の遠藤郁子夫人(ヴァイオリン)同じく筑瀬尚子夫人(ピアノ)同じく村岡トメ子夫人(ピアノ、オルガン)何れも上野出身の人々を以て活躍して居る。

合唱を樂しむ會 大連の夫人及令嬢の團體としてすでに7年の歴史を持つ大連唯一のアンサンブル團體として定評がある。毎週1回村岡樂童氏指導の下に合唱を樂しみ研究して居る大連音樂界の異彩である。

奉天音樂學院 9年9月大連高等音樂學院の分院として奉天平安通り19番地に創設村岡樂童氏を院長として池上等、佐藤秋男、小田立子夫人、武田壽平氏等を講師として華々しいスタートを切つた。

奉天管大交響樂團 滿洲唯一の大管絃樂團として誇り得る團體である。60餘名の團員を有し奉天ヤマトホテル音樂隊長のスタロスキー氏指揮者として毎年2回大演奏會を開催して居る。

日本交響樂協會大連支部 東都管絃樂會

の一方に重きを爲す山田耕作氏を中心とする同協會の支部は、前記大連高等音樂學院内に置かれ、主として哈爾濱を中樞として露西亞近代音樂の取次及び西北利亞山渡日の内外樂人の紹介事務等を取扱つて居る。

シアートリカル・ピユウロー 大連東公園町7に事務所を置き藝術家の紹介、音樂會その他の世話を爲す機關として相當の努力を拂つて居る。

音樂會 1月23日ザルマンシエツクス氏ピアノ獨奏會協和會館、2月14日ツリ・ノツクス嬢ピアノ獨奏會協和會館、2月17日—19日宮川美子嬢獨唱會協和會館、2月21日滿洲鐵道金受園音樂會協和會館、3月22日大阪市音樂隊演奏會協和會館、3月20日大連舞踊研究所春期公演協和會館、3月27日齋藤佐和氏ピアノ獨奏會協和會館、4月9日第二艦隊軍樂隊演奏會協和會館、5月6日—8日淡谷のり子女史民謡獨唱會常盤座5月7日萩野綾子女史獨唱會協和會館、5月12日永井郁子女史邦語獨唱會協和會館、5月23日三浦環女史獨唱會協和會館、5月25日滿鐵音樂會試演會協和會館、8月20日萩野綾子女史北滿水災義捐獨唱會協和會館、8月21日鞍山ブラッセンド演奏會ヤマトホテル、ルーフ、8月27日ロシアヨサツク合唱團協和會館、9月8日ザンボリスド氏ヴァイオリン演奏會協和會館、10月5日藤原義江獨唱會協和會館、10月26日滿鐵音樂會試演會協和會館。

(2) 邦 樂 界

總 說 滿洲に於ける邦樂界は之を三味線による義太夫、常盤津、清元、長唄、小唄等と三味線によるざる華曲、琵琶、謡曲、尺八等の二種に大別する事が出来る。當地方新界の状況は内地主要都市に較べて著しく遜色あるも大連市のものは外觀上稍形態整ひ各藝ともに相當な同好者あり、夫々の師

匠を中心として各種の團體も組織され機會ある毎に演奏會の催し等も決して少くはない。随つて内地より新藝方面の有力者渡來の場合には概ね數日の演奏會會催が例になつて居る。近年内地一般の不況に伴ひ師匠連の新天地を求めて渡來移住するなどもありて最近各藝とも師匠無きの嘆を耳にすなくなつたが、猶且常盤津、小唄等は幾分師匠離の傾向にある。

以下大連に於ける各藝に就て聊か近況を叙して見る。

謡曲・仕舞・狂言 謡曲は邦樂中最も高尚で且つ研究し易い爲め、上中流の家庭を通じて古くより廣く流行して居る。随つて各流共相當の會員を有し春秋二季に大會、毎月小集會を催して居る。近年滿洲全般に互り謡曲の流行は全盛を極め沿線到る所團體無き所なしと云ふ有様である。更に近年謡曲より更に一步を進め四拍子(蝶子)は勿論完全なる能樂を研究するもの多く大連一樹會の如きは發達し稍や完備して、毎年數回能會を催して居る。

四拍子(蝶子)を教授して居るのは一樹會(森川莊吉氏)のみならず、片桐敬博師、久世哲三師、白井岸敏師、辰泰一期師等は之を兼けて教授されて居る。此傾向は要するに滿洲の能樂界が漸次進歩向上して素流のみにては満足し得ざる域に達し來れる微である。

昭和7年度に於ける特記すべき事項は、7月中觀世俱樂部の主催にて大阪觀世流の権威大西信久、信彦、手塚貞三、井田文三師等一行が安東、奉天、鞍山、大連に於て能會を催したると、寶雲會主催の下に大阪寶生流の巨匠、辰己孝一部師父子で同時に大連に於て能會を催し又11月23日に一樹會が創立15週年記念演能會を協和會館に開催し、越えて12月4日には喜多流滿洲支部主催にて白井岸敏師渡滿10週年記念演奏會を大連羽衣高等女學校大講堂に於て開催せる

等を擧げることが出来る。其他喜多流白井師は大連神社春秋二季大祭には例年奉納能を催してゐる。

滿洲に於ける主なる謡曲團體を擧げれば下の如くである。

Table with 3 columns: 演 名 (Performance Name), 師 名 (Teacher Name), 団 體 名 (Group Name). Lists various groups like 觀世俱樂部, 寶雲會, 觀正會, etc.

記號内は字體にて記載するもの (Note: Symbols indicate characters to be noted in the text body)

長 唄 滿洲に於ける邦樂各藝の中で謡曲と對立して社會の各層によく普及されて居るのは長唄であらう。大連市中に於ける新藝の師匠は大小有名無名を合せて約70人に上るべしと稱せられるなどは遺般の消息を傳へて居るものであつて、之に見ても沿線各地を通じての長唄熱は凡そ推察が出来る。今大連の知名の師匠及び團體名を擧げ

直門の延益富師を招聘し清元研究會を組織し多数の會員を擁し隆盛を極めたが6月末頃逝去した。爾後又々小野氏の肝煎にて延美佐榮師を迎へ故延益富師の門下を指導してゐる。他に普壽齋太夫と共に來連した榮道師が6年春より居を大連に定め専ら清月の藝技運を中心とし市中同趣味者に教授しつつある。

旅順に於ては一時大連に在りし喜代見太夫が花柳界方面其他の同好者に稽古をなしつつある。同地には清元界の元老多波羅氏ありて新界の爲盡瘁してゐる。

常盤堂 大連の新界は嘗て檢番に林中派の岡賀津あり、餘るまだの三味線と相俟つて相當の根據を成したが、のち新派の操太夫來連して長巳連を組織し對立の狀を呈した時代もあつた。大正12年岡賀津姉妹東京に去つて再び來らず。操太夫また天津に留り一時大連に常盤津の聲を清めたのであつたが、操太夫は關東震災直後、岸澤家元を離れて獨立した勘右衛門勝藏の兩弟に迎へられて天津より東上、六代目菊五郎一門として調正會派を起し、兄弟協力して中央に豐然たる勢力を樹立した後も新大連の地盤を捨てず、調正會支部を特設し毎年數回渡連し新舊會員の稽古に當り來連毎に必ず演奏會を催して同好者の渴を醫した。昭和4年調正會の主力を大阪に移すに及び妻女正惠師を2箇月毎に渡連せしめ其都度2箇月位滞在會員の稽古に當りて以來一般にも著しく常盤津熱を高め、現在に及んで居る。昭和5年10月の大檢温習會の常盤津はすべて正惠師の補導であつた事は一般の知る處である。同年11月操改め二佐太夫の改名披露演奏會を2日間トホホテルに催し「釣女」と「乗合」を演じ好評であつた。斯くて現在大連に於ける常盤津は調正會會員として結束した伊東、小野、藤田の諸君を中心

とする約20餘名が殆んど全部と云ふも過言で無いが其他に文字派の名取として知られて居る、大檢あるんあり、別に勉強會を組織して檢番藝妓中の熱心者の手解きに當つて居る。また元の岡賀津門下であつた山下千代子夫人が家庭的に夫人令嬢等に常盤津の普及に努めつつ時々大連放送局を通じて放送してゐたが近年健康を害し内地に於て靜養中の趣である。其他常盤津歌助なる女師匠が一時居住したが僅かにして消息を絶つに至つた爲め現在にては定住の師匠は1名もなく、趣味者として藤田揚一氏夫妻あるのみである。

小唄 大連に於ける小唄は昭和6年頃迄は専門の師匠が無かつた。同年櫻川遊亭ふさ師來連稽古所を開き花柳界を始め市中に相當の入門者があつたが、1箇年餘にして歸京した。其後故櫻川六平の妻女が東京に於て名取となり、現在田村てる枝となり遼連町に於て稽古所を開いて居る。最近堀返の堀小勇保師來連 JQAK より放送したが間もなく歸京した。

筑前琵琶 筑前琵琶は明治41年頃在大連の一看護婦三井禮により産聲を上げ、間もなく山内時子と云ふ婦人が當時の松公園(現在の松林町)に居住して筑前琵琶の宣傳に努め20餘名の門弟を有し時々演奏會を催したが、兎に角大連筑前琵琶界の始と云ふべきである。其後大正6年頃法嶺山近師旭昂師、法星山生村規四師等が來連して新界に貢献し、中興の基礎を固めた。爾來駉々として隆盛に向つたが大正8年頃の黄金時代を境として漸次衰退の傾向である。

現在にては法位山服部旭龍師の「旭龍會」法愈山川原旭華師の「旭華會」法權山越越旭幸師の「旭幸會」法秀山江崎旭友師の「旭友會」等であるが昭和7年迄大連筑前琵琶界

に於て巋然頭角を顯はした大賀旭染師が家庭の都合にて昭和7年10月16日大連を去つた爲一層の淋しさを加へた。現在にては同師門弟に依り組織せられた「旭染會」があつて毎月16日を例会とし琵琶會を催してゐる。其他水嶋旭山師、田中旭帥師、松岡旭方師、土地旭靜師等が居る。

麗聲琵琶 大連に僅かに正派横溝湖城氏があつて時々 JQAK に出演して其名を知らるるのみである。他に池田、上村、藤田等の同好者あるも催會の無き爲其存在を認められてゐない。餘心流には「愛吟會」があつて會員に淺瀬水、横田老水、川西綠水、小田信成水、久米蓮水、鹽屋紫水、河口亟水、一山根水の諸氏が居り、地方には旅順に武田氏、奉天に秋田氏等の名があるが積極的でない。

邦樂研究會 滿洲の邦樂界に就て不斷の努力をつづけつゝあつた、現帝國通信支社長山口忠三氏は昭和5年邦樂研究會を組織し、其第1回を同年10月に、第2回を同年9月に公演して、新界に相當印象を與へた。7年には同氏が健康を害した爲遂に其第3回を開演する事が出来なかつた。昭和8年には滿洲大博覽會開設傳へられ、内地演藝界より相當の名流を招聘する計畫もあると稱せられてゐるが、此機會に於て同研究會を起用し意義ある邦樂研究の爲活躍されん事を要望されてゐる向が多い。(1932.12.10)

(3) 兒童舞踊

大連の童舞舞踊は一時の如き流行的傾向を脱し現在では藝術的に眞面目な研究的態度となつた。舞踊團の主なるものを順次之を擧ぐれば下の如くである。

大連舞踊研究所 榊木龜二郎氏が主宰して大連福島町75に研究所を置き會員數十名を有し、相垣滿壽千選、小野京子選等は大

連知名の少女藝術家である。陸軍舞團の荒川姉妹、リキ舞踊團の田中佐々市氏も一時此研究所で研究した。最近まで帝都や北平でステージに立つて居た澤リリ、女史も現在榊木氏方に滞在してゐる。

銀鈴少女會 西村不二氏の主宰であつて眞面目な少女舞踊の研究會として立脚し大連市播磨町の大連幼稚園で練習して居る。西村氏は陸軍戸山學校出身の打器物特にシロフォンに於ては知られた純音楽家であつて氏の振付にはテンポ、リズム等の印象を強く感じられる特色を有してゐる。同會には片屋六紫氏が日本舞踊の指導を擔任して居る。會員中佐志須子さん、巖掛姉妹等優秀な踊り手を擁してゐる。

青い鳥舞踊研究會 往年青い鳥子供會を組織して純真な童舞舞踊の指導をした、高田部二氏が東都石井漢氏の下に學び歸連後組織した團體であるが第1回公演後餘り其消息を聞かない。

陸軍舞團 荒川秋子選が中心として活動してゐた此舞踊團は櫻の結婚の爲解散する事になつて昭和7年10月16日送別舞踊會が大連協和會館で開演された。

カネリヤ子供會 逓信局内に生れた趣味の團體であつて初瀬映氏が舞踊の指導にあつて居り、齊藤佐和氏を顧問として音楽方面の指導を受けて居る。特色としては、アマチュアらしいフレッシュな感に充ちてゐる點である。練習は主として逓信俱樂部で行はれて居る。

サキ舞踊研究所 田中佐々市氏の主宰する此團體は沙河日方面に於ける唯一のものである。關係者に畫の趣味の人が多い爲コパック、配光は特に美しいとの事である。

前記の團體は昭和7年1月大連新報社主催の舞踊コンクールに於て各得意の作品を發表し多大の印象を投じた。

| 種 目 | 記 録 | 記録保持者 | 年 月 日 | 備 考 |
|--------|-------|-------|---------|-----|
| 400リレー | 53秒 | 張立 高女 | | |
| 三段 跳 | 10米95 | 平塚 京子 | 昭 2. | |
| 走高 跳 | 1米72 | 同 | 2. | |
| 走中 跳 | 4米59 | 森本 信子 | 3. | |
| 砲 丸 投 | 10米43 | 坂田 千代 | 5.10. 5 | |

水上競技
男子の部

| | | | | |
|---------|---------|----------------------|------------|--------|
| 50米 | 28秒2 | 小野田一雄 | 大 14. | 永山男四郎軍 |
| 100米 | 1分 5秒6 | 水田 勉 | 昭 5. 8.31 | |
| 200米 | 2分35秒2 | 同 | 5. 8.17 | |
| 400米 | 5分39秒3 | 川崎 茂 | 7. 8.29 | |
| 800米 | 12分 0秒6 | 黒木 重知 | 4. 9.15 | |
| 1,500米 | 22分44秒4 | 川崎 茂 | 7. 8.29 | |
| 1000 | 1分22秒 | 萩 清 | 大 13. | |
| 200千 | 3分 7秒4 | 金と 弘 | 昭 6. 8.16 | |
| 200リレー | 1分56秒2 | 〈福西チーム(秋山、本、橋本、小野田)〉 | 大 14. 7.17 | |
| 500リレー | 10分41秒4 | 〈川内チーム(佐藤、藤野、片山、仁田)〉 | | |
| 500メドレー | 4分 1秒7 | 大 勇 | 昭 6. 8.16 | |

女子の部

| | | | | |
|--------|--------|----------------------|-----------|--|
| 50米 | 35米4 | 土尾百合子 | 昭 7. 8.25 | |
| 100米 | 1分25秒2 | 笠原 壽家 | 7. 8.28 | |
| 200米 | 3分39秒5 | 川原優久代 | 2. 9.24 | |
| 400米 | 7分15秒7 | 同 | 6. 8.20 | |
| 200千 | 5分24秒3 | 飯村 昌子 | 2. | |
| 100千 | 1分39秒5 | 同 | 大 15. | |
| 200リレー | 2分52秒8 | 〈総合チーム(笠原、秋山、工藤、土居)〉 | 昭 7. 8.25 | |

氷上競技 (スピード・スケータング)

男子の部

| | | | | |
|----------|---------|-------|-----------|--|
| 500米 | 47秒7 | 石原 善三 | 昭 5. 1.15 | |
| 1,500米 | 2分36秒7 | 同 | 5. 1.13 | |
| 5,000米 | 9分42秒7 | 同 | 5. 1.13 | |
| 10,000米 | 19分37秒7 | 同 | 4. 2. 2 | |
| 500ハブク | 57秒2 | 松澤 貞巳 | 5. 2. 2 | |
| 2,000リレー | 2分31秒2 | 安東チーム | 5. 2. 2 | |

女子の部

| | | | | |
|--------|--------|------|--|--|
| 500米 | 1分 1秒 | 藤原 幸 | | |
| 1,500米 | 3分5 秒7 | 同 | | |

(5) 武 道

武道統一機関組織 満洲の武徳運動は豫
 ねて大日本武徳会朝鮮支部の昇格に刺戟さ
 れ漸く旺盛ならんとする氣配あつた處へ滿

洲中變動發で一層その氣運増長せしむるに
 至つた。従前滿洲武徳会支部は單に關東廳
 關係のみであつたのを 本部橋本評議員來
 滿の上本庄司令官、山岡長官、内田總裁歴
 訪これが統一機關新設を提議賛成を得たる

案により支部を昇格せしめて滿洲本部とな
 し、軍部、關東廳、滿鐵並に民間團體を包
 括し全滿を一丸とせる武徳精神鼓吹機關を
 組織することとなつた。このため上記機關
 より幹事を選出、幹事會は會長、副會長を
 選出すべく目下その手續をふみつつあり、
 本庄司令官、山岡長官、内田總裁を最高顧問
 間に推戴することとなり、本運動は既に在
 滿邦人の武徳精神振作のためのみならず新
 國家の人々にも及ぼし日滿兩國民の新局面
 に對する健全なる建國運動に資するところ
 あらんものとするものである。

柔 道

滿洲柔道界統一 從來滿洲の柔道界は大
 連講道館有段者會を主體とせるものと旅順
 有段者會(武徳會派警察)を主とせるもの二
 分野に分れてゐたがこれを合同して一大統
 一機關を設立して技術向上發達と會員相互
 の親睦を圖るべく大連講道館有段者會幹事
 小谷澄之氏外2、3の人は各方面と種々折衝
 奔走の結果諒解なり滿洲柔道有段者會なる
 統一機關の成立を見るに至つた。

- ◇長春柔道有段者會發會式(1月24日)
- ◇全滿無段者柔道試合(2月14日) 於大連
道場優勝撫順道場A組(又木、上田、宮
秋、中根、松田)個人優勝者又木(撫順)
- ◇全滿中等學校柔道大會(6月26日) 參加
校大一中、大二中、育成、旅中、育成優
勝。
- ◇全滿洲對學生軍(7月24日) 滿洲大將二
宮六段を凌して勝つ。
- ◇第3回州外柔道優勝旗爭奪戰(9月23日)
滿洲國優勝。
- ◇全滿中等學校柔道大會(10月17日) 旅順
工大主催、大連二中優勝。
- ◇第23回秋季柔道大會(10月23日) 大連支
部優勝。
- ◇全滿柔道有段者(三段以下)爭奪戰(11月
27日) 於大連滿鐵道場。
團體試合 優勝 大連道場實業軍

個人試合 優勝 佐伯三段
 佐 伯 (立四方) 加藤
 大連道場 2-1 旅順警察

- ◇全鐵道省對全滿洲柔道戰(11月13日) 於
大連彌生高女、滿洲小谷六段以下不戰者
3名を残して勝つ。
- ◇第1回四製聯合武徳大會(12月4日)
於普蘭店署。參加金州、普蘭店、魏子高、
瓦房店、柔道は瓦房店優勝。

弓 道

- ◇關東州弓道リーグ戰
第1回戰(1月17日) 滿鐵本社119中、
沙河日128中。
第2回戰(1月31日) 武徳會111中、沙
河日121中。
- ◇全滿弓道優勝旗爭奪戰(6月) 奉天醫大
主催。
團體1等撫順A組37中
個人優勝 岡崎 9中
- ◇全滿弓道大會(7月3日) 鞍山體協主催
1等 蘇家屯 小 森
- ◇全滿弓道大會(9月11日)

劍 道

- ◇春季劍道大會(4月17日) 大連支部(丸
山、橋峰、溝口、關、荒川)優勝。
- ◇滿鐵7-3關東廳(4月17日)
- ◇宮城內天覽試合に於て高野茂義範士は小
川延士に小手2本をとり見事勝つ。
- ◇撫順22-24國學院大學(8月13日)又撫順
不戰3人を残し拮据に勝つ。
- ◇奉天11-9國學院大學(8月14日)
- ◇關西學院6-1大連道場(8月17日)
- ◇國學院大學12-6安東(8月16日)
- ◇帝大5-3安東(8月18日)
- ◇全滿中等學校第1次劍道大會(10月17日)
旅順工大主催、大連1中優勝。
- ◇全滿劍道三段以下有段者爭奪戰(11月23
日) 於大連道場、團體優勝若菜8-6醫
大1組、個人優勝橋峰初段。
- ◇州内對州外四段以上有段者爭奪戰(11月

- 23日) 於大連道場, 州内9—4州外。
- ◇九大對滿鐵劍道試合(11月5日) 於大連道場, 滿鐵大副將を凌して勝つ。
- ◇第1回四關聯合武道大會(12月4日) 於普蘭店署, 劍道は鏡子高署優勝。

(6) 水上競技

- 最近の滿洲競泳界は日本内地の躍進に比べて非常に立遅れの感がある, 冬期長く練習期間の短縮もその一因である。今年滿鐵入社の鶴田義行選手はオリンピックにおいて再度優勝の榮冠を得た。
- ◇州外都市對抗(7月24日) 於奉天, 奉天47點, 遼陽41點, 撫順38點, 鐵嶺19.5點, 鞍山7點, 奉天優勝。
 - ◇大連市民水泳大會(8月6日)
 - ◇全滿中等學校對抗水上競技會(8月14日) 大連一中優勝。
 - ◇遼陽, 鞍山對抗水泳大會(8月16日) 於遼陽, 遼陽勝つ。
 - ◇育成73—59奉天(8月17日) 於奉天。
 - ◇奉天軍遼陽に遠征す(8月21日) 遼陽22—14奉天。
 - ◇全滿水上選手權大會(8月28日) 於大連 記録次の如くである。
(男) 1,500米 1著 川崎茂(撫順), 2イ 22分44秒4(滿新)
2著 熊野行夫(大一中) 2イ 23分17秒(滿新)
女子 100米 1著 荒尾壽家(奉天) 1分23秒2(滿新)
2著 藤屋ユキ子(旅順) 1分24秒2(滿新)
女子 200米 ヴレー 滿洲ナーム(荒尾, 松山, 工藤, 土屋) 2分32秒8(滿新)
 - ◇州内外競泳大會(8月29日) 25—17州内軍勝つ。
 - ◇第2回關東州内中等學校男子聯合體育大會水泳大會(9月1日) 大連一中優勝。

- 1,500米 1著 熊野行夫(大連一中) 22分44秒3(本大會及滿新)
- 200米 ヴレー 1著 大一中(永山, 仁田, 佐藤, 片山) 1分59秒5(本大會新記録)
- 50米 1著 永山秀男(大連一中) 28秒7(本大會新記録)
- ◇初等學校水泳記録會(9月3日)

(7) 野 球

- 昭和7年の滿洲野球界は4月3日の恒例滿俱對實業の紅白試合に始まり6月の呼びもの實滿戦は第5回戦に於て實業惜しくも敗れ結局内地の都市對抗戦には滿俱が出場し強敵を向ふに應じてよく決勝戦までいつたが神戸の爲めに最後の榮冠を奪はれた。外來チームとしては八幡, 早大第2軍, ハワイ大學等を見たが大體に於いて最近の野球界は稍沈滞の状態にあると云へる。
- ◇實滿紅白戦(4月3日) 大連滿俱球場, 白10A—7紅。
 - ◇工場9A—8滿電(4月10日)
 - ◇奉天對撫順(4月24日) 於奉天, 奉天8—3撫順。
 - ◇關東州野球大會(4月29日—5月8日) 成績下の如くである。
(4月29日) 消費 17A—1 大連 國際 11A—6 鐵道部
(4月30日) 大商 17A—2 旅工大
(5月2日) 滿電 22—2 工專
(5月3日) 消費 5A—1 鐵道工場
(5月5日) 消費 5A—0 滿電
(5月7日) 國際 14A—0 大商
(5月8日) 決戦=國際 2—1 消費
 - ◇工大對大商(5月15日) 旅順グラウンド, 大商 10—6 工大。
 - ◇鞍山體協對警大(5月22日) 於鞍山, 體協 10—5 警大。
 - ◇安東對撫順(5月23日) 於安東, 安東7—3撫順。

- ◇大連滿俱對奉天滿俱(5月19日) 於奉天, 大連2—1奉天。
- ◇安東對撫順(5月19日) 於撫順, 安東6—3撫順。
- ◇大連滿俱對安東滿俱(6月6日) 大連滿俱球場, 大連3—1安東。
- ◇新義州商業對安中(6月6日) 於安東, 新商 12—4 安中。
- ◇滿俱對大連實業戦(6月12日—6月20日) 於大連, 成績下の如くである。
(12日) 滿 俱 6—3 實 業
(13日) 實 業 10—1 滿 俱
(18日) 實 業 3—0 滿 俱
(19日) 滿 俱 5—3 實 業
(20日) 滿 俱 8—1 實 業
滿 1 0 3 0 3 0 0 1 0 1 8
實 0 0 0 0 0 0 0 0 1 1
7 中川 32 打數 39 9 濱崎
8 藤澤 6 安打 10 3 小池
6 高橋 1 犠打 1 2 片岡
3 渡邊 0 盜塁 5 4 永澤
5 津田 1 三振 3 8 高須
1.9 木下 1 四球 4 6 柴原
4 安藤 8 失策 1 7 和田
9 山田 1 山口
1 因藤 (藤浪) 5 藤川
2 武井
- ◇普蘭店對金州(6月19日) 於金州, 普蘭店 12—1 金州。
- ◇八幡對撫順滿俱(6月12日) 於撫順, 八幡 15—1 撫順。
- ◇州外野球大會(6月24日より) 於安東, ヴレー戦により撫順優勝す。結果下の如くである。
奉 天 14—8 長 春
撫 順 4—3 安 東
撫 順 11—5 長 春
奉 天 6—4 安 東
撫 順 2—0 奉 天
安 東 9—5 長 春

- ◇八幡對滿俱(6月26日) 於大連, 八幡 14—0 滿俱。
- ◇大連商業對奉中(6月26日) 大連於, 大商 21—8 奉中。
- ◇八幡對實業(6月27日) 於大連, 八幡 13—5 實業。
- ◇滿俱對八幡(6月29日) 於大連, 滿俱 11—9 八幡。
- ◇八幡對實業(6月30日) 於大連, 八幡 19—1 實業。
- ◇滿俱對八幡(7月2日) 於大連, 滿俱 7—6 八幡。
- ◇鞍山體協對大連商業(7月3日) 沙河口工場グラウンド, 體協 12—8 大商。
- ◇滿電對沙河口工場(7月3日) 場所同上, 滿電 14—6 工場。
- ◇州内北部野球大會(7月3日) 於金州, 金州, 普蘭店, 鏡子高, 周水子参加, 優勝=鏡子高 9—6 普蘭店。
- ◇安東滿俱對警大(7月8日) 於安東, 安東 24—3 警大。
- ◇滿俱對ハワイ大學(7月14日) 滿俱球場, 滿俱 3—2 ハワイ。(7月18日) ハワイ 4—0 滿俱)
- ◇實業對ハワイ大學(7月15日) 於大連, 實業 3—2 ハワイ。(7月19日) ハワイ 10—5 實業。
- ◇早大對滿俱(7月21日) 於大連, 早大 5—4 滿俱, (23日) 滿俱 8—3 早大。(25日) 早大 3—3 滿俱。
- ◇國境中等聯盟野球大會(7月19日より) 於安東, 安中對新義州中學降雨中止。安中 4—3 新義州商業。
- ◇撫順對奉中(7月24日) 撫順 4—3 奉中。
- ◇實業對早大(7月29日) 於大連, 實業 3—1 早大, (30日) 早大 4—0 實業。(31日) 早大 10—6 實業。
- ◇中等學校野球戦(7月29—31日) 於大連, (29日) 大連商 17—1 青島中 (30日) 安東中 8—5 奉天中

(31日) 大連商 5A-4 安東中(決勝戦)
 大商 0 1 0 2 0 0 0 1 0 1A, 5A
 安中 3 0 0 0 0 1 0 0 0 0 } 4
 安 中 大 商
 6 松 井 34 打數 38 6 杉 村
 3 鹽 坂 4 安打 8 5 藤 原
 2 卷 瀧 0 犠打 1 3 板 井
 1 上 野 0 盗塁 2 8 五味川
 5 山 中 6 三振 8 2 志 摩
 8 岡 村 5 四球 6 4 大 村
 9 横 川 3 失策 5 7 深 川
 4 福 間 9 内 海
 7 佐 甲 1 出 口
 ◇ハワイ對奉天(7月31日) 於奉天, ハ大
 7-3奉天。
 ◇ハワイ對撫順(8月1日) ハ大9A-2撫
 順。
 ◇ハワイ對實業(8月1日) ハ大5-3實業
 (8月3日)ハ大4A-0實業。
 ◇早大對奉天(8月3日) 於奉天, 早大1A
 -0奉天。
 ◇大連商業出發(8月4日) 中等野球滿洲
 代表となつた大連商業は「はるびん」丸で
 出發した。
 ◇都市對抗戦の滿俱(8月6日) 東京の第
 6 回全日本都市對抗大會にて滿俱9A-3
 全大阪。(8月7日)滿俱 12A-4 横濱,
 準決勝にて滿俱8A-7名古屋。(8月9日)
 優勝戦にて神戸1A-0滿俱。
 ◇早大對安東(8月5日) 早大11-0安東。
 ◇横濱高工對奉天(8月6日) 於奉天, 横
 濱 6A-4 奉天。(8月12日) 横濱 5A-4 奉
 天。
 ◇日本軟式野球大連選抜會(8月7日) 浜
 路俱樂部優勝。
 ◇撫順對横濱高工(8月9日) 撫順9-6横
 濱。
 ◇横濱高工對大連實業(8月11日) 横濱5-
 3實業。(8月17日)横濱1-1實業。(8月

18日) 横濱4A-1實業。(8月20日)實業
 1A-0横濱。
 ◇横濱高工對安東(8月13日) 横濱 7A-3
 安東。
 ◇中等大會の大連實業(8月14日) 於甲子
 園, 第1回戦にて大連商2-3大正中學。
 ◇大連五業對千歳クラブ(8月14日) 於旅
 順, 五業15-3千歳。
 ◇鞍山對四平街(8月14日) 於四平街, 鞍
 山9-2四平街。
 ◇長春地方事務所對オール公主嶺(8月14
 日) 於公主嶺, 長春8-3公主嶺。
 ◇鳳凰城對安東保線區(8月14日) 於鳳凰
 城, 鳳凰城6-0安東。
 ◇奉天實業團生る。8月奉天に於て組織さ
 れた。
 ◇大連西部軟式大會(8月21日) 親交ク
 プ優勝。
 ◇滿俱對横濱高工(8月22日) 於大連, 滿
 俱 5A-4 横濱。(8月23日) 滿俱 6-2 横
 濱。
 ◇滿洲國野球團創立(8月26日) 滿洲國文
 教部主宰の下に正田, 永原兩氏をコーチ
 として發會された。
 ◇大連滿俱對奉天滿俱(9月4日) 大連 6A
 -4奉天。
 ◇四平街對奉中(9月4日) 四平街 5A-1
 奉中。
 ◇奉天滿俱對大連實業(9月5日) 奉天2-0
 實業。
 ◇全滿選抜野球大會(9月10日より) 於大
 連。
 10日 { 實 業 5A-0 奉 天
 { 滿 俱 4-2 長 春
 11日 { 實 業 8A-1 撫 順
 { 滿 俱 7A-2 安 東
 13日 實 業 6A-1 滿 俱(決勝)
 實 1 3 0 - 0 0 0 2 0 A, 6A
 滿 0 0 1 0 0 0 0 0 0 } 1

實 業 滿 俱
 7 中 川 30 打數 30 3 小 池
 2 武 井 7 安打 3 4 永 澤
 9 高 橋 3 犠打 0 1 濱 崎
 5 津 田 0 盗塁 0 2 片 岡
 3 渡 邊 2 三振 6 8 高 須
 1 木 下 3 四球 4 9 櫻 井
 6 安藤(兄) 0 失策 0 P H (橋爪)
 4 安藤(弟) 7 和 田
 8 藤 澤 5 藤 川
 6 柴 原
 ◇軟式野球大會(9月18日) 於奉天, 體育
 堂主催, 大連濱路俱樂部優勝。
 ◇實業2-0奉天(9月24日)
 ◇實業3A-0奉天(9月25日)
 ◇實業野球大會(10月1日)
 ◇大連騎警6A-5大連船門(10月9日)
 ◇大連軟球大會(10月16日より) 於大連,
 29チーム参加, 映畫俱樂部優勝。
 ◇第3回安奉線南部軟式野球大會(10月17
 日) 於鳳凰城, 鳳凰城優勝。

(8) 庭 球

庭球は新進全く現はれず, 硬軟共に O B
 活躍せるも振はず, 僅かに小寺選手日本選
 手権大會に出場せるも敗退した。軟球も全
 東京軍の來証あり, 州内軍を除いて悉く敗
 退した。
 ◇遼陽庭球リーグ戦(5月8日) 機關區優
 勝。
 ◇鞍山40-28遼陽(5月22日)
 ◇關東州内庭球選手権大會(5月29日) 於
 大連北公園コート, 松平山崎4-9川上大
 高。
 ◇全滿中等學校準硬球選手権大會(6月13
 日) 奉天警大主催, 於同コート, (育成)
 楠植松6-4渡邊伊藤(育成)
 ◇普蘭店8-2金州(6月19日) 於金州。
 ◇全安東庭球(6月19日) 於安東, 糸友ク
 ラブ優勝。

◇全東京對滿鐵軟球(6月25日) 於大連,
 全東京3組を残して勝つ。(6月27日)全
 東京2組を残して勝つ。
 ◇全東京對州内軟球(6月26日) 於大連,
 州内優退2組を残して勝つ。
 ◇撫順體協軍對鞍山軍(6月26日) 於鞍山,
 撫順優退3組を残して勝つ。
 ◇全奉天對全東京(6月29日) 東京優退 4
 組を残して勝つ。
 ◇全東京對鞍山體協戦 東京3組を残す。
 ◇西部大連アマチュア庭球大會(7月3日)
 北川瀨川4-1田原宮崎。
 ◇全東京對州外軍(7月3日) 於撫順, 東
 京3組残り。
 ◇南部庭球大會(7月3日) 於大石橋, 鞍
 山軍優勝。
 ◇旅順民政署對金州民政署(7月17日) 旅
 順優退5組を残して勝つ。
 ◇全普蘭店對全鏡子高(7月17日) 於普蘭
 店, 普34-27鏡。
 ◇日滿聯合庭球戦(7月17日) 於鳳凰城,
 田中松原組優勝。
 ◇州外庭球大會(7月24日) 奉天, 鞍山,
 遼陽, 大石橋, 本溪湖, 撫順参加, 撫順,
 本溪湖優勝戦の結果撫順勝つ。
 ◇第5回滿鐵對市中戦(7月31日) 滿鐵 5
 箇年連勝。
 ◇安奉線庭球爭奪戦(8月14日) 於本溪湖,
 本溪湖 13-0 安東。
 ◇アマチュア庭球大會(8月21日) 於大連,
 體育堂主催, 榮地樋口組優勝。
 ◇州外軟式庭球戦(8月21日) 於撫順, 撫
 順優勝。
 ◇旅大都市長官カップ争奪庭球大會(9月1
 日) 大連勝つ。
 ◇大連滿鐵對大連市中硬球戦(9月4日)
 滿鐵6-3市中。
 ◇全滿洲庭球選手権大會(9月4日)
 (男) 奉 天 前澤, 小川(優勝)
 (女) 鞍 山 山浦, 江頭(優勝)

- ◇實業ゲアワソ硬球戦(9月11日) 満7—2賞。
- ◇第4回中等學校軟式庭球大会(9月11日) 育成優勝。
- ◇第11回南部庭球大会(9月11日) 於鞍山, 鞍山優勝。
- ◇全滿洲硬式庭球選手権大会(9月18日) 小寺3—1野田。
- ◇滿鐵對英艦カンパーランド戦(9月25日) シングルス無勝負, ダブルス3對1で滿鐵勝つ。
- ◇全日本庭球選手権大会(11月1日) 東京に於て同日舉行された同大会に於て滿洲代表小寺選手は慶應山田に3—1で敗れた

(9) 陸上競技

滿洲に於ける陸上競技界は元老岡部平太氏の引退により指導者を失ひ近年將に沈没の域にある如く見受けられる。昭和7年度に於ては期待された記録も生れずフルマラソンに於て濱田が日本新記録を作つたのみである。數年前に日獨, 日佛國際競技時代の滿洲を想起すれば轉た秋風落葉の感がある, 大選手出でず大記録も生れない。

- ◇斷行競走(3月26日) 大連アスレチック俱樂部主催, 滿日後援, 大連運動場前—沙河口間參加50名, 1著大藪寛一(22分40秒), 2著八重樫榮太郎(22分45秒), 3著志水政市。
- ◇フルマラソン(4月24日) 滿洲日報社前—藝大嶺間, 1著濱田常盛(滿鐵本社)2時34分57秒(日本, 滿洲新記録), 2著渡邊逸(大連驛)2時38分47秒(滿洲新記録), 3著志水政市(逓信局)2時46分5秒。
- ◇滿鐵運動會(5月1日) 綠組優勝。
- ◇全滿洲陸上選手権大会(5月15日) 滿洲體育協會主催, 全日本陸上競技選手権大会瀋陽オリンピック大会第一種選, 於大連運動場, 記録次の如くである。

| 種目 | 優勝者 | 記録 |
|--------|-------|-----------|
| 800米 | 金起賢 | 2分02秒2 |
| 高障碓 | 山田俊男 | 16秒6 |
| 砲丸投 | 西村政平 | 12米70(滿新) |
| 5,000米 | 永谷壽一 | 16分24秒2 |
| 走巾跳 | 最上義滿 | 6米69 |
| 100米 | 岡健次 | 11秒4 |
| 女100米 | 高師智恵子 | 14秒3 |
| 女走幅跳 | 桑野艶子 | 4米12 |
| 200米 | 大久保勇 | 22秒6 |
| 走高跳 | 野口倫二 | 1米75 |
| 1,500米 | 大藪寛一 | 4分16秒4 |
| 400米 | 井上默 | 52秒4 |
| 槍投 | 小林武生 | 47米47 |
| 圓盤投 | 丸茂保之 | 38米 |
| 三段 | 柴田義敏 | 14米49 |
| 女400繼走 | 彌生 | 58秒0 |
| 棒高跳 | 淺坂正一 | 3米60 |
| 800繼走 | 關西OB | |
| 五種 | 米津午郎 | 3271.39 |

- 滿洲代表選手 800金, 三段跳柴田, 砲丸投西村, 5,000米永谷, 五種米津, 100米200米大久保, マラソン濱田, 渡邊。
- ◇遼陽陸上運動會(5月15日) 白塔公園グランド, 蘇軍優勝。
- ◇全日本選手権マラソン豫選(5月26日) 於東京, 滿洲代表渡邊7著, 濱田8著。
- ◇全日本選手権大会 1,500米に濱田優勝4分11秒8
- ◇開原陸上運動會(5月29日) 於公園, 官衛組優勝。
- ◇全日本選手権大会 三段跳柴田2等, 五種米津4等。
- ◇滿洲學生聯盟陸上競技大会(6月5日) 於奉天國際グランド, 醫大優勝。醫大63, 工專26.5, 工大29.5, 100米増井(11秒3), 砲丸投高木(11米33), 1,500米谷口(4分40秒2), 走高跳翠(1米75),

- 圓盤投山田(36米), 400米増井(55秒4), 走幅跳翠(6米48), 高障碓林(17秒2), 棒高跳野田(3米12), 5,000米成毛(18分13秒), 槍投野上(48米07), 800米リレー醫大(1分36秒)
- ◇關東州内男子中等學校聯合體育大会(6月11日) 於旅順運動場, 參加校は大一中, 大二中, 旅中, 大連商業。
- ◇關東州内女子中等學校聯合體育大会 於大連運動場, 參加校は神明, 彌生, 旅順各高女。
- ◇市民運動會(6月19日)
- ◇全鞍山運動會(6月19日) 黃軍優勝。
- ◇リレー・カーニバル(6月26日) 於撫順永安臺, 優勝チーム, 第1部撫順體協, 第2部南滿工專, 大一中。
- ◇遼陽對鞍山陸上競技(6月26日) 於遼陽39.5對35.5にて鞍山勝つ。
- ◇若葉對鞍山(7月10日) 於鞍山, 若葉勝つ。
- ◇鐵嶺, 開原, 四平街, 公主嶺對抗陸上競技大会(8月21日) 鐵嶺軍優勝。
- ◇奉天軍新京に遠征(8月21日)
- ◇京城對全滿鐵陸上競技(9月4日) 於京城, 88對54にて滿鐵軍敗る。
- ◇第2回南部陸上競技會(9月11日) 於遼陽, 鞍山優勝す。
- ◇滿洲學生陸上競技聯盟對滿鐵運動會大連支部陸上競技會(10月9日) 滿鐵103—86學生軍。100米廣瀬(學), 砲丸投西村(滿)10米32, 1,500米永谷(滿)4.20, 走高跳最上(滿)1米70, 400米山田(滿)53.2, 圓盤投山田(學)35米45, 高障碓清水(學)16.7, 走巾跳最上(滿)6米79, 槍投出島(滿)45米88, 400リレー學生(奥山, 井本, 増井, 成瀬)
- ◇第2回全滿都市對抗及び旅順戦蹟リレーレース(10月17日) 旅順市及び關東廳體育研究所主催。都市代表 1著大連(渡邊, 八重樫, 古川

- 永谷, 大藪) 1時54分42秒
- 一般 1著逓信俱(中本, 大塚, 並川, 萩原, 志水) 2時02分56秒
- 中等學校 1著旅順高等公學校A組(蘇, 張, 王, 夏, 豊)1時56分31秒
- ◇奉天市民マラソン大会(11月3日) 於奉天。個人レース 1著李世明 ナームレース 1著彌生小學校

(10) スケート

- 昭和7年に於ける滿洲水上競技界は石原, 木谷, 河村等の優秀選手を國際オリンピック冬季大会に送り出した。
- ◇大連市民スケート大会(1月16日) 鏡ヶ池コート, 大連スケート會主催, 大連新聞社後援, ホッケー決勝戦滿選4—2玉澤A組。
- ◇ノイガースケーティングクラブ組織さる(1月27日) 大連に於て同俱樂部生る。
- ◇全日本大会出場選手記録(1月25日) 第2日釜の海リンク, 女子500米1著瀧三七子(1分4秒), 2著井上和歌子(1分4秒6), 3著井上浩子(1分8秒5)全部滿洲選手。
- ◇大連彌生高女氷滑大会(1月29日) 大連鏡ヶ池リンク。
- ◇大連一中第12回氷上大会(1月30日) 同上。
- ◇第3回オリンピック冬季競技出場選手(2月4日) レークプラシット5,000米A組石原7位, B組河村7位, 木谷8位。(2月5日) 石原選手1萬米に4著に入りたるも失格。
- ◇奉天第2回戶外アイススケート祭(1月17日) 國際運動場。
- ◇長春スケート大会(1月17日) 西公園。
- ◇撫順スケート祭(1月17日) 永安臺中央リンク。
- ◇鞍山第2回戶外アイススケート祭(1月17

23日 大二中 14-12 大一中
工専 7-13 オーグル

- ◇工専主催全滿中等學校籠球大會(5月8日) 於工専、參加校大連一中、大商、旅二中、奉中、優勝戦の結果大連二中優勝。
- ◇大商29-23青中(7月24日) 於大一中。
- ◇大二中42-26青中(7月25日) 於大二中。
- ◇第8回全滿籠球大會 第一部は大連一中優勝。第二部は大連YMCA優勝。
- ◇全滿女子籠球選手権大會(11月13日) 協協主催、於神明高女、優勝戦の結果は彌生高女A27-20旅順高女。
- ◇全滿籠球選手権大會。
大連二中クラブ 67-32 旅 中
大連YMCA 73-41 鞍山 中
伏丘クラブ 65-22 南滿工專
大連二中クラブ 68-19 大連商業
伏丘クラブ 35-32 大連YMCA
優勝戦
大連二中クラブ 47-30 伏丘クラブ
- ◇滿洲國代表新京對全大連戰(12月3-4日) 於大連二中。
全大連 41-18 新京
同 59-25 同
- ◇黑猫38-32新京。

(14) 排 球

- 排球は體育ホールとして滿洲に一般性を有する競技であつて將來をもつてゐる。
- ◇撫順體育ホール大會(6月8日) 於撫順、古城子組優勝。
 - ◇全滿排球大會(6月19日) 大連キリスト教青年會主催、大連二中 B2-0大連商業
 - ◇全滿女子排球選手権大會(6月26日) 體協主催、彌生高女A組と關東醫院と對戦彌生勝つ。
 - ◇全滿排球選手権大會(7月30日) 於彌生高女、參加18チーム、男大3-0オーグル。
 - ◇第3回全滿體育ホール大會(8月14日) 於奉天、男子體道部、女子體道部優勝。
 - ◇第3回大連市民體育ホール大會(10月23日) 28チーム參加、大連二中1-3觀3勝

(15) 相 撲

滿鐵運動會に相撲部の誕生を見、相撲大會が始めて開催された外、振東學社によつて從來行はれてゐた全滿中等學校相撲大會が滿日社によつて復活した。

◇第1回全國中等學校相撲滿洲豫選大會(10月2日) 4校、5組の出場を得て大連商業優勝。大商軍下島、條島、杉山。

◇滿鐵色別相撲大會(10月9日) 權組優勝

(16) レスリング

◇滿洲からの我がレスリング選手として第11回世界オリンピック大會に出場の滿鐵體育係小谷澄之(柔道五段)及び早苗高等小學校吉田四一(柔道五段)兩選手は3月19日出發朝鮮經由同31日橫濱出帆の秩父丸で渡來した。

◇兩選手奮闘 オリンピックに出場した吉田ミドルウェイは8月1日佛國のボルクエと戦ひ初めの6分で1敗を喫した。又ミドルウェイ小谷はカナダのストックトンと對戦し、小谷首役、大腰美事に極まり1勝す。最後まで残つた小谷は2日ハンガリーのツニローヤに惜しく判定負けとなり失點6點で失格した。

(17) 拳 闘

拳闘は昭和7年始めて滿洲日報社の内地選手招待に依つて滿洲に紹介された。即ち6月21日滿日講堂に於て拳闘大會を開催高井清治、鈴木修二、森晋平の3氏が出場した。又8月16日には日本プロフェッショナル拳闘聯盟の30餘名を迎へ試合が行はれた。

(18) 卓 球

- ◇年齢別卓球大會(1月31日)
- ◇全滿卓球團體選手権大會(2月28日) 山本俱樂部優勝(河田、上田、松島、味、櫻井)
- ◇P.A.卓球大會(4月17日) 中央試驗所(吉丸、山井、土肥、黒岩、吉丸、加藤)優勝。
- ◇大連卓球大會(11月27日) 滿洲卓球協會主催、優勝戦山本俱樂部9-3中央試驗所。

滿洲知名事業者名鑑

(1) 大 連 の 部

アイウエオ

株式会社アンドリュウス
商會大連支店

大連市山縣通53

【本店】東京【支店】大阪、大連、【出張所】名古屋、小倉、博多、札幌、紐育【設立】本店創立明治27年、大連支店大正12年【營業科目】工作諸機械、鐵道用機械器具、鑄山製煉諸機械、土木建築用諸機械、空氣壓縮機械、醫理化學實驗器械、試験器メートル類事務所用器具、寶庫(安全金庫)【資本金】1百萬圓(全拂込)【取締役社長】アール・エム・アンドリュウス【取締役】テイ・ウオン・バツブウォース、大久保喜一【大連支店支配人】木原橋次

伊 賀 原 組

大連市俱馬町82番地

【出張所】新京、奉天、撫順、鞍山、大石橋、錦縣【設立】大正8年12月【營業科目】土木建築請負業、土管煉瓦製造販賣(工場撫順)リッチナット滿洲販賣店【資本金】10萬圓【店主】伊賀原岩吉、【電話】5087番

出光商會大連支店

大連市山縣通80

【本店】門司【支店】下關、博多、名古屋、臺北、基隆、京城【設立】明治43年6月21日【營業科目】各種瀾植物性油脂類、電動機及電氣用品、車輛、船舶及用品、石油輕油及動油機關、測量及理化學機械、酸鹼銜接器及用品、各種鋸鋼品、ロープ類、セメント、火山灰【代理店】日本石油株式会社、英國アース

ーバル・フオア製鋼會社、大阪鐵工所、服部時計店、日本酸素株式会社、米國ガーロツクパツキング會社、ミルウオーキータンク工場、株式会社池貝鐵工所、豐國セメント株式会社、其の他【本店主】出光佐三【大連支店長】山田孝介【電話代表】6191、6192、倉庫6471

泉 商 店

大連市兒玉町4

【營業科目】建築材料販賣【電話本店】3241、北崗子衛拔所22,688【店主】泉徳次郎

A タ ク シ ー

(田中自動車工場)

大連市土佐町38

【工場】同所【設立】大正15年8月【營業科目】乘客運輸業及自動車修理専門其附帶事業一般、各種發動機修理、蓄電池充電及修理、諸機械製作修理【店主】田中定雄【電話】5829

株式會社永順洋行

大連市大山通54番地

【出張所】奉天、新京、安東、哈爾濱【設立】昭和4年11月改組、【營業科目】砂糖、酒精、洋紙、古新聞紙、糊寸、染料、綿布、綿糸、輸製品其の他諸雜貨【支配人】安岡幸雄

合資會社永和公司

大連市鼓島通6

【設立】昭和3年7月【營業科目】海運業、大連汽船株式會社專屬荷客取扱店【代表社員】是松敏進【社員】佐志雅雄【電話】7275、7868

小野實雄法律事務所

大連市俱馬町12

【出張所】奉天青葉町6【設立】大正11年5月

【營業科目】辯護士一般の法律事務，法律新聞大連支社【所主】小野實雄【電話】6643，振替大連245】

岡 組

大連市東公園町 65

【碎石工場】大連市外周水子小野田町【花崗石採掘場】金輝線蘆麻屯群【支店出張所】滿洲一瓦房店，鞍山，奉天，鐵嶺，四平街，新京，安東，朝鮮一京城，平壤，第二浦【設立】大正9年【營業科目】請負業，石材採掘販賣【店主】岡常次郎【電話事務】3992，技術7321，現場21815自宅3960】

大倉商事株式會社

大連出張所

大連市山縣通 18

(大倉ビルディング)

【本店】東京市京橋區銀座2丁目7【設立】明治42年【營業科目】機械，電氣品，一般金物，煙房工事，火災，海上，生命保險代理【資本金】1千萬圓【積立金】4百萬圓【支配人】池田龍雄【電話代表】8161】

大阪商船株式會社

大連支店

大連市山縣通 223

【本社】大阪市北區宗是町1【設立】明治17年5月【營業科目】海運業【資本金】1億圓，拂込額6,250萬圓，積立金5千萬圓，決算期6月12月【重役】櫻啓次郎，村田春藏，太田丙子郎，新庄清一，岡田永太郎，櫻新，小倉正恒，阿部彦太郎，深尾隆太郎，田中市藏，末永一三，原田六郎，中橋武一【大連支店長】高見三吉

大内成美特許法律事務所

大連市西公園町 4

【出張所】駐奉辦公處奉天商埠地三經路46號【日電話】(國)3382，中5147號【駐營辦公處營口東海關碼頭西6號【設立】428【設立】大正8

年10月【營業科目】一般法律事務取扱，一般特許事務取扱，法律時報社經營【所主】辯護士辨理士法學士，大内成美【電話】7369】

カキケケコ

川北電氣^商事株式會社

大連出張所

大連市山縣通 53

【本社】大阪市此花區上福島北3丁目123【支店及出張所】東京，大阪，福岡，上海其他全國主要都市26箇所【工場】今福工場，(大阪)日新工場(京都)【設立】明治42年【製品種目】發電機，電動機，變壓機，配電盤及器具，各種電氣扇，電話機及交換機(逕信省指定工場)一切，各種唧筒，エレベーター，電氣事業投資，電氣工事設計，工事請負及監督【資本金】1千百萬圓(商事，工事製作所合計)【重役社長】北川榮夫【常務取締役】矢村克，林哲磨，鈴木三郎【電話】8698】

合資會社加藤洋社

大連支店

大連市紀伊町 26

【本店】天津【支店】東京，新京，奉天【設立】明治38年3月【營業科目】羅紗，建築材料，直輸出入貿易業【資本金】40萬圓，拂込額40萬圓，決算期6月，12月【社長】加藤定吉【大連支配人】白須信次【電話】6115】

金鳳堂書店

大連市連鏡商店街京極

【設立】大正12年9月25日【營業科目】書籍，文房具【電話】4905】

株式會社後藤風雲堂

大連出張所

大連市山縣通 125

【本社】東京神田區淡路町1丁目1【工場】埼玉縣浦和【支社】大阪市東區道修町4丁目6【出張所】京城府南大門通3丁目26，札幌市帝國

大學前【設立】大正14年10月1日【營業科目】醫療器械一般，醫療電氣器械レントゲン装置，理化學器械，光學器械，細菌學器械，病理試驗器械，生理化學醫器械，綳帶材料及藥品【資本金】55萬圓(全額拂込済)【社長】松田祐作【事務取締役】筒井末造【出張所主任】山本富藏

株式會社鴻業公司

大連市山縣通 142

【駐在員事務所】奉天，安東，哈爾濱，天津，青島【設立】大正15年6月8日【營業科目】不動産の管理經營及處分【資本金】50萬圓【積立金】9千圓代表中澤正治【支配人】池田操

合名會社肥塚商店

大連支店

大連市大山通 69

【本店】大阪府堺市熊野町西1丁目1【設立】大正7年12月12日【營業科目】物品販賣及代理業清酒白菊盛，都菊及キリンビール，赤玉ポートワインの販賣，日本生命保險株式會社大連(代理店)【資本金】25萬圓，(拂込額全額)決算期4月【代表社員】肥塚源次郎，肥塚源一郎【主任】安西卯三郎

サシスセソ

株式會社

三共藥品販賣所

大連市山縣通 181

【設立】大正13年10月1日【營業科目】三共株式會社代理店，醫療藥品類，其他一般藥品醫療器械，輸出入販賣【資本金】300,000圓【取締役社長】古田宗二郎【取締役】前川郁夫【電話】7214，21420，振替口座大連2709】

坂本商店

大連市瀋陽町 126

【出張所】哈爾濱中央大街21【設立】明治39年【營業科目】工業用火藥，鑛鉄器具，拳銃及

空氣銃，銃砲修繕，レザークロス，カーバイド，フアイバートランク【資本金】金25萬圓【店主】坂本治一郎

澤 川 組

大連市越後町 9

【工場】大連市山手町(輸出雜穀精撰工場)【設立】明治38年5月【營業科目】海産物，特産物，麻袋輸出入商【電話】7071，6490，4581工場5093【店主】澤田賢太

株式會社

新宮商行大連出張所

大連市山縣通 16

(大倉ビル3階)

【本店】小樽市支店大阪，工場伏木，釧路北見類別【設立】大正8年4月【營業科目】材木輸出業【資本金】150萬圓(全額拂込)【大連出張所主任】西幾治

昌光硝子株式會社

大連市秋月町 20

【本社】東京市丸の内【工場】大連市秋月町20【設立】大正14年4月17日【營業科目】硝子製造販賣【資本金】300萬圓【重役】取締役會長山田三太郎，常務取締役藤田臣直

株式會社進和商會

大連市佐渡町 30

【工場】大連市千代田町33番地，【大阪出張所】大阪市西區南堀江通1丁目【ハルビン出張所】哈爾濱道裡地段街103號【奉天出張所】奉天青島街22番地【設立】大正8年5月1日【營業科目】鐵，鋼，水道，土工用具機械及同附屬品船舶用品，電氣瓦斯用品其他代理店業【資本金】1百萬圓【積立金】15萬7千圓【代表取締役】社長高田友吉【取締役】小南夫一，三井權三郎，大屋徳次郎

島津製作所大連出張所

大連市若狹町 40

【本店】京都【支店】東京，大阪，福岡，伯林

【設立】明治8年【營業科目】理化學器械、博物學標本、醫家用電氣器械、工業用機械【資本金】200萬圓、【拂込額】200萬圓、【積立金】10萬圓、【決算期】5月、11月【前期配當】1割、【重役】島津源藏、島津常三郎、島津源吉、藤井善助、内貴清兵衛、鈴木庸輔、河崎助太郎、稻畑勝太郎、乾康平【出張所長】森山徳次郎【電話4997、3289、振替口座大連681】

合資會社靖和商會

大連市山縣通 193

【設立】大正11年4月1日【營業科目】海運業【代理業】岡崎汽船株式會社、神戸海上火災保險株式會社、朝日海上火災保險株式會社【資本金】2萬5千圓【無限代表社員】小寺武市【電話5404、6464、6012自宅6368】

タチツテト

大華窯業公司

大連市榮町3

(小崗子北海岸通)

【出張所】長春出張所、新京日本橋通48【設立】大正9年10月【營業科目】内外、陶磁器、タイル、硝子、一般窯業製品の製造販賣、【資本金】10萬圓【店主】大倉和親【支配人】江副勝太郎

株式會社大信洋行

大連市監郡通 49

【支店】奉天大西邊門外、大阪市南區安堂寺橋通、新京日本橋通、天津日本租界壽街、哈爾濱新城大街、錦州東街、三姓北夾信街【設立】大正7年10月【營業科目】銅鐵金物、綿糸布、鞍貨【資本金】1百萬圓【積立金】24萬圓【專務】石田榮造、【支配人】石田卯吉郎

合資會社大德洋行

大連市監郡通 33

【營業科目】マホニストープ滿洲國中國總代理店、關西船塲燃料滿洲總代理店【資本金】5千圓【代表社員】白井保治【電話5733】

大陸窯業株式會社

大連市榮町2

【工場】大連市榮町2、撫順松田橋外【設立】大正8年3月25日【營業科目】土管、各種煉瓦(ホーロータイル)、各種瓦類、セメント製品、各種製造販賣【資本金】50萬圓(全拂込済)、積立金3千圓【重役】事務取締役柳澤勇夫、取締役柴谷保藏、大森清吉、監査役杉本昌五郎

大正堂商店

大連市吉野町 105

【設立】大正元年【營業科目】藥種商【店主】末次翁【支配人】増井信治郎

大連火災海上保險株式會社

大連市西通 117

中央ビルディング内

【出張所】奉天琴平町4、新京三笠町1ノ26【代理店】滿洲、支那、朝鮮、樞要各地【設立】大正11年7月28日【營業科目】火災保險、海上保險、運送保險、自動車保險及び以上各種の再保險【資本金】200萬圓、決算期毎年3月【重役】社長村井啓次郎【取締役】神成季吉、吉富金一、張本政【監査役】林田精一、小澤太兵衛

大連工業株式會社

大連市獨立町2

【設立】大正7年4月5日【營業科目】雨覆、雨具、並に防水塗料及各種被服類製造販賣、ロープ製造販賣、家具建具等製造販賣、以上業務に附隨する各種の營業並に修理其他職工の供給【資本金】50萬圓【積立金】11萬1千3百83圓也【重役】事務取締役柳田憲道、取締役平井大次郎、佐藤至誠、高田友吉、佐藤達三、鹿野千代助、監査役林田精一、相生常三郎

大連製材株式會社

大連市榮町2

【設立】大正9年3月15日【出張所】奉天若松町30【營業科目】製材業【資本金】10萬5千圓(全額拂込済)【重役】事務取締役郷池逸太郎、取締役井上輝夫、平林初次郎、監査役長手三郎、洪文濟【電話6896、6770】

大連精糧株式會社

大連三春町 1

【設立】大正8年11月【營業科目】精米、味噌釀造【資本金】1百萬圓【社長】鈴木新五郎【專務】植田龍藏。【電話9546、5079 振替大連1174 電略#セ】

大連鐵工所

大連市榮町2

【工場】機械工場(榮町2)製罐工場(市外周水子)【設立】明治40年7月1日【營業科目】鐵道港灣、水道用品一式各種ボールド類製作、汽罐、鐵骨、鐵桁、鐵橋製作及磨付【資本金】20萬圓【所主】小田切豐【支配人】柴沼繁

大連窯業株式會社

大連市榮町

【創業】大正2年10月【營業科目】高級耐火煉瓦の製造販賣【資本金】60萬圓【社長】津上延治【電話4031、22631、21946】

泰信錢莊

大連市奧町 23

【設立】大正12年10月14日【營業科目】大連取引所錢鈔取引人、兩營業【店主】伊藤政三郎【電話代表5151、6445】

泰東興信所

大連市薩摩町 143

【設立】大正10年5月23日【營業科目】一般信用調査、經濟調査、輸出入貨物及在庫品調査【所長】佐藤長治【理事】保科紀十二【總務部長】神藤則之】

辰巳銀二商店

大連市紀伊町 85

【設立】大正14年12月【營業科目】建築材料直輸入商、室内裝飾設計家具、テキサカラーノック防水工事本間式(俗稱AST式)防水層工事、(榮進社、大阪清水製作所、英國ニユージョーランド火災保險株式會社代理店)【店主】辰巳銀二【電話4602】

泰山窯製陶所

(句雅堂窯改稱)

大連市蕪野町 60

【設立】大正10年6月【營業科目】建築用タイル及テラコッタ、美術陶磁器【所主】小平修三【電話9434】

田村商會

大連市山縣通 75

【支店】旅順、奉天、新京、沙河子【設立】大正6年4月【營業科目】自轉車並に所屬品、オートリキカー人力車並に所屬品【店主】倉一次

株式會社宅の店

大連市大山通 47

【設立】昭和7年9月組織變更【營業科目】飲食品製造販賣及之に附帶する一切の事業【資本金】15萬圓也【專務】宅昌一

株式會社多田工務所

大連市淡路町 3

【支店】瓦房店、萬家嶺、大石橋、遼陽、奉天【設立】大正14年9月3日【營業科目】土木建築請負業、花崗石砂岩石販賣業【資本金】25萬圓(全額拂込済)【代表取締役】多田耕一【電話4789、6092】

中日實業興信社

大連市信濃町 61

【支社】新京曙町16【設立】大正11年11月【營業科目】資産信用、結婚、雇傭等の調査、外に中日實業興信日報を發刊【社長】山田

耕平【電話3796、振替2123番】

朝鮮火災海上保險株式會社大連出張所
大連市薩摩町67

【支店】京城府明治町1丁目59【設立】大正11年9月【營業科目】損害保險火災、海上、運送【資本金】500萬圓【積立金】32萬圓【取締役社長】谷多喜磨【出張所長】今井健五郎

テキサス會社
大連市紀伊町55

【本店】米岡、支那支社、上海、支那支社に屬する支店出張所は全支那滿洲朝鮮に在り【設立】大正10年【營業科目】石油、揮發油、諸礦油、アスファルト製品各種【資本金】米價2億7千5百萬圓【積立金】不詳【大連出張所主任】藤井信夫

鳥羽洋行
大連市近江町8

【支店】奉天【出張所】大連、新京【工場】大連市臺山町26【設立】明治39年9月15日【營業科目】鋼鐵銅機械工具商【資本金】個人經營【店主】鳥羽實

東亞印刷株式會社
大連支店
大連市近江町

【本店】東京【設立】明治37年1月19日【營業科目】印刷一般【資本金】100萬圓【重役】取締役社長佐々木恒太郎、專務取締役林平太、常務取締役支店長山田浩通、取締役岸金三郎、篠崎嘉郎、林平太、監査役池田榮作、安場保健

東亞土木企業株式會社
大連市東公園町21

【出張所所在地】齊々哈爾龍江驛前、哈爾濱新街50ノ2、新京平安町1ノ5、四平街新開街9、奉天後町1【設立】大正9年1月10日

【營業科目】土木建築請負業【資本金】500萬圓（拂込額125萬圓）【積立金】3萬8千600圓【專務取締役】柳生龜吉【取締役】酒井清兵衛、同山領貞二、同下津春五郎、同丁鑑修【監査役】三輪環、同鹿野千代郎

東亞ペイント製造株式會社大連出張所
大連市山縣通118

【本店及工場】大阪【出張所】東京、門司、臺北、京城、大連【設立】大正8年【營業科目】各種塗料、染料製造販賣【資本金】50萬圓【重役】常務取締役兼本廠長、取締役吉武吉雄、同見勉、篠崎清次郎、大島重義、監査役岡田完二郎【大連出張所主任】西田善藏

東京電氣株式會社
大連出張所
大連市連鎖商店街本町通

【本社】神奈川縣川崎市【出張所】東京、大阪、金澤、名古屋、仙臺、札幌、門司、福岡、臺北、京城、大連、奉天、哈爾濱、上海【設立】明治31年【營業科目】電球、電燈、照明器具、配線器具、電氣計量器、レントゲン管球、ラジオ用真空管等【資本金】3千950百萬圓【社長】山口嘉三郎【大連出張所長】桂平次郎

ナニヌネノ

中村商會
大連市西公園町85

【滿洲總代理店】株式會社在原製作所、株式會社新潟鐵工所、株式會社高田商會、株式會社橫河電機製作所、日本エヤープレーキ株式會社、田中車輛工場、帝國製紙株式會社、株式會社栗田製作所、株式會社高田船底塗料製造所、株式會社東京計器製作所、米國貿易株式會社機械部、丸本工業商會、長谷川利彦商會、菅原長次郎商店、濱口商店、日本エヤーオイル製造所、角一ゴム合

日清製油株式會社
大連市寶町3

【本社】東京、支社大連、出張所、名古屋、哈爾濱、四平街、新京、臺北、高雄、工場、濱濱、大連【設立】明治40年3月【營業科目】滿洲特産、並に製油工業【資本金】600萬圓【積立金】54萬3千圓【社長】門野重九郎【專務取締役】松下外次郎（東京）【常務取締役】本多兵一（大連）

日本タイプライター株式會社大連支店
大連市山縣通155

【本社】東京【支店】大連、上海【工場】東京市【出張所】京城府、札幌、名古屋、濱濱【設立】大正5年【營業科目】邦文タイプライター及附屬品、邦文モノタイプ、邦文リノタイプ、萬能活字鑄造機、製造販賣業【資本金】2百萬圓【重役】專務取締役柳田又一、常務、加藤順次郎、取締役富岡完一、福島行信、監査役紙谷正雄、西正二郎、大連支店支配人中西賢爾【電話8471】

日本賣藥株式會社
大連支店
大連市浪速町147

【本社】東京【支店】大連、大連、新嘉坡【出張所】奉天【設立】明治39年11月15日【營業科目】一般藥品、有名賣藥、工業藥品、醫療器械、化粧品、衛生材料【資本金】100萬圓、拂込額40萬圓、決算期9月30日年1回【取締役大連支店長】支配人竹内縉一【電話6130、6139、8566、21049】

日本綿花株式會社
大連支店
大連市山縣通49

【本店】大阪【支店】濱濱、上海、漢口、青島、孟買、蘭買【出張所】東京、名古屋、神戶、天津、香港、奉天、新京、スラバヤ、セド

資會社、中央土木株式會社、振興燃料研究所、日本工業合資會社、株式會社大平製作所、共同毛織株式會社【設立】大正14年8月【營業科目】各種機械一般、電氣諸機械、器具、材料、各種計器塗料、燈房、建築材料、ポンプ一式、ディーゼル機關、工作器械、其他一般代理業【資本金】5萬圓【店主】中村榮治郎【支配人】井上邦雄【電話長】3697、4271受電略號タイレン、ナカムラ、振替口座大連3029】

株式會社
南昌洋行大連支店
大連市山縣通88

【本店】（撫順）支店、東京、大連、青島、吉林【設立】明治44年11月【營業科目】石炭採掘販賣、保險代理業、貿易業【資本金】100萬圓【社長】齊藤茂一郎【取締役】藤崎三郎助、加藤重徳、小林敬次郎【監査役】高橋是賢、高橋徳太郎【支店長】小林敬次郎【電話6111、長6112】

株式會社四川商店
大連市紀伊町20

【創立】大正5年株式組織變更大正13年【營業科目】鐵材、硝子、建築材料、暖房用品、機械工具、ポンプ各種原動機時計、煙草、洋酒、雜貨【資本金】50萬圓【拂込】30萬圓【代表取締役】西川高嶺【取締役】西川不二雄、難波勝治

西森造船所
大連市乃木町14

【設立】明治40年10月【營業科目】各種船舶建造並に修理、諸汽機及機械製作並に修理、一般鐵工事【店主】西森吉治

株式會社日清印刷所
大連市大江町2

【設立】昭和4年2月1日【營業科目】印刷一般【資本金】10萬圓【代表取締役】門田新松【取締役支配人】岩木猪胤

ニ、唐地、甲谷陀、歴山、モンバサ、リ
パール、漢燐、組膏、グラス【設立】明治
25年【營業科目】棉花、糖絲布、生絲、羊毛
黃麻、麻製品、米其他雜貨【資本金】2千萬
圓【重役】社長南郷三郎、取締役大岡敬雄
中村利三郎、山川萬吉、加藤末雄、日置保
彦、監査役武内和吉、瀧川儀作、野川吉兵衛

日本郵船株式會社
大連出張所
大連市山縣通181

【本店】東京【支店】橫濱、名古屋、大阪、
神戸、門司、長崎、大連、マニラ、青島、
上海、漢口、香港、廣東、新嘉坡、孟買、
甲谷陀、倫敦、桑港、沙市、組膏、市俄古、
ホノルル、ロスアンゼルス、カイヤオ【設
立】明治18年10月1日【營業科目】海運業【資
本金】106,250,000圓【積立金】4,300萬圓【重
役】社長各務謙吉、副社長大谷登、事務小
松原定吉、渡邊水太郎、清水安治、大連出
張所長山口啓三【電話】3739、7846

日滿通信社
大連市佐渡町18

【設立】大正10年4月25日【營業科目】新聞通
信【社長】津上善七、【理事】齊藤善之助、【編
輯長】小野傳

ハビフヘホ

橋詰洋行
大連市大山通64

【設立】大正9年12月1日【營業科目】寫真機
械材料、活動寫真機材料、直輸入販賣【店
主】橋詰桑太郎

眼部皮革所
大連市榮町15

【設立】大正2年2月【營業科目】靴用皮革材
料一式卸賣、ダンス靴クリーム代理店【店
主】堀部謙【支配人】堀部元【電話】6488、振替
口座大連0096

花乃屋支店

大連市山縣通152

【設立】大正2年2月【營業科目】和洋各種菓子
類製造販賣並に滿洲土產菓子販賣【店主】伊
藤正太郎【電話】6698

濱恒材木店

大連市法路町18

【本店】大連市濱路區木津川町【出張所】小樽
銅路(北海道)、青島、吉林東大灘大吉合名
會社【木材置場】大連市明治町【設立】明治33
年10月【營業科目】材木、枕木商及び貸家業
【店主】濱竹松【電話】5146、5147、振替口座
大連1241

合名會社原田組

大連市山縣通21

【本店】大連、【支店】奉天、大阪、東京【出
張所】新京【設立】明治35年【營業科目】鐵鋼
機械工具油印工業用品【資本金】500,000圓
【重役】原田猪八郎、小田村信一【支配人】大
浦徳身

株式會社日立製作所

大連販賣所

大連市山縣通16

【本社】東京市麹町區丸ノ内2丁目12(電話丸
ノ内2391)【營業所】大阪、福岡【販賣所】名古
屋、札幌、京城、大連【工場】日立工場(茨
城縣)龜戸工場(東京府)笠戸工場(山口縣)
【設立】大正7年10月【營業科目】發電機、變
壓器、電動機、配電盤、ホイラー、タービ
ン、エレベーター、電車用品、扇風機、電
氣計器類、電氣收塵裝置、電氣爐、電熱器
電解槽、水車、唧筒、起重機、捲揚機、送
風機、空氣壓縮機、冷凍裝置、蒸汽機關車
電氣機關車、鐵路用諸機械、鐵道用諸機械、
鑛管、油清淨機、電氣冷藏庫、電弧熔接機、
ロードローラー、各種電線、レールバンド
絶緣ワニス、コンパウンド、ローダーサイ
レン【資本金】1,000萬圓(全額現込済)【積立

金】450萬圓【大連販賣所主任】石塚晴美(電
話6394)【重役】取締役會長鮎川義介、取締
役社長小平浪平、常務取締役古山石之助、
六角三郎、高尾直三郎、取締役竹内維彦、
伊藤文吉、監査役堀哲三郎、下河邊建二。

二葉成文堂

大連市濱路町84

【設立】明治42年6月8日【營業科目】印章彫刻
物品販賣(篆刻)【店主】二葉彦平【電話】733
振替口座大連2800

復州鑛業株式會社

大連市山縣通18

(大倉ビルディング内)

【出張所】遼寧省復縣五湖嘴【設立】昭和4年
2月13日【營業科目】復州產耐火粘土各種採
掘販賣【資本金】50萬圓【重役】取締役社長小
住善藏、取締役福井米次郎、佐志雅雄、相
生常三郎、監査役林田精一。【電話】6715

福井組

大連市近江町32

【支店】東京、大阪、鞍山【出張所】石河、大石
橋、興城【工場】大石橋【設立】明治39年3月
【營業科目】復州耐火粘土、黑松林滿鐵礦、
旅順硅石、白硅石、滑石、マクネサイト及
クリンカー、ドロマイト、耐火煉瓦各種滑
鐵及地金類【店主】福井米次郎【事務】福井恒
義【支配人】小田島宇藏

福井高梨組

大連市東公園町39

【支店】奉天、新京【出張所】旅順、瓦房店、
大石橋、營口、鞍山、蘇家屯、鐵嶺、四平
街、安東【設立】大正12年12月【營業科目】土
木、鐵路、建築、勞力供給、設計監督【資
本金】10萬圓【積立金】35,000圓【店主】共同
經營福井猪和太、高梨勉一、岡武雄。

福盛號

大連市監道通42

【支店】營口、ハルビン【設立】昭和2年1月5
日【營業科目】紙印刷機械材料印刷用インキ
【資本金】23,000圓【店主】合資會社無限社員
方徳明、別所友吉。

福昌華工株式會社

大連市埠頭橋内

【出張所】營口南本街6、旅順埠頭橋内【設立】
大正15年10月28日【營業科目】大連埠頭橋内
荷役及營口旅順石炭荷役請負並に附帯する
諸業務一切【資本金】180萬圓【重役】事務取
締役秋山卯八

藤川商店

大連市入船町14

【設立】大正5年【營業科目】ノエルト、ルー
ノリング、ヒツチ、ペイント、塗料、鉛管
鉛板、瓦斯管、亞鉛板、洋釘、タイル、張
煉瓦、洗面器、便器、シスタンク、給水栓
各種、水道、衛生、暖房、屋根工事請負【代
理店】米國ケーテンゲイト會社、米國リチ
トートソン會社、英國サローシフワシロー
會社【特約店】佐治製陶所、森製陶所、東洋
陶器株式會社【店主】藤川萬助【電話】長4639

株式會社

藤澤友吉商店出張所

大連市山縣通7

【本社】大連市東區道修町2丁目【支店】東京
京城【出張所】大連、上海【工場】大連市西
川區加島町、香川縣綾歌郡林田村、徳島縣板
野郡瀬戸町香川縣木田郡屋島村【營業科目】
藥種問屋、藥品輸出入、化學製藥【支配人】
林茂治郎【電話】22391

藤沼洋行

大連市紀伊町57

【支店所在地】奉天、新京【設立】昭和6年7
月【營業科目】綿糸布、砂糖、紙類、麻袋【店
主】藤沼誠一郎

古河電氣工業株式會社
大連販賣店
大連市山縣通113

【本店】東京【理化試驗所】東京市荏原區【販賣店】大阪、門司、札幌、京城、大連、上海、臺北【滿洲國駐在出張員事務所】奉天、新京、哈爾濱【工場】日光、橫濱、門司、尼崎【設立】明治29年6月【營業科目】電線及電氣機械器具製造販賣【資本金】2千萬元【積立金】451萬圓【重役】社長中川末吉、專務取締役杉本五十鈴、取締役三谷一二、長谷川謙太郎、萩野元太郎、利根川守三郎、鈴木元、金子智、監査役平沼亮三、青木菊雄、鈴木恒三郎、大連販賣店長西田善藏【電話5131、8088】

扶桑海上火災保險
株式會社大連出張所
大連市山縣通53
山縣第一ビル

【本店】東京麹町區丸ノ内2丁目21【設立】大正6年12月21日【營業科目】海上保險、火災保險及び運送保險【資本金】1千萬元【積立金】360萬圓【重役】取締役會長小倉正恒、專務取締役小山九一、取締役平生鈞三郎、三倉滋、山岸智夫、監査役山下龜三郎、矢島富造、大連出張所員杉山太郎

保祥公司
大連市越後町24

【設立】大正15年2月【營業科目】軍用保護自動車、自動三輪貨車、サイドカー、自動自轉車、乗用自動車、ガソリン計量機並に貯藏装置、工作機械、ポンプ各種、金華ベルト塗料、消火器、蠟油、其他諸機械器具電氣機械類【店主】保田元三郎【電話4916】

星ヶ浦土地建物株式會社
大連市愛宕町35

【設立】大正8年9月【營業科目】土地建物の賣買及賃貸、土地建物の管理引受並に賣買仲

介、建築の請負、前3項に關聯して必要の業務【資本金】300萬圓【積立金】2千圓【重役】社長野津孝次郎、取締役山田三平、齊藤繁太郎、鈴木兼重、取締役兼支配人山崎寅八、監査役梅常藏、橋本與一郎

マミムメモ

合資會社丸二商會
大連市敷島町6

【設立】大正13年6月1日【營業科目】海陸運送業【資本金】5萬圓(全額拂込済)、決算期11月末【代表社員】佐志雅雄、梶山善樹【支配人】久保衛門

合名會社丸山洋行
大連市若狹町6

【創業】明治39年【改組】昭和7年7月【營業科目】建築材料販賣、鋼鐵製家具類、工事請負業【資本金】10萬圓(全額拂込済)【代表社員】小林義三郎【電話】長3409番【振替口座】大連58番【取引銀行】正隆銀行

滿洲金物株式會社
大連市伊勢町55

【工場】大連市永樂街15【支店】奉天千代田通37倉庫大連西通9【出張所】新京第1條通【設立】昭和7年2月【營業科目】一般金物製造販賣並に是に附帶する一切の業務【資本金】30萬圓【專務取締役】前澤龍雄【常務取締役】寺田庄太郎

社團法人滿洲技術協會
大連市山縣通18
(大倉ビル)

【設立】大正13年【目的】技術の進歩發達と技術者の向上親睦とを圖り以て社會の福利を増進するを目的とす【會長】貝瀬謙吾、【副會長】小山朝佐、根橋誠二【理事】藤根壽吉、佐藤俊久、野田清一郎、山岡信夫【監事】森川莊吉、野中秀次

滿洲起業株式會社
大連市北大山通13

【出張所】奉天【設立】大正8年12月1日【營業科目】1. 諸般の企業、放資並に受託、2. 不動産、有價證券の賣買、3. 株式社債の引受、4. 前各項に關する附帶事業、5. 一般代理業【資本金】100萬圓(全額拂込)積立金5,000圓【社長】千田次郎【取締役】千田保太郎、勝弘貞次郎、小田要一【監査役】木下金次

滿洲製麻株式會社
大連市日吉町1

【工場】日吉町1【設立】大正6年5月22日【營業科目】麻袋、麻布、帆布、麻糸の製造販賣【資本金】100萬圓【積立金】98,000圓【重役】專務取締役井上輝夫

滿洲電氣合資會社
大連市伊勢町32

【支店】新京六馬路二號、龍江驛前【設立】大正8年7月5日【營業科目】電線路建設請負、電燈電力諸工事、電氣一般材料機械輸入製作販賣【資本金】10萬圓【重役】代表社員副島干城【電話5173】

滿洲報社
大連市常盤町29—31

【支社】日本、滿洲各地に支社、分社93箇所【設立】大正11年7月【營業科目】漢字日刊新聞發行【資本金】30萬圓【重役】社長西片朝三、理事曲大川、運津廷、金念曾、兼主幹久留宗一、支配人橋秀一【電話社長室21814、經理部4034、22462編輯部7513】

滿洲綿花株式會社
大連市下荻町40

【支店】東京市麹町區內幸町1ノ3正求堂ビルアインケ内【設立】大正15年10月20日【營業科目】1. 棉花の買入及加工 2. 棉花及種子の販賣【資本金】100萬圓【積立金】7,600圓【取締役社長】榊山資英【專務取締役】齊藤茂一

【取締役】門野重九郎、井坂孝、朝倉傳次郎、高木陸郎【支配人】矢中快輔

滿洲ペイント株式會社
大連市碓野町53

【支店】上海、天津、哈爾濱、新京【設立】大正3年2月【營業科目】ペイント塗料一式【資本金】金50萬圓【積立金】金15萬圓【社長】古澤丈作【常務】小栗半平【電話長9600、9074】

マンチュリヤ・デーリー
ニウス社
大連市淡路町7

【設立】明治41年10月18日【營業科目】英文日刊新聞及月刊「マンチュリヤ・デーリー・ニウス、マンスリー・サブリメント」發行並に歐文印刷事業の經營【社長兼主筆】濱村善吉編輯長柳澤柳太郎、營業部長千葉良一郎【電話3773、21716】

増井洋行
大連市須磨町2

【出張所】四平街日進街【設立】明治43年12月1日【營業科目】船具用品、ロープ、ウエス工業用品、綿麻、帆布、荒物雜貨竹材各種、吹、筵【店主】増井吉三郎【電話7319振替口座大連4428】

水上洋行
大連市惠比須町58

【支店】奉天若松町32、新京三笠町4丁目26、【設立】大正12年12月【營業科目】度量衡器、測量製圖器暖爐理化學機械金庫理研感光紙其他【店主】水上登三【電話6941、振替口座大連2472】

内科三好醫院
大連市信濃町13

【設立】明治44年3月【營業科目】内科専門【院長】土井三郎

南滿洲瓦斯株式會社
大連市西通117

【設立】大正14年7月18日【營業科目】石炭瓦

新製造供給並副生物販賣【資本金】1千萬圓
【拂込金】980萬圓【重役】事務白濱多次郎，取
締役員支配人志村徳造，取締役武部治右衛
門，弟子丸相造，監査役林田精一，岡村金藏

南滿洲硝子株式會社
大連市榮町2

【設立】昭和3年11月3日【營業科目】空硝硝子
硝子原料，坩堝の製造並販賣【資本金】30萬
圓【積立金】1萬8千圓【社長】中島亮作

南滿洲倉庫建物株式會社
大連市初瀬町8

【支店】開原隆盛街【設立】大正8年10月1日
【營業科目】一般倉庫業，土地建物の所有及
賣買，仲介，火災海上保險代理店，以上に
關聯する金融【資本金】125萬圓【積立金】1
萬圓【重役】社長山田三平，常務取締役鈴木新
五郎，取締役野津孝次郎，監査役土橋義助
支配人羽生英一【電話5990】

南滿洲電氣株式會社
大連市常盤橋
(中央ビルディング)

【本店】大連【支店】奉天，新京，安東，鞍山
【出張所】連山關，海城【設立】大正5年6月1
日【營業科目】1.電燈，電力の供給並此等に
附帶する事業の經營，2.電氣鐵道，乘合自
動車の經營並此等に附帶する事業の經營，
3.電氣機械器具の販賣又は貸貸，4.當會社
と同種事業に對する投資，5.所有土地建物の
賣買【資本金】2,500萬圓【事務取締役】入
江正太郎【常務取締役】高橋仁一，石橋米一
【取締役】古泉光男，武部治右衛門，【監査
役】林田精一，山岡信夫

森洋行
大連市連嶺街新座通

【本店】奉天合名會社森洋行【設立】昭和4年
12月10日【營業科目】時計貴金屬寫眞機音
器磁器【社員支店長】森拾三【員】森正二
【技術部主任】田邊福二【營業部主任】馬場太
四郎

ヤヨワ

山下汽船株式會社
大連支店

大連市山縣通199

【支店】神戸市神戸區榮町通2丁目47【營業
科目】海運業，其他【資本金】2,000萬圓(全
額拂込)【取締役社長】山下龜三郎【事務取締
役】福本真喜【大連支店長】楠木健造

山本錢莊
大連市山縣通68

【設立】大正14年10月【營業科目】大連取引所
錢鈔取引人，大連商品取引所株式取引人【資
本金】15萬圓，積立金8萬圓【店主】山本寅
之助【電話(錢鈔部)代表5141(證券部)5144】

大和染料株式會社
大連市千代田町29

【設立】大正8年12月【營業科目】硫化染料製
造(孔島牌)鞍山(マンゾール)州内一手販賣
【資本金】50萬圓(拂込25萬圓)【重役】社長取
締役大田伊之助，事務取締役福田熊治郎，
取締役安田幸雄，小林敬次郎，赤塚彌太郎
與田銀次郎，石井熊次郎，監査役齊藤茂一
郎，鈴木新五郎，辻慶太郎【電話6057，
8968，振替口座大連2081】

橫濱護謄製造株式會社
大連出張所

大連市山縣通113

【本社及工場】橫濱【販賣店】東京，大阪，福
岡，名古屋，上海，京城，仙臺，札幌，大
連，臺北【設立】大正6年5月【營業科目】護謄
製品製造販賣【資本金】380萬圓【積立金】11
萬圓【重役】取締役社長中川末吉，取締役長
谷川銀太郎，横藤元治，小室泰治，セイデ
ーチウ，デーブーグラーム，エスエムセツ
ト，監査役中田敏義，早川銀治，大連出張
所主任西田善藏

合資會社渡部商會
大連市西道48

【支店】奉天彌生町18【出張所】青雲廟13【設
立】大正12年6月1日【營業科目】煙房，衛生
水道工事請負【資本金】8萬圓【店主】渡部正
【支配人】坪川政男

(2) 奉天の部

淺野窯業部
奉天彌生町9

【工場】奉天鐵西攪軍屯【設立】大正14年3月
【營業科目】煉瓦製造並販賣【資本金】2萬圓
【店主】淺野新三郎

一厘堂
奉天青葉町

【支店】瀋陽通21【設立】明治45年5月【營業科
目】菓子商【店主】片山只一

岩間商會
奉天瀋陽通6

【支店】哈爾濱，吉林【設立】大正7年【營業科
目】木材及寶石美術品【店主】岩間甲斐之助

大倉商事株式會社
奉天出張所

奉天瀋陽通46
【本社】東京【支店】大阪，倫敦，紐育，伯林，
シドニー【出張所】橫濱，橫須賀，神戸，吳
佐世保，舞鶴，門司，名古屋，臺北，京城
大連，奉天，上海，漢口，天津，青島【設
立】明治6年大倉組商會設立【營業科目】
一般輸出入貿易，官廳御用達，諸機械類，
電氣發動機，原動機，電話機，電氣用器具
一切，無電機械，自動車，製氷冷蔵機，機
關車汽車用品，土木建築材料，鑛山用機械
煖房機械，砂糖，紙，皮革，靴，飲料品，
羊毛，ホップ，礦油，製油，石炭，骸岩，
硫安，鐵，金庫，千代田生命保險相互會社
代理店，大倉火災，英國ユニオン，ノール
ウィッチユニオン，コンマーシャル，各火
災保險代理店【資本金】1,000萬圓【出張所主
任】池田龍雄

大野一誠堂
奉天瀋陽通6

【設立】大正7年12月【營業科目】和洋紙文具

一式，印刷業【店主】大野竹次郎

大矢組株式會社
奉天出張所
奉天松島町20

【本社】鐵嶺【支店】公主嶺，新京，哈爾濱，
齊々哈爾，錦州，遼陽，海城，大連，旅順
【設立】昭和3年【營業科目】米穀其他糧食賣
買陸軍御用【店主】主任佐生惣吉

喜多商行
奉天春日町6

【設立】明治38年11月5日【營業科目】和洋雜
貨化粧品洋服類及附屬品其他【店主】河野榮

義道洋行
奉天春日町7

【設立】明治39年11月【營業科目】和歌文房具
事務用品，和洋紙加工品帳簿製圖器並用品
印刷大阪每日，奉天每日，滿洲日報其他諸
新聞取次【店主】野村久枝

合資會社木村洋行
奉天瀋陽通6

【支店】大連，哈爾濱，新京【工場】奉天【設
立】明治44年【營業科目】寫眞機械，活動寫
眞機械，光學器具，材料附屬品，寫眞藥紙
製造【資本金】10萬圓(全額拂込済)【奉天支
配人】江見澤喜造【大連支店長】辻雄之助【哈
爾濱支店長】猪飼隆一【新京支店長】三重巖

旅館九州館
奉天驛前瀋陽通6

【設立】昭和7年11月15日【營業科目】旅館業
【資本金】2萬圓【店主】出畑文雄

熊野商會
奉天瀋陽通21

【設立】大正9年2月【營業科目】洋品雜貨商
【店主】熊野光次

源隆洋行

奉天 漢通 44

【設立】大正13年7月1日【營業科目】電氣機械器具材料，金物工具建築材料，飛行機用材料各種，自動車並附屬品，陸軍各種器材工具，兵器手入消耗品一切，揮發油，モーター油，磁油【資本金】5萬圓【店主】尾形清

弘文堂書店

奉天 漢通 6

【設立】大正6年8月【營業科目】諸新聞，新刊圖書，雜誌，文具品，奉天地圖，寫真法，繪業書調製，卸小賣，明治生命保險代理店中等學校教科書指定販賣店【店主】宮阪徳治郎

弘利洋行

奉天 漢通 17

【設立】大正5年4月1日【營業科目】和洋雜貨，化粧品【店主】宮本鐵次

國際運輸株式會社

奉天支店

奉天 千代田通 12

【營業科目】1.海陸運送及運送取扱營業，2.倉庫營業，3.代辦及保證行為，4.勞力請負，5.運送火災海上保險，6.運送に関する資金の供給，7.前各項に關聯する一切の業務【電話掛所3383】支店長2908庶務係2158到著2909倉庫保險2908發送2158經理係宿直(國)4442【支店長】釘宮松三郎

小杉洋行

奉天 千代田通

【設立】明治39年3月【營業科目】食料品問屋【店主】小松與治郎

小村洋行

奉天 彌生町 7

【設立】大正12年【營業科目】柁柳細工，柁柳賣買，帆布加工，ネオンサイン架設工事【資本金】1萬圓【店主】小村國三郎

櫻屋商店

奉天 春日町 2

【本社】兵庫縣灘區【支店】東京大阪京都神戸京城釜山【設立】大正9年【營業科目】清酒釀造及販賣業【資本金】500萬圓【主任】小淵川謙三

三民藥房

奉天 彌生町 3

【設立】昭和4年8月【營業科目】藥種商，醫藥理化學用器械，衛生材料【店主】首藤首【電話3645】

七福屋

奉天 漢通 9

【支店】奉天平安通 7番地【設立】明治38年11月3日【營業科目】菓子，銘茶，洋食料品【資本金】5萬圓【店主】中村政市

濟陽館

奉天 琴平町 12

【支店】瀋陽旅館分號奉天宮島町4【設立】(本店)明治38年戰役直後(支店)昭和3年9月【營業科目】(本店)日本旅館(支店)支那式，西洋式，和式の三様(純然たる個人經營)【店主】田實久次郎

成久號

奉天 春日町 1

奉天 柳町 1

【設立】明治42年3月【營業科目】和洋菓子，製菓卸小賣，明治製菓外各會社特約【店主】成久爲藏

株式會社盛京時報社

奉天 隅田町 9

【支社】大阪，大連，新京，哈爾濱【設立】明治39年10月1日【營業科目】新聞の印刷並に販賣【資本金】35萬圓(全額拂込済)【積立金】300圓【社長】染谷保藏【主筆】菊池貞二【編輯長】大石智郎

田村商會奉天支店

奉天 漢通 33

(日滿自動車研究所)

【本店】大連山縣通【支店】大連，沙河口大正通，旅順乃木町，新京大馬路【設立】大正6年5月【營業科目】自動車自動車人力車ゴム製品生命保險火災保險【店主】田村與三郎

中和藥局

奉天 千代田通 34

【設立】大正13年4月1日【營業科目】藥種貿易【藥劑師】島井讓吉

東亞勸業株式會社

奉天 琴平町 15

【工場】奉天精米工場【設立】大正10年12月10日【營業科目】1.土地の取得經營處分，1.建築物の築造賃貸並賣買，1.農林業其他資源開發，1.前各號に掲ぐる事業に関する資金の貸付，1.移民の募集及扶助，1.農畜産物の加工賣買並委託賣買，1.前各號に附帶する事業【資本金】1千萬圓【積立金】13萬圓【社長】向坊盛一郎【専務】花井修治【取締役】錦織足喜代，横瀬花見七【監査役】佐久間卓

東亞煙草株式會社

奉天支店

奉天 加茂町 7

【本店】東京市麩町區丸ノ内2丁目【工場】大連，營口，天津，奉天【販賣所及駐在員所在地】大連，天津，奉天，營口，遼陽，安東，新京，哈爾濱，開島，青島【設立】明治39年11月【營業科目】捲煙草製造販賣煙草耕作，其他煙草に関する出資又は經營【資本金】1,500萬圓【重役】社長金光庸夫，専務取締役富澤充，取締役兼支配人，松尾晴見，取締役兼奉天支店長岩波藏三郎，取締役川村桃吾，監査役秀村得一，山本節次郎

東省實業株式會社

新京 日本橋通

【設立】大正7年5月4日【營業科目】金融，土地及建物の經營特産物其他一般生産物の賣買並びに仲介【資本金】175萬圓【重役】専務取締役杉本昌五郎，取締役津田尚道，石川忠一，監査役本倉文雄，佐方文次郎

同和興業株式會社

奉天 琴平町 16

【本社所在地】奉天【設立】昭和7年11月10日【營業科目】土地經營並に附屬事業一切，礦山森林經營並に附屬事業一切【資本金】200萬圓(全額拂込済)【重役】専務取締役，宮澤甲子三，取締役平塚安彦，取締役事業部長熊谷貫一，監査役岡田榮太郎，小谷節夫，河上律一，宮村順一

那須藥局

奉天 千代田通 16

【設立】大正11年6月【營業科目】藥種賣藥處方調劑，南京虫退治藥臭虫即滅液發賣元【藥劑師】那須要

南滿印刷社

奉天 漢通 25

【設立】大正8年11月【營業科目】各種印刷和洋紙販賣，活字鑄造販賣，【資本金】5萬圓【店主】石本力藏

橋口洋行

奉天 加茂町 8

【設立】大正6年2月【營業科目】特産物輸出商【資本金】15萬圓【店主】橋口正一

福本裝飾店

奉天 市場正門通

【賣場】春日デパート【工場】漢通町2，紅梅町10，尚草地大西邊門外【設立】大正7年9月10日【營業科目】室内裝飾和洋家具ケクブナ洋畫材料【店主】福本貞雄

福來永銀號

奉天 千代田通 10

【本店】千代田通10【支店】頂連通2【設立】大正13年11月【營業科目】金銀兩替及錢鈔業【資本金】35,000圓【店主】井上彦三郎

奉天酸素製造公司

奉天若松町38
【營業科目】工業用酸素，醫療用酸素製造，銲接切斷用器具材料，炭酸瓦斯，水素瓦斯販賣，酸素銲接切斷作業請負，カーボイト販賣【振替口座大連】3166番，假事務所奉天紅梅町6番地，電話日3700番，工場奉天若松町38番地，電話日4051番

奉天取引所信託株式會社

奉天加茂町4
【設立】大正10年7月29日【營業科目】奉天取引所に於て成立したる，錢鈔，重要物産先物取引の履行を擔保し其清算並に受渡事務及取引人に資金の融通を爲す業務【資本金】50萬圓【全額拂込済】【積立金】27萬圓【重役】事務取締役金丸富八郎，取締役山田三平，藤田九一郎，庵谷枕，三谷末治郎，監査役林田精一，榎宮張一，明石關藏

奉天窯業株式會社

奉天松島町20
【工場】奉天鐵道西【設立】大正7年3月【營業科目】煉瓦，耐火煉瓦セメントブロック等【資本金】20萬圓【積立金】1萬圓【重役】事務取締役佐伯直平，取締役中村政市，協會一監査役石田武亥，庵谷枕

前田德商店

奉天頂連通32
【設立】明治39年5月【營業科目】煙草有名化粧品有名石鹼卸商【店主】前田德太郎

松尾大正堂

奉天頂連通23
【支店】平安通14番地【設立】大正6年【營業科目】藥種賣藥，化粧品，醫療器械【店主】松尾清七

滿洲市場株式會社

奉天江の島町6
【設立】大正6年9月1日【營業科目】1)水陸產物其他の委託販賣並に賣買(2)露市場，小賣市場の經營(3)以上の外市場に關する附帶營業【資本金】40萬圓【積立金】47,170圓【重役】社長小倉輝二，取締役兼支配人香取眞策，取締役神宮敏男，藤田九一郎，監査役佐藤菊次郎，庵谷枕，林田精一

滿洲航空株式會社

奉天南埠地三經路六緯路99
【支店】東京市麹町區内幸町1丁目3番地大阪ビル内奉天航空工廠，奉天東塔飛行場【設立】大同元年9月26日【營業科目】1.滿洲國境及び滿洲國と隣接國間に於ける旅客，郵便物及貨物等の航空機による輸送，2.航空機の修理及機體の製造組立，其他【資本金】銀385萬圓【重役】取締役社長鄭垂，取締役副社長兒玉常雄，常務取締役夢田平雄，取締役石本憲治，川田順，楊文緒，根橋誠二，安邊清，監査役大屋敦，佐久間章，周培炳

滿洲自動車株式會社

奉天千代田通2
【設立】大正8年【營業科目】乗合自動車【重役】事務取締役志和俊郎，取締役染谷保藏，【監査役】西尾一五郎

滿洲製氷株式會社

奉天隅田町4
【設立】大正8年10月15日【營業科目】機械製氷，ソーダ印清涼飲料水，冷藏業【資本金】25萬圓【重役】代表取締役小杉與治郎，取締役小杉みれ，門田清太郎，監査役塚本藤次郎

滿鮮印刷社

奉天信連町23
【設立】昭和7年3月11日【營業科目】各種印刷【資本金】25,000圓【社主】武内止戈

滿洲土木建築業協會

(奉天支部)
奉天橋立町5
【設立】大正13年5月【支部長】上木仁三郎

滿洲窯業株式會社

奉天平安通8
【工場】奉天鐵道西境軍屯【設立】大正9年12月【營業科目】煉瓦，セメント製品，建築諸材料【資本金】20萬圓【積立金】29,479.85錢【重役】社長伊藤給七，事務取締役京谷松之助，監査役山根政治，多賀淺平

滿蒙毛織株式會社

滿洲奉天皇姑屯
【東京事務所】東京市麹町區内山下町1の1東洋ビル内【奉天直賣所】奉天頂連通17【電話2962】【工場】奉天皇姑屯，名古風市外萩野村【支店出張所】奉天，同城内，大連，撫順，安東，新京，吉林，哈爾濱，錦縣，清津，淮南，原城，新義州，東京，名古風，天津【設立】大正7年12月25日【營業科目】毛織毛織物の製造販賣，羊毛其他獸毛獸皮の賣買【資本金】3百萬圓【重役】事務取締役遠林眞，常務取締役權名茂雄，取締役高橋虎夫，中谷庄兵衛，丁鑑修，監査役池邊龍一，柴田善左衛門，西田猪之輔

滿洲土地建物株式會社

奉天頂連通43
【設立】大正8年11月【營業科目】建物建築設計其他附帶事業【資本金】100萬圓【積立金】7千圓【事務取締役】富村順一

南滿洲電氣株式會社

奉天支店
奉天宮島町2
【設立】大正15年6月1日【營業科目】電燈，電力の供給之等に附帶する事業の經營電氣機械器具の販賣又は貸貸【資本金】2,500萬圓【支店長】龜山亨

茂生洋行

奉天青葉町17
【設立】大正15年5月25日【營業科目】金屬研磨及鍍金材料，印刷インキ及材料，星印感光紙，星印製圖用紙，名刺，カード，繪葉書江原式調帶及附屬品，各種金銀箔【資本金】5千圓也【店主】水摩滿義

合名會社森洋行

奉天，大連，新京，遼陽
【本店】奉天【支店】大連，新京【出張所】遼陽【設立】大正9年2月17日【營業科目】時計貴金屬，寶石，製身具，鋳器，寫真機，蓄音器萬年筆，眼鏡，ブラスム，寒暖計，剃刀，麻袋其他【資本金】10萬圓也【社員】代表社員森實三郎，社員森正三，森捨三，大連支店長森捨三，新京支店長濱岡哲一，遼陽出張所長辻本嘉祐

桃井洋行

奉天加茂町5
【設立】昭和7年11月1日【營業科目】海産物並加工食料雜貨【資本金】5萬圓【店主】三好萬藏

大和屋洋品店

奉天春日町7
【支店】頂連通大和屋支店，春日デパート内【設立】明治39年【營業科目】洋品雜貨各種，化粧品，紳士用御子供用洋服類旅行道具一式【店主】加藤佐太郎【電話3094】

山本寫真館

奉天頂連通
【支店】新京中央通【設立】明治41年12月【營業科目】寫真業【店主】山本晴雄

吉川組

奉天松島町4
【出張所】大連，安東，本溪湖，新京，四平街【設立】明治42年【營業科目】土木建築請負業【資本金】20萬圓 個人訂券【社主】吉川康

(3) 沿線其他の部

旅 順

滿洲蠶絲株式會社
旅順市富士町 3
【支店】旅順、旅順絲廠、魏子高、魏子高蠶業場鞍山、鞍山蠶業場、東京市京橋區京橋3丁目2番地、東京出張所【設立】大正15年9月15日【營業科目】蠶園經營、家蠶飼育、野蠶飼育蠶種製造、生絲製造、精絲染織【資本金】100萬圓【重役】社長今井五介、事務取締役、鈴木格三郎、取締役片倉武雄、花井脩二、佐藤方平、支配人長田保美

周 水 子

小野田セメント製造株式會社大連支店
關東州周水子會泡崖屯

【本社】山口縣小野田町【工場】山口縣小野田町、福岡縣八幡市、岡山縣阿智郡、美濃村三重縣長辨郡東藤原村、大連市外週水子、平壤府外勝湖里、元山府外川内里、愛知縣名古屋市【設立】明治42年6月(本社創立明治14年)【營業科目】ポルトランドセメントの製造販賣兼諸種セメント製作品及石灰の製造販賣並に石灰石販賣【資本金】3,100萬圓【積立金】370萬圓【重役】取締役社長笠井眞三、事務取締役野宗三、常務取締役朝枝信太郎、取締役岩原謙三、毛利元恒、土屋政三、監査役大井太郎、椿巖、山本庸彦大連支社支配人岡吉壽一、支配人代理西田秀雄

滿洲福紡株式會社
大連市外周水子
【出張所】大阪市北區玉江町2丁目3番地【設立】大正12年4月1日【營業科目】綿絲紡績【資本金】300萬圓【積立金】1萬圓【重役】事務取締

役角野久造、取締役八代武次、監査役八代祐太郎、澁江友之助

金 州

内外綿株式會社金州支店
關東州金州
【設立】大正12年10月【營業科目】綿絲紡績【資本金】3,300萬圓(本店)【支配人】南日良吉

谷 本 果 樹 園
金州東門外屯 46
【販賣店】大連市白菊町30【電話】9728【設立】昭和3年12月安永乙吉氏より譲受【營業科目】果樹栽培及販賣【園主】谷本金次郎【販賣店名】金州谷本果樹園販賣所【電話】153番

三 十 里 堡

野 田 果 樹 園
南滿洲三十里堡驛前
【設立】明治45年3月【營業科目】果樹栽培、水田、牧場【資本金】15萬圓【野田稔吉】

熊 岳 城

鷹 野 農 園
熊岳城大正街 10

【本園】熊岳城【支場】沙崗、普蘭店、快馬場、偏坡子【設立】大正2年4月1日【營業科目】果樹栽培、桑園養蠶、綿羊の飼育、造林、果樹苗木養成、各種農園蠶種子球根植物の播種養成、肥料農具、農園藝用藥品其他一般農園藝に關する業務【園主】鷹野登雄【電話】熊岳城區12、32、振替口座大連640

熊岳城殖産株式會社
熊岳城中華街 1
【設立】大正6年9月16日【營業科目】(1)果實

蔬菜の賣買並果實の委託販賣(2)農業に必要な物品の購買及貸付(3)資金の融通(4)貸家業【資本金】3萬圓(全額拂込)【積立金】5千圓【重役】取締役社長古川正一、取締役杉本謙太郎、尾上整、鈴木武、監査役木橋篤二、鈴木道大【電話】熊岳城16振替口座大連1986

營 口

滿 洲 新 報 社
營口新市街
【支社】大連支社、旅順支社其他【設立】明治40年12月、新聞創刊(41年紀元節)【營業科目】新聞發行【資本金】約1萬圓【社主】小川義和【電話】營口75區169、振替大連1298

鞍 山

合資會社野毛商會
南滿洲鞍山南二條町1丁目5
【支店】遼陽、昭和通【設立】大正7年【營業科目】土木建築請負並建築材料商【資本金】2萬圓【店主】野毛四郎

遼 陽

遼 陽 電 燈 公 司
遼陽木町 7
【設立】明治44年10月17日【營業科目】電力、電燈電熱供給外に首山驛附屬地電燈供給を行ふ【資本金】30萬圓【積立金】119,679圓【重役】總辦手沖漢、支配人中村信、監事入江正太郎、高橋仁一、陳德榮、陳時昇

撫 順

撫 順 市 場 株 式 會 社
撫順東二條通 36
【支店】千金市場【設立】大正7年5月【營業科目】水陸物産委託販賣並賣買、露市場及小賣市場の經營、其他之れに附帶する事業【資本金】10萬圓【積立金】5萬圓【重役】代表取締役宮澤惟重、劉漢卿 取締役支配人大島勇

鐵 嶺

大 矢 組 株 式 會 社
鐵嶺北三條通 6 丁目
【支店出張所】大連、奉天、旅順、海城、遼陽、公主嶺、新京、哈爾濱、錦州、齊齊哈爾【工場所在地】鐵嶺、奉天、大連、遼陽、海城、哈爾濱【設立】大正9年5月【營業科目】滿蒙貿易並に委託販賣、建築材料販賣及委託販賣、米穀其他糧秣の賣買及委託販賣、味噌醬油醸造販賣、農場經營並に米麥稈糶精業【資本金】100萬圓【積立金】137,000圓【重役】取締役社長大矢奈良吉、事務取締役土片平直輔、常務取締役渡邊大徳、取締役大矢奈良造、齊藤久太郎、監査役松岡佐右衛門、高松正道

鐵 嶺 電 燈 局
鐵嶺松島町
【設立】明治43年4月1日【支局】新樂子【營業科目】電氣事業【資本金】30萬圓(全額拂込)【積立金】17,850圓【重役】局長長谷川敏、監事入江正太郎、高橋仁一、前田誠雄

開 原

開原取引所信託株式會社
開原鐵道附屬地昌平街25
【設立】大正4年12月10日【營業科目】(1)開原取引所に於て成立したる先物取引の履行を擔保し其の清算事務を引受くること(2)開原取引所の取引人に資金の融通をなすこと【資本金】200萬圓【積立金】844,000圓【重役】取締役社長王執中、事務取締役相良謙三、取締役川島定兵衛、佐竹令信、馬秀升、關廷俊、監査役佐久間京、吳恩培

開 原 電 氣 株 式 會 社
開原鐵道附屬地開原大街56の2
【變電所】開原隆盛街27【設立】大正3年3月30日【營業科目】電燈電力の供給並に之に附帶する事業の經營、電氣機械器具の販賣又は買

貸、當會社と同種の事業に對する投資【資本金50萬圓【積立金】68,095圓【重役】事務取締役千々和正彦、取締役關甲子郎、佐竹令信、石橋米一、龜山亨、監査役川島定兵衛、後藤清、王執中

四平街

信和洋行

四平街市場大街9

【本店】四平街【支店】昌圖、郭家店、八面城、鄭家屯、通遼【設立】大正9年6月1日【營業科目】石炭、セメント、セメント瓦製造販賣、支那人向ゴム底靴【店主】鶴見次世

四平街取引所信託株式會社

四平街市場大街

【設立】大正3年9月【營業科目】四平街取引所に於て成立したる先物取引の擔保清算事務四平街取引所取引人に資金融通を爲す事、【資本金】50萬圓【積立金】45,295圓【重役】事務取締役木藤精光、取締役鶴見次世、池田耕、馮士元、朱振邦【監査役】三輪環、茶谷榮治郎、王蔭階

四平街輸入組合

四平街中央大街7

【設立】昭和3年9月6日【營業科目】本邦商品の滿洲輸入増進並に在滿邦商の振興を圖る【資本金】116,950圓(拂込済)【理事】桂馨三

公主嶺

公主嶺取引所信託株式會社

公主嶺數島町1丁目3ノ2

【設立】大正8年9月2日【營業科目】公主嶺取引所に於ける先物取引の擔保清算事務引受兩所取引人に對する資金融通【資本金】50萬

圓、拂込額37萬5千圓【積立金】189,400圓決算期6月30日、12月31日【重役】事務取締役大岩峯吉、取締役海江田新之丞、小松光治、張采岸、徐會一、監査役佐久間章、石崎廣治郎、荆瑞五、支配人丹隆一

公主嶺電燈株式會社

公主嶺櫻町1丁目

【支店】郭家店車站街【設立】大正6年1月12日【營業科目】電燈及電力供給【資本金】25萬圓【積立金】93,261圓【重役】事務取締役富田登二、取締役小松光治、高橋仁一、海江田新之丞、胡仁臣、程志遠、監査役須藤清、秋化學、原口純允、劉芳園、支配人古山三郎太郎

新京

新京輸入組合

新京三笠町1の26

【設立】昭和3年2月25日【營業科目】1.組合員に對する仕入資金の貸付並に保證、2.商店經營並に商習慣の改善、3.仕入の斡旋、委託販賣の仲介、販路の擴張、4.運費諸掛の低減、5.其の他前記各項に附帶する事項【資本金】金166,700圓【積立金】金3,336.06錢【理事】久末吉次

安東

文榮堂書店

安東縣市場通4丁目4

【設立】明治38年【營業科目】書籍、雜誌、名勝エハガキ、文房具洋畫材料【店主】弓倉悅藏

滿鮮坑木株式會社

安東縣南二條通2丁目9

【支店】(吉林)【出張所】(吉敦線)蛟河、拉法站、小姑家子(吉海線)朝陽鎮(安奉線)鳳凰城、撫順【設立】大正8年12月21日【營業科目】礦業用坑木鐵道用枕木電柱用材其他一

哈爾濱

國際運輸株式會社
哈爾濱支店

哈爾濱埠頭區地段街98號

【本社】大連市山縣通221【設立】大正15年8月15日【營業科目】1.海陸運送業及取扱業、2.倉庫營業、3.代辦及保證行為、4.委託販賣業、5.直接又は間接に運送に關係ある資金の供給、6.各項に關聯する一切の業務【資本金】本社1千萬圓【哈爾濱駐在常務取締役兼哈爾濱支店長】剛崎虎雄

哈爾濱堂書店

哈爾濱地段街72號地

【設立】大正10年4月【營業科目】書籍、雜誌、文房具、事務用品【店主】小此木九三

日本

株式會社ヒシヒラ商會

大阪市西區靱北通1丁目29

【工場】大阪市東淀川區北川口町560【設立】明治18年7月【營業科目】ストーブ、ラヂエター各種暖房器具類製作建築金物、機械工具、土木工具其他【資本金】50萬圓【積立金】10萬圓【重役】社長平佐潔、常務取締役林寅之助

般原木丸太類の生産及販賣、前項に關聯する附帶事業、植林【資本金】150萬圓【積立金】128,826.50錢【重役】事務取締役福田隆、取締役前田利則、三隅英雄、監査役林田清一、宮澤愼重

本溪湖

弘文堂書店

南滿洲本溪湖水利町

【本店】奉天瀋陽通6【營業科目】諸新聞、書籍、雜誌、文具、運動具、蓄音器【店主】山田練兵

溪城鐵路公所

本溪湖

【設立】大正5年4月18日【營業科目】鐵道運輸業【資本金】57萬圓【積立金】92,800圓【理事】吉川達四郎【主事】野尻虎

本溪湖石灰公司

本溪湖石山町

【本店】本溪湖石山町【支店】奉天宮島町【設立】昭和2年【營業科目】石灰製造販賣【店主】岡本薰

附 録

(一) 滿洲國官署休日表

元旦 陽曆1月1日、2日、3日
 春節 陰曆正月1日、2日、3日、4日、5日に相當する陽曆の日
 執政萬壽 陰曆正月13日に相當する陽曆の日
 元宵節 陰曆正月15日に相當する陽曆の日
 建國日 陽曆3月1日
 祀孔 (春祭) 陰曆2月第一丁日に相當する陽曆の日
 祀關岳 (春祭) 陰曆2月春分後の第一戊日に當る陽曆の日
 端午節 陰曆5月5日に相當する陽曆の日

祀孔 (秋祭) 陰曆8月第一丁日に相當する陽曆の日
 祀關岳 (秋祭) 陰曆8月秋分後の第一戊日に當る陽曆の日
 中秋節 陰曆8月15日に相當する陽曆の日
 孔誕 陰曆8月27日に相當する陽曆の日
 年末 陽曆12月29日、30日、31日
 除夜 陰曆12月末日に相當する陽曆の日
 毎日曜日
 (備考) 本表は大正元年4月16日公布の院令第5號及同年11月29日公布の院令第18號による。

(二) 滿洲國の年中行事

(風習による)

一 月

一日 午前1時各家の男女皆早起し初めて堂門を出る時は必ず吉方に向つて喜神を迎へ後屋内に歸る。又前夜諸神の前に饗を行ひ此夜爆竹を放ち天明に至る。天明に至り各商民盡く新衣裳を装ひ各親友の家に至り叩賀する。之を拜年と云ふ。拜年の禮は3日に分ち初1日は父方2日は母方3日は妻方の親戚に至り4日から10日迄は各郷中の親友方面に行き拜年する。
 二日 黎明商家は財神を祭り爆竹を放ち庭内に席棚を建て天地の神祇を祀り地方により前に松樹2本乃至6本を植ふる高さは丈餘で桃符を貼り燈籠を張る。
 五日 破五と云ふ婦女始めて縫紉をするのである。4日から6日に至る3日間は地方に依り商家で所有する凡ての貨物の値讀をする。之を盤貨と云ふ。
 六日 此日商家は中日の間切賣をする風が

ある。
 九日 玉皇上帝の誕生日で各商民皆廟に詣り香を焚き禮拜する。
 十日 俗に穀生日と稱し各戸皆粟食を作る。
 十五日 此日の晚元旦と同じく各神を祀る。13日から17日迄5日間を燈籠と云ふ。夜に入ると各大街皆燈を掛け各家の婦女も出て之を觀る。各郷の子供は皆龍燈彩船及び高脚等の遊戯をして沿街を巡遊する。之を秧歌と云ふ。又此間を元宵節と云ひ粉髪を以て祖先を祀り街市に張燈する。此日男女出遊して平沙を歩む。然るときは年中病災に罹る事なしといひ之を走百病と云ふ。
 二十五日 龍王日と呼ぶ。各家皆獨頭の蒜を門口に掛けて病を避ける。小兒女は五彩を剪つて圓形とし採練を以て之を穿つたものを帯びる。之を小龍尾と云ふ。家

々皆合菜を食ふ。諺に龍日吃合菜と云ふ以て豐年の兆とする。
 二十八日 藥王の誕生日である。

五 月

五日 端午節で各商民皆酒進する。又門戸に蒲艾を懸け角黍を包み糯米を食ひ雄黄酒を飲み門前胡蘆を掛ける。婦女は採練を以て小囊を製して髪を覆ひ或は布を以て虎を作り兒の肩に繋ぎて除災の意とする。
 十三日 俗に關帝單刀會と云ひ12日を俗に關帝磨刀期と云ふ。旱天と雖も必ず雨が降ると傳へて居る。

六日 土用の入りで蟲王廟會がある。各菜園牲を備へて神を祭る。此日多く衣を曬し書を曝す。又各郷民は多く豚を殺して酒進し又麵を食ふ處もある。
 十九日 觀音堂で演劇祀神する。
 二十四日 關帝廟會がある。

二 月

二日 花朝と云ふ。又俗に龍騰頭日と云ひ家毎に豚肉及饅頭を食ひ夜に至ると各處に蠟を點する。名附て照蠟蠟と云ふ。又中雷神の誕生日として各家皆祭壇を設け婦女は裁縫を忌む。

三 月

三日 清明節である。各城では城隍神を出巡する。此日は神像を擔ぎ儀仗を用ひ鼓樂を以て前導し城北に至つて海主の孤魂を祭る。
 十四日 地藏菩薩の誕生日である。
 十六日 城隍奶奶の誕生日である。又山神廟の祭日で地方の人參商は相集つて廟内で演劇し山村の居民は牲を具へて之を祀る。

二十八日 東嶽大帝の祭日で3月1日から末日に至る。山東泰山の神を祀るものである。各處の東嶽廟に祭禮がある。

四 月

八日 佛の誕生日である。
 十五日 呂祖の誕生日である。
 十八日 海神の誕生日である。此日から3夜間は姪々神聖會と云ふ。此日午飯に多く包子を食ふ。又小兒7、8歳なるものは此日に留髮し廟に詣り僧侶の唱合を受け家に歸る。風がある。之を跳鬪と云ふ。廟から家に歸る時後方を顧みるを禁ずる。斯の如くすれば其子が壯健であると。

六 月

七日 織女渡河の日で各家の兒女夜間織女神を供祭する。
 十五日 中元節で又鬼節と稱する。鬼とは幽魂の意である。即ち魂祭で各家諸神先祖を祭り各城では城隍神郊外に出巡し各縣官衙の郊外に至り無主の孤魂を祭る。

七 月

十五日 中秋節で各商民皆酒進する。俗に祭太陰又は供月と云ふ。

八 月

九日 重陽節と云ひ、各家皆豚を殺して美食する。此日芋及び白菜を豚肉に合して煮る者が多い。又菊花饅頭を食ふ。

九 月

十七日 財神の誕生日で各商家で之を祭り皆廟に詣り祭禮する。

十 月

一日 此日も亦鬼節と稱し城隍神へ出遊して魂祭すること清明及7月15日と同じ。此日風墓祖に祀り送寒衣と云ふ。又此日から窮臘を開き綿衣を放ち以て窮民を濟す。

十一月

冬至 此日各戸夜間皆先祖諸神を祭り各屯は皆豚を殺して包子を食ひ地方の苦力も亦開宴すること略正月と同じである。名づけて蒸食と云ふ。

十二月

八日 各家皆百菓及び各種糧を用ひ粥として食ふ。之を臘八粥と云ふ。

二十三日 晩に臘を祭り糖瓜を用ひる。之を辭臘と云ふ。各家の祭後臘神像を撤去し33日目に至つて新しきものに換へる。又此日を過小年と云ふ。盛に爆竹を放つ。此日の前後數日は家々に餃子を食ふ風がある。

除日 早朝各神像祖先の前に祭物を陳設供獻し燭を點じ香を焚き朝六時に至つて茶酒を濯ぎ祭神の禮を行ふ。各神の名は關帝張仙、觀世音菩薩、財神等で又中雷神、

雷神、門神等の各神は商民盡く之を祭。午後に至りて各家家長點食水菓等の物を子弟婦女等に分ち家長から以下皆銀錢を分つ。之を壓歲錢又は守歲錢と云ふ。此日朝から爆竹を放つこと絶えぬ。晩に家の内外に點燈し親友交賀する之を辭歳と云ふ。三更に至つて罷める。未だ墓祭をせぬ家では此夜巷に紙錢を焚く之を燒包袱と云ふ。次で一族拜賀し各袋錢を分ち團聚飲食する。又終夜就寢せぬものがある之を守歲と云ふ。又年末には各家は門口に對聯と稱し紅色の紙片に吉祥文字を書いたものを貼付けて新年を迎へる。以上の年中行事中各廟の會期には大廟内に演戲臺があつて演戲する。凡そ公廟で多くは信徒の奉納に係る。又爆竹は婚喪等の外、所謂紅事白事に論なく盛んに之を用ひる。

(三) 度量衡

(1) 民國權度法

民國各地で行はれる度量衡は通貨と同じく到る處之を異にし其複雑な事は吾人の想像だも及ばぬ處であるが官用其他一般に通ずるものとしては權度法(度量衡法)に依り一定されて居る營造尺庫平制である。營造尺とは明、清政府の工部で用ひた標準尺の名で庫平とは支那在來官廳の標準秤を呼ぶ今其制度を述べれば下の通りである。

長度 毫=0.0001尺
釐=0.001尺(10毫)
分=0.01尺(10釐)
寸=0.1尺(10分)
尺=單位(0.32メートル)
步=5尺
丈=10尺(2步)
引=100尺(10丈)
里=1.800尺(180丈)

地積 毫=0.001畝
釐=0.01畝(10毫)
分=0.1畝(10釐)
畝=單位(6.000方尺)
頃=100畝

容積 勺=0.01升
合=0.1升(10勺)
升=單位(316方寸)
斗=10升
斛=50升(5斗)
石=100升(10斗)

重量 毫=0.0001兩
釐=0.001兩(10毫)
分=0.01兩(10釐)
錢=0.1兩(10分)
兩=單位(攝氏4度の純水1立方寸の重量が0.878475兩)
斤=16兩

(2) 日滿露度量衡比較

Table with 4 columns: 營造尺庫平制, 高麗權度通制, 日本, 露. Rows show conversions for length (0.000032, 0.032) and weight (1.800000, 0.125000).

Large comparison table with 4 columns: 營造尺庫平制, 高麗權度通制, 日本, 露. Rows include length (寸, 尺, 丈, 里), area (畝, 頃), volume (升, 斗, 斛, 石), and weight (毫, 釐, 分, 錢, 兩, 斤).

(3) 滿蒙主要地方日滿度量衡比較

Table comparing measurements in Manchuria and Korea. Columns include location (地方), measurement type (尺, 寸, 斗, 斤), and values for various regions like 遼寧, 吉林, 黑龍江, etc.

| 地 方 | 大 尺 | | 一 尺 | | 一 斗 | | 一 斤 | |
|--------|--------|-------|-------|---|-------|-------|-------|-------|
| | 尺 | 寸 | 尺 | 寸 | 斗 | 升 | 斤 | 兩 |
| 德島 德島 | 1.120 | — | — | — | 1.540 | 147.0 | — | 150.0 |
| 德島 中安山 | 1.750 | 1.150 | — | — | 1.919 | 154.3 | 2.420 | 150.1 |
| 德島 新島 | 1.750 | 1.150 | — | — | 1.916 | 143.8 | 2.420 | 144.0 |
| 德島 新島 | — | 1.150 | — | — | 1.840 | 149.8 | 2.059 | 147.0 |
| 德島 新島 | 1.700 | 1.130 | — | — | 1.673 | 155.5 | 1.051 | 2.130 |
| 德島 新島 | 2.118 | 1.150 | 1.030 | — | 1.651 | 144.0 | — | — |
| 德島 新島 | 1.625 | 1.145 | 1.050 | — | 1.550 | 142.0 | — | — |
| 德島 新島 | 2.075 | 1.154 | 1.070 | — | 1.455 | 145.0 | — | — |
| 德島 新島 | — | 1.120 | — | — | 1.400 | 143.0 | — | — |
| 德島 新島 | — | 1.140 | — | — | 1.500 | 140.8 | — | — |
| 德島 新島 | — | 1.153 | — | — | 1.573 | 155.5 | — | — |
| 德島 新島 | — | 1.150 | — | — | 1.380 | 155.0 | — | — |
| 德島 新島 | 2.035 | 1.135 | 1.035 | — | 1.350 | 143.0 | — | — |
| 德島 新島 | 2.100 | 1.150 | 1.050 | — | 1.573 | 155.0 | — | — |
| 德島 新島 | — | 1.148 | 1.050 | — | 1.573 | 155.0 | — | — |
| 德島 新島 | — | 1.150 | 1.030 | — | 1.720 | — | — | — |
| 德島 新島 | — | 1.153 | 0.020 | — | 1.810 | 151.5 | — | — |
| 德島 新島 | — | 1.150 | — | — | 1.462 | 154.3 | — | — |
| 德島 新島 | 1.750 | 1.140 | — | — | 1.670 | 149.0 | — | — |
| 德島 新島 | — | 1.150 | 1.040 | — | 1.590 | 154.3 | — | — |
| 德島 新島 | 1.550 | 1.154 | — | — | 1.343 | 146.6 | — | — |
| 德島 新島 | — | 1.150 | — | — | 1.360 | 138.0 | — | — |
| 德島 新島 | 3.063 | 1.163 | 1.160 | — | 1.650 | 152.9 | — | — |
| 德島 新島 | 2.075 | 1.154 | — | — | 1.520 | 156.0 | — | — |
| 德島 新島 | — | 1.154 | — | — | 1.790 | 154.3 | — | — |
| 德島 新島 | 1.380 | 1.130 | — | — | 1.730 | 148.8 | — | — |
| 德島 新島 | 1.750 | 1.140 | — | — | 1.800 | 154.3 | — | — |
| 德島 新島 | — | 1.150 | — | — | 1.000 | 154.3 | — | — |
| 德島 新島 | — | 1.150 | — | — | 1.930 | 143.0 | — | — |
| 德島 新島 | — | 1.150 | — | — | 1.530 | 133.0 | — | — |
| 德島 新島 | 1.750 | 1.140 | — | — | 1.920 | 147.0 | — | — |
| 德島 新島 | — | 1.140 | — | — | 2.100 | 145.0 | — | — |
| 德島 新島 | 2.125 | 1.150 | — | — | 1.660 | 147.0 | — | — |
| 德島 新島 | △1.033 | 1.285 | — | — | 1.738 | 140.0 | — | — |
| 德島 新島 | △0.986 | 1.137 | 1.035 | — | 2.220 | 145.0 | — | — |

(備考) 本表は諸縣調査課編(測量の大勢)に據る

(四) 讀史年號早見表

注 意

1. 本表は倒叙的に配列した。
2. 西暦1700年以降は累年にしたが、其以前は中國曆を中心とし、神武天皇御即位年を以て打切りとした。
3. 西暦1700年以前中國曆の肩小数字は當該年敷に付檢索者は適宜加減すること。

| 日本 | 滿洲國 | 中 國 | 西 洋 | 日本 | 中 國 | 西 洋 | 日本 | 中 國 | 西 洋 |
|------|-----|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|------------|
| 昭和8 | 大同2 | 中華民國 | 22 1933 | 大正 | 中華民國 | 13 1924 | 大正 | 中華民國 | 2 1913 |
| 7 | 1 | 21 1932 | 12 1923 | 11 1922 | 11 1922 | 明治 | 宣統 | 3 1911 | 1 1912 |
| 6 | | 20 1931 | 10 1921 | 9 1920 | 10 1921 | 43 | 2 1910 | 2 1910 | 42 1 1909 |
| 5 | | 19 1930 | 9 1919 | 8 1919 | 3 1919 | 41 | 光緒 | 34 1903 | 1 1909 |
| 4 | | 18 1929 | 7 1918 | 7 1918 | 7 1918 | 40 | | 33 1907 | 1 1907 |
| 3 | | 17 1928 | 6 1917 | 6 1917 | 6 1917 | 39 | | 32 1906 | 39 32 1906 |
| 2 | | 16 1927 | 5 1916 | 5 1916 | 5 1916 | 38 | | 31 1905 | 38 31 1905 |
| 1 | | 15 1926 | 4 1915 | 4 1915 | 4 1915 | 37 | | 30 1904 | 37 30 1904 |
| 大正14 | | 14 1925 | 3 1915 | 3 1915 | 3 1915 | 36 | | 29 1903 | 36 29 1903 |

| 日 本 | 中 國 | 西 洋 | 日 本 | 中 國 | 西 洋 | 日 本 | 中 國 | 西 洋 | | |
|-----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------------|
| 治 | 光緒 | 23 1902 | 天保 | 道光 | 21 1841 | 安永 | 乾隆 | 45 1780 | | |
| 34 | 27 1901 | 11 1840 | 8 | 20 1840 | 8 | 44 1779 | 7 | 43 1778 | | |
| 33 | 26 1900 | 10 1839 | 7 | 19 1839 | 6 | 43 1777 | 6 | 42 1777 | | |
| 32 | 25 2339 | 9 1838 | 6 | 18 1838 | 5 | 41 1776 | 5 | 41 1776 | | |
| 31 | 24 1898 | 8 1837 | 4 | 17 1837 | 4 | 40 1775 | 3 | 39 1774 | | |
| 30 | 23 1897 | 7 1836 | 3 | 16 1836 | 2 | 39 1774 | 2 | 38 1773 | | |
| 29 | 22 1896 | 6 1835 | 1 | 15 1835 | 1 | 37 1772 | 1 | 37 1772 | | |
| 28 | 21 1895 | 5 1834 | 8 | 14 1834 | 8 | 37 1771 | 8 | 37 1771 | | |
| 27 | 20 1894 | 4 1833 | 7 | 13 1833 | 7 | 35 1770 | 7 | 35 1770 | | |
| 26 | 19 1893 | 3 1832 | 6 | 12 1832 | 6 | 34 1769 | 6 | 34 1769 | | |
| 25 | 18 1892 | 2 1831 | 5 | 11 1831 | 5 | 33 1768 | 5 | 33 1768 | | |
| 24 | 17 1891 | 1 1830 | 4 | 10 1830 | 4 | 32 1767 | 4 | 32 1767 | | |
| 23 | 16 1890 | 9 1829 | 3 | 9 1829 | 3 | 31 1766 | 3 | 31 1766 | | |
| 22 | 15 1889 | 8 1828 | 2 | 8 1828 | 2 | 30 1765 | 2 | 30 1765 | | |
| 21 | 14 1838 | 7 1827 | 1 | 7 1827 | 1 | 29 1764 | 1 | 29 1764 | | |
| 20 | 13 1887 | 6 1826 | 13 | 6 1826 | 13 | 28 1763 | 13 | 28 1763 | | |
| 19 | 12 1886 | 5 1825 | 12 | 5 1825 | 12 | 27 1762 | 12 | 27 1762 | | |
| 18 | 11 1885 | 4 1824 | 11 | 4 1824 | 11 | 26 1761 | 11 | 26 1761 | | |
| 17 | 10 1884 | 3 1823 | 10 | 3 1823 | 10 | 25 1760 | 10 | 25 1760 | | |
| 16 | 9 1383 | 2 1822 | 9 | 2 1822 | 9 | 24 1759 | 9 | 24 1759 | | |
| 15 | 8 1832 | 1 1821 | 8 | 1 1821 | 8 | 23 1758 | 8 | 23 1758 | | |
| 14 | 7 1331 | 25 1820 | 7 | 25 1820 | 7 | 23 1757 | 7 | 23 1757 | | |
| 13 | 6 1830 | 24 1819 | 6 | 24 1819 | 6 | 21 1756 | 6 | 21 1756 | | |
| 12 | 5 1829 | 23 1818 | 5 | 23 1818 | 5 | 20 1755 | 5 | 20 1755 | | |
| 11 | 4 1828 | 22 1817 | 4 | 22 1817 | 4 | 19 1754 | 4 | 19 1754 | | |
| 10 | 3 1827 | 21 1816 | 3 | 21 1816 | 3 | 18 1753 | 3 | 18 1753 | | |
| 9 | 2 1826 | 20 1815 | 2 | 20 1815 | 2 | 17 1752 | 2 | 17 1752 | | |
| 8 | 1 1825 | 19 1814 | 1 | 19 1814 | 1 | 16 1751 | 1 | 16 1751 | | |
| 7 | 同治 | 18 1813 | 同治 | 18 1813 | 7 | 15 1750 | 7 | 15 1750 | | |
| 6 | 12 1873 | 17 1812 | 6 | 17 1812 | 6 | 14 1749 | 6 | 14 1749 | | |
| 5 | 11 1872 | 16 1811 | 5 | 16 1811 | 5 | 13 1748 | 5 | 13 1748 | | |
| 4 | 10 1871 | 15 1810 | 4 | 15 1810 | 4 | 12 1747 | 4 | 12 1747 | | |
| 3 | 9 1870 | 14 1809 | 3 | 14 1809 | 3 | 11 1746 | 3 | 11 1746 | | |
| 2 | 8 1869 | 13 1808 | 2 | 13 1808 | 2 | 10 1745 | 2 | 10 1745 | | |
| 1 | 7 1868 | 12 1807 | 1 | 12 1807 | 1 | 9 1744 | 1 | 9 1744 | | |
| 慶應 | 3 | 6 1867 | 慶應 | 3 | 11 1803 | 慶應 | 3 | 10 1745 | | |
| 2 | 2 | 5 1866 | 2 | 2 | 10 1805 | 2 | 2 | 9 1744 | | |
| 元治 | 1 | 4 1865 | 元治 | 1 | 4 1804 | 元治 | 1 | 8 1743 | | |
| 文久 | 3 | 3 1864 | 文久 | 3 | 8 1803 | 文久 | 3 | 7 1742 | | |
| 2 | 2 | 2 1863 | 2 | 2 | 7 1802 | 2 | 2 | 6 1741 | | |
| 高尾 | 1 | 1 1862 | 高尾 | 1 | 6 1801 | 高尾 | 1 | 5 1740 | | |
| 安政 | 6 | 11 1861 | 安政 | 6 | 5 1800 | 安政 | 6 | 4 1739 | | |
| 5 | 10 1860 | 11 | 10 1860 | 11 | 4 1799 | 11 | 10 1860 | 11 | 3 1738 | |
| 4 | 6 1859 | 10 | 6 1859 | 10 | 3 1798 | 10 | 6 1859 | 10 | 2 1737 | |
| 3 | 8 1858 | 9 | 8 1858 | 9 | 2 1797 | 9 | 5 1858 | 9 | 1 1736 | |
| 2 | 7 1857 | 8 | 7 1857 | 8 | 1 1796 | 8 | 4 1857 | 8 | 19 1735 | |
| 1 | 6 1856 | 7 | 6 1856 | 7 | 乾隆 | 60 1735 | 6 | 6 1856 | 7 | 12 1734 |
| 嘉永 | 6 | 5 1855 | 嘉永 | 6 | 59 1734 | 5 | 59 1734 | 6 | 5 1855 | 18 11 1733 |
| 5 | 4 1854 | 4 | 4 1854 | 4 | 58 1733 | 4 | 58 1733 | 5 | 4 1854 | 17 10 1732 |
| 4 | 3 1853 | 3 | 3 1853 | 3 | 57 1732 | 3 | 57 1732 | 3 | 3 1853 | 16 9 1731 |
| 3 | 2 1852 | 2 | 2 1852 | 2 | 56 1731 | 2 | 56 1731 | 2 | 2 1852 | 15 8 1730 |
| 2 | 1 1851 | 1 | 1 1851 | 1 | 55 1730 | 1 | 55 1730 | 1 | 1 1851 | 14 7 1729 |
| 1 | 30 1850 | 30 | 30 1850 | 30 | 54 1729 | 30 | 54 1729 | 30 | 30 1850 | 13 6 1728 |
| 弘化 | 4 | 29 1849 | 弘化 | 4 | 53 1728 | 4 | 53 1728 | 4 | 29 1849 | 12 5 1727 |
| 3 | 27 1847 | 27 | 27 1847 | 27 | 52 1727 | 3 | 52 1727 | 3 | 27 1847 | 11 4 1726 |
| 2 | 26 1846 | 26 | 26 1846 | 26 | 51 1726 | 2 | 51 1726 | 2 | 26 1846 | 10 3 1725 |
| 1 | 25 1845 | 25 | 25 1845 | 25 | 50 1725 | 1 | 50 1725 | 1 | 25 1845 | 9 2 1724 |
| 天保 | 14 | 24 1844 | 天保 | 14 | 49 1724 | 14 | 49 1724 | 14 | 24 1844 | 8 1 1723 |
| 13 | 23 1843 | 23 | 23 1843 | 23 | 48 1723 | 13 | 48 1723 | 13 | 23 1843 | 7 康照 61 1722 |
| 12 | 22 1842 | 22 | 22 1842 | 22 | 47 1722 | 12 | 47 1722 | 12 | 22 1842 | 60 1721 |
| 11 | 21 1841 | 21 | 21 1841 | 21 | 46 1721 | 11 | 46 1721 | 11 | 21 1841 | 59 1720 |

| 地方 | 日本 | 中國 | 西洋 |
|-------|-------|--------|---------|
| 京 | 享保 4 | 康熙 59 | 1719 |
| | 3 | 57 | 1718 |
| | 2 | 56 | 1717 |
| | 1 | 55 | 1716 |
| | 正德 5 | 54 | 1715 |
| | 4 | 53 | 1714 |
| | 3 | 52 | 1713 |
| | 2 | 51 | 1712 |
| | 1 | 50 | 1711 |
| | 賈永 7 | 49 | 1710 |
| 石 | 6 | 48 | 1709 |
| | 5 | 47 | 1708 |
| | 4 | 46 | 1707 |
| | 3 | 45 | 1706 |
| | 2 | 44 | 1705 |
| | 元祿 1 | 43 | 1701 |
| | 76 | 42 | 1703 |
| | 15 | 41 | 1702 |
| | 74 | 40 | 1701 |
| | 13 | 39 | 1700 |
| 兒 | 寬文 2 | 康熙(61) | 1 1582 |
| | 正保 4 | 永曆(15) | 1 1647 |
| | | 世宗(18) | 4 1647 |
| | | 隆武(1) | 1 1645 |
| | | 世祖(1) | 3 1645 |
| | 寬永 13 | 弘光(1) | 1 1645 |
| | | 世祖(1) | 2 1645 |
| | | 世祖(1) | 1 1644 |
| | | 崇禎(8) | 17 1636 |
| | 大 | 崇禎(17) | 崇禎(17) |
| 崇禎(1) | | | 1 1628 |
| 太宗(9) | | | 2 1628 |
| 順治(7) | | | 7 1627 |
| 天啓(7) | | | 1 1627 |
| 元和 7 | | 太祖(11) | 5 161 |
| | | 崇禎(1) | 1 1620 |
| | | 太祖(5) | 5 1616 |
| | | 高宗(4) | 4 1616 |
| | | 高宗(47) | 1 1573 |
| 日本 | 永祿 10 | 隆慶(6) | 1 1567 |
| | | 嘉靖(45) | 1 1522 |
| | | 正德(16) | 1 1506 |
| | | 弘治(18) | 1 1483 |
| | | 成化(33) | 1 1465 |
| | 長祿 3 | 天順(3) | 1 1457 |
| | | 景泰(7) | 1 1457 |
| | | 正統(14) | 1 1436 |
| | | 宣德(10) | 1 1426 |
| | | 洪熙(1) | 1 1425 |
| 昭 | 正平 10 | 永樂(32) | 1 1403 |
| | | 建文(4) | 1 1399 |
| | | 洪武(31) | 1 1363 |
| | | 明(6) | 1 1366 |
| | | 至正(25) | 25 1361 |
| | 大正 20 | 天統(3) | 1 1361 |
| | | 至正(23) | 23 1361 |
| | | 大統(4) | 1 1360 |
| | | 至正(20) | 20 1360 |

| 日本 | 中國 | 西洋 |
|-------|--------|---------|
| 正平 10 | 龍鳳(12) | 1 1355 |
| 7 | 至正(16) | 1 1352 |
| 6 | 治平(10) | 1 1351 |
| 2 | 至正(27) | 1 1341 |
| 3 | 至元(6) | 1 1335 |
| 2 | 元統(2) | 1 1331 |
| 2 | 至順(3) | 1 1330 |
| 3 | 致和(9) | 9 1226 |
| 2 | 泰定(4) | 1 1324 |
| 1 | 至治(3) | 1 1321 |
| 3 | 延祐(7) | 1 1314 |
| 1 | 皇慶(2) | 1 1312 |
| 3 | 至大(4) | 1 1308 |
| 5 | 大德(11) | 1 1297 |
| 3 | 元貞(2) | 1 1295 |
| 3 | 至元(17) | 1 1280 |
| 10 | 祥符(2) | 1 1278 |
| 2 | 景炎(2) | 1 1276 |
| 1 | 德祐(1) | 1 1275 |
| 2 | 咸淳(10) | 1 1265 |
| 1 | 至元(31) | 1 1264 |
| 1 | 景定(5) | 1 1260 |
| 1 | 元世祖(4) | 1 1260 |
| 1 | 開慶(1) | 1 1259 |
| 5 | 寶祐(6) | 1 1253 |
| 2 | 淳祐(12) | 1 1241 |
| 3 | 淳熙(4) | 1 1237 |
| 1 | 端平(3) | 1 1234 |
| 1 | 天興(3) | 1 1232 |
| 2 | 紹定(8) | 5 1226 |
| 2 | 李觀(2) | 2 1226 |
| 2 | 嘉慶(3) | 3 1226 |
| 2 | 獻宗(3) | 3 1223 |
| 2 | 元光(7) | 3 1223 |
| 5 | 嘉定(27) | 18 1217 |
| 5 | 興定(5) | 1 1217 |
| 5 | 光定(12) | 7 1217 |
| 5 | 嘉定 | 10 1217 |
| 6 | 寶宗(4) | 4 1213 |
| 6 | 光定 | 3 1213 |
| 6 | 嘉定 | 6 1213 |
| 2 | 嘉定 | 5 1212 |
| 2 | 嘉慶 | 1 1212 |
| 2 | 光定 | 2 1212 |
| 1 | 光定 | 1 1211 |
| 1 | 大定 | 3 1211 |
| 1 | 嘉定 | 4 1211 |
| 4 | 大安(3) | 2 1210 |
| 4 | 嘉定 | 3 1210 |
| 3 | 應天(4) | 1 1209 |
| 3 | 大安 | 1 1209 |
| 3 | 嘉定 | 2 1209 |

| 日本 | 中國 | 西洋 |
|----|--------|---------|
| 2 | 嘉定(8) | 8 1208 |
| 1 | 應天 | 1 1206 |
| 1 | 泰和 | 6 1206 |
| 1 | 開禧(3) | 2 1206 |
| 2 | 開禧 | 1 1205 |
| 2 | 泰和 | 5 1205 |
| 2 | 天慶(12) | 12 1205 |
| 2 | 嘉泰(4) | 1 1201 |
| 3 | 泰和(8) | 1 1201 |
| 3 | 天慶 | 9 1201 |
| 7 | 承安(5) | 1 1196 |
| 7 | 慶元(6) | 2 1196 |
| 7 | 天慶 | 3 1196 |
| 6 | 慶元 | 1 1195 |
| 6 | 開禧(5) | 6 1195 |
| 6 | 天慶 | 2 1195 |
| 5 | 天慶 | 1 1194 |
| 5 | 開禧(5) | 5 1194 |
| 5 | 開禧 | 1 1190 |
| 1 | 開禧 | 1 1190 |
| 1 | 乾祐(23) | 23 1190 |
| 4 | 淳熙(16) | 1 1174 |
| 4 | 大定(29) | 14 1174 |
| 1 | 乾祐 | 4 1171 |
| 1 | 乾祐 | 1 1171 |
| 1 | 大定 | 11 1171 |
| 1 | 乾道(9) | 7 1171 |
| 1 | 乾道 | 1 1165 |
| 1 | 大定 | 5 1165 |
| 1 | 天慶(22) | 17 1165 |
| 2 | 隆興 | 1 1163 |
| 2 | 大定 | 3 1163 |
| 2 | 天慶 | 15 1163 |
| 3 | 大定 | 1 1161 |
| 3 | 隆興(32) | 31 1161 |
| 3 | 天慶 | 13 1161 |
| 1 | 正隆(5) | 1 1156 |
| 1 | 隆興 | 8 1156 |
| 1 | 隆興 | 26 1156 |
| 3 | 貞元(3) | 1 1153 |
| 3 | 天慶 | 5 1153 |
| 3 | 隆興 | 23 1153 |
| 5 | 天慶(4) | 1 1149 |
| 5 | 天慶 | 22 1149 |
| 5 | 紹興 | 19 1149 |
| 1 | 人慶(5) | 1 1144 |
| 1 | 皇統(8) | 4 1144 |
| 1 | 皇統(32) | 14 1144 |
| 1 | 皇統 | 1 1141 |
| 1 | 皇統 | 11 1141 |
| 1 | 大慶(5) | 3 1141 |
| 5 | 大慶 | 1 1133 |
| 5 | 天眷(3) | 2 1133 |
| 4 | 天眷 | 9 1133 |
| 4 | 天眷 | 1 1133 |
| 4 | 皇統 | 8 1133 |
| 4 | 大慶(4) | 4 1133 |
| 1 | 熙寧 | 13 1133 |
| 1 | 熙寧 | 1 1133 |
| 1 | 熙寧 | 5 1133 |

| 日本 | 中國 | 西洋 |
|------|--------|---------|
| 天承 1 | 初興(15) | 9 1131 |
| 1 | 天正(8) | 5 1131 |
| 2 | 建康(4) | 1 1127 |
| 2 | 天會 | 5 1127 |
| 2 | 正德 | 1 1127 |
| 5 | 靖康(1) | 1 1126 |
| 5 | 天會(7) | 4 1126 |
| 5 | 天會(7) | 7 1126 |
| 3 | 元會(15) | 1 1122 |
| 3 | 天德(7) | 3 1122 |
| 3 | 宣和 | 4 1122 |
| 2 | 大保 | 4 1121 |
| 2 | 天會(9) | 5 1121 |
| 2 | 宣和 | 2 1121 |
| 4 | 天慶 | 10 1120 |
| 4 | 天慶 | 4 1120 |
| 4 | 天慶 | 2 1120 |
| 2 | 宣和 | 1 1119 |
| 2 | 天會 | 9 1119 |
| 2 | 天會 | 3 1119 |
| 1 | 隆興(1) | 1 1118 |
| 1 | 天慶 | 8 1118 |
| 1 | 隆興 | 2 1118 |
| 5 | 隆興 | 9 1117 |
| 5 | 隆興 | 7 1117 |
| 5 | 隆興 | 7 1117 |
| 3 | 太祖(收國) | 2 1115 |
| 3 | 天慶 | 5 1115 |
| 3 | 政和 | 5 1115 |
| 2 | 政和 | 1 1111 |
| 2 | 天慶(10) | 1 1111 |
| 2 | 貞觀 | 1 1111 |
| 2 | 大統(4) | 1 1107 |
| 2 | 乾統(10) | 7 1107 |
| 2 | 貞觀(13) | 6 1107 |
| 4 | 崇寧(5) | 1 1102 |
| 4 | 乾統 | 2 1102 |
| 4 | 貞觀 | 1 1102 |
| 3 | 建中(隆興) | 1 1101 |
| 3 | 乾統 | 1 1101 |
| 3 | 永安(3) | 3 1101 |
| 1 | 永安 | 1 1099 |
| 1 | 崇寧(5) | 5 1099 |
| 1 | 元符(3) | 2 1099 |
| 2 | 崇寧 | 1 1098 |
| 2 | 崇寧 | 4 1098 |
| 2 | 大統(民安) | 9 1098 |
| 2 | 崇寧 | 1 1095 |
| 2 | 崇寧 | 2 1095 |
| 1 | 崇寧 | 6 1095 |
| 1 | 崇寧 | 1 1095 |
| 1 | 崇寧 | 9 1094 |
| 1 | 崇寧 | 5 1094 |
| 4 | 天祐(民安) | 1 1090 |
| 4 | 崇寧 | 6 1090 |
| 4 | 崇寧 | 5 1090 |

| 日本 | 中國 | 西洋 |
|----|--------|---------|
| 1 | 天祐(治平) | 7 1087 |
| 1 | 大安 | 3 1087 |
| 1 | 元祐 | 2 1087 |
| 3 | 天祐 | 1 1086 |
| 3 | 大安 | 2 1086 |
| 3 | 元祐 | 1 1086 |
| 2 | 大安(9) | 1 1095 |
| 2 | 聖宗(大安) | 10 1095 |
| 2 | 聖宗 | 8 1095 |
| 1 | 元豐 | 4 1081 |
| 1 | 大康 | 7 1081 |
| 1 | 聖宗(大安) | 6 1081 |
| 2 | 元豐 | 1 1078 |
| 2 | 大康 | 4 1078 |
| 2 | 大安 | 3 1078 |
| 3 | 大康 | 1 1076 |
| 3 | 大康 | 2 1076 |
| 3 | 熙寧(10) | 9 1076 |
| 2 | 大康 | 1 1075 |
| 2 | 天禧(5) | 5 1075 |
| 2 | 熙寧 | 8 1075 |
| 3 | 天禧 | 1 1071 |
| 3 | 熙寧(10) | 7 1071 |
| 3 | 熙寧 | 4 1071 |
| 1 | 乾道 | 2 1069 |
| 1 | 熙寧 | 5 1069 |
| 1 | 熙寧 | 1 1069 |
| 4 | 咸平 | 4 1069 |
| 4 | 咸平 | 6 1069 |
| 1 | 咸平 | 1 1055 |
| 1 | 治平(4) | 2 1055 |
| 1 | 咸平 | 3 1055 |
| 7 | 治平(10) | 10 1064 |
| 7 | 咸平 | 2 1064 |
| 6 | 咸平 | 1 1063 |
| 6 | 咸平 | 9 1063 |
| 6 | 咸平 | 8 1063 |
| 5 | 咸平 | 1 1057 |
| 5 | 咸平 | 3 1057 |
| 5 | 咸平 | 2 1057 |
| 4 | 咸平 | 1 1056 |
| 4 | 咸平 | 2 1056 |
| 4 | 咸平 | 4 1056 |
| 3 | 咸平 | 2 1055 |
| 3 | 咸平 | 2 1055 |
| 3 | 咸平 | 3 1055 |
| 2 | 咸平 | 1 1054 |
| 2 | 咸平 | 22 1054 |
| 1 | 咸平 | 23 1054 |
| 1 | 咸平 | 23 1054 |
| 1 | 咸平 | 23 1054 |
| 1 | 咸平 | 23 1054 |
| 5 | 天祐(3) | 1 1050 |
| 5 | 天祐 | 18 1050 |
| 5 | 天祐 | 2 1050 |
| 4 | 天祐(1) | 1 1049 |
| 4 | 天祐 | 1 1049 |
| 4 | 天祐 | 18 1049 |

| 日本 | 中國 | 西洋 |
|------|--------|---------|
| 長久 2 | 慶曆(3) | 1 1041 |
| 2 | 慶曆 | 10 1041 |
| 2 | 天授 | 4 1041 |
| 1 | 慶曆(1) | 1 1040 |
| 1 | 天授 | 9 1040 |
| 1 | 天授 | 3 1040 |
| 2 | 寶元(3) | 1 1038 |
| 2 | 天授(11) | 1 1038 |
| 2 | 重熙 | 7 1038 |
| 7 | 景祐(4) | 1 1034 |
| 7 | 重熙(23) | 3 1034 |
| 5 | 明道(3) | 1 1032 |
| 5 | 重熙(23) | 1 1032 |
| 4 | 景祐 | 1 1031 |
| 4 | 天聖(9) | 9 1031 |
| 3 | 天聖 | 1 1023 |
| 3 | 太平(10) | 3 1023 |
| 2 | 乾興 | 1 1022 |
| 2 | 太平 | 2 1022 |
| 1 | 太平 | 1 1021 |
| 1 | 天祐(5) | 5 1021 |
| 1 | 天祐 | 1 1017 |
| 1 | 開禧(9) | 6 1017 |
| 5 | 明宗 | 1 1012 |
| 5 | 太平(9) | 5 1012 |
| 5 | 太平 | 1 1003 |
| 5 | 太平 | 26 1003 |
| 1 | 景祐 | 1 1004 |
| 1 | 景祐 | 22 1004 |
| 4 | 咸平 | 1 999 |
| 4 | 咸平 | 16 999 |
| 1 | 至道(3) | 1 995 |
| 1 | 咸平 | 13 995 |
| 1 | 淳化(5) | 1 990 |
| 1 | 咸平 | 8 990 |
| 2 | 端拱(2) | 1 988 |
| 2 | 咸平 | 6 988 |
| 2 | 咸平 | 1 984 |
| 1 | 咸平(29) | 1 983 |
| 1 | 太平(3) | 3 983 |
| 2 | 乾亨(4) | 1 979 |
| 2 | 太平(4) | 4 979 |
| 1 | 保寧(10) | 1 976 |
| 2 | 保寧 | 8 976 |
| 2 | 開禧(8) | 1 969 |
| 1 | 開禧 | 1 968 |
| 3 | 乾亨(5) | 1 963 |
| 3 | 乾亨 | 13 963 |
| 4 | 乾亨(3) | 1 960 |
| 4 | 乾亨 | 10 960 |
| 8 | 開禧(5) | 6 954 |
| 5 | 開禧 | |

昭和7年12月25日印 刷

昭和8年1月1日發 行 【普及版定價金1圓】

昭和8年5月20日再版發行

編輯人 大連市紀伊町91番地 中 溝 新 一

發行人 大連市紀伊町91番地 佐 藤 四 郎

印刷人 東京市麴町區準町4番地 小 林 又 七

印刷所 東京市麴町區準町4番地 小 林 印 刷 所

發行所 大連市紀伊町91番地 洲文化協會

933

#2287



南滿洲鐵道株式會社